



千九百一十一年

英國萬國博覽會

出品同盟會報告





英國「グラスゴ」萬國博覽會出品同盟會報告目次

第一編 千九百一十一年英國「グラスゴ」萬國博覽會

第一章 成立及事務組織

第一節 起原

第二節 事務組織

第三節 參同諸國

第二章 財源及費途

第一節 「グラスゴ」市及協贊會

第二節 收支決算

第三章 出品ニ關スル一般成規

第一節 出品規則

第二節 雜則

第三節 出品運搬並ニ荷物取扱

第四節 出品物通關規則

第四章 陳列館及其配置

第一節 會場一般設計





第二節	工業館	三五
第三節	美術館	三八
第四節	機械館	四一
第五節	農藝館及園藝館	四三
第六節	特別館	四三
一	露西亞	四三
二	加奈多	四五
三	愛蘭	四五
第五章	儀式饗宴	四七
第一節	儀式	四七
第二節	饗宴	五一
第三節	祭典	五五
第四節	紀念狀	五六
第六章	觀覽者	五七
第一節	入場制規並ニ一般觀覽者ノ狀況	五七
第二節	入場者統計	五八
第三節	貴賓ノ來觀	六〇

第七章	附屬事業	六一
第一節	諸集會	六一
第二節	「グラスゴー、ユニヴァース」紀念祭	六七
第三節	會場内ノ餘興	七三

第二編 本邦ノ部

第一章	出品同盟會ノ成立	七七
第一節	趣意	七七
第二節	成立	七八
第三節	諸規則	八〇
第四節	政府ノ補助	九一
第二章	經費	九七
第一節	收支決算	九七
第三章	日本陳列館	一〇一
第一節	陳列館ノ位置	一〇一
第二節	日本庭園	一〇三
第三節	販賣店設置	一〇四



第四節	製作法實示	一〇七
第四章	出品ノ處理	一〇九
第一節	出品ノ積出シ	一〇九
第二節	出品ノ種類	一一〇
第三節	出品ノ陳列	一一二
第四節	出品一覽表	一二二
第五章	儀式饗宴	一二三
第一節	開館式	一二三
第二節	天長節	一三一
第六章	日本出品ノ成績	一三三
第一節	出品物即賣ノ狀況	一三三
第二節	出品物賣上表	一三四
第三節	將來ノ販路	一四〇
第四節	殘品處分	一四五
第七章	事務概要	一四九
第一節	事務分擔	一四九
第二節	事務處辨	一五〇

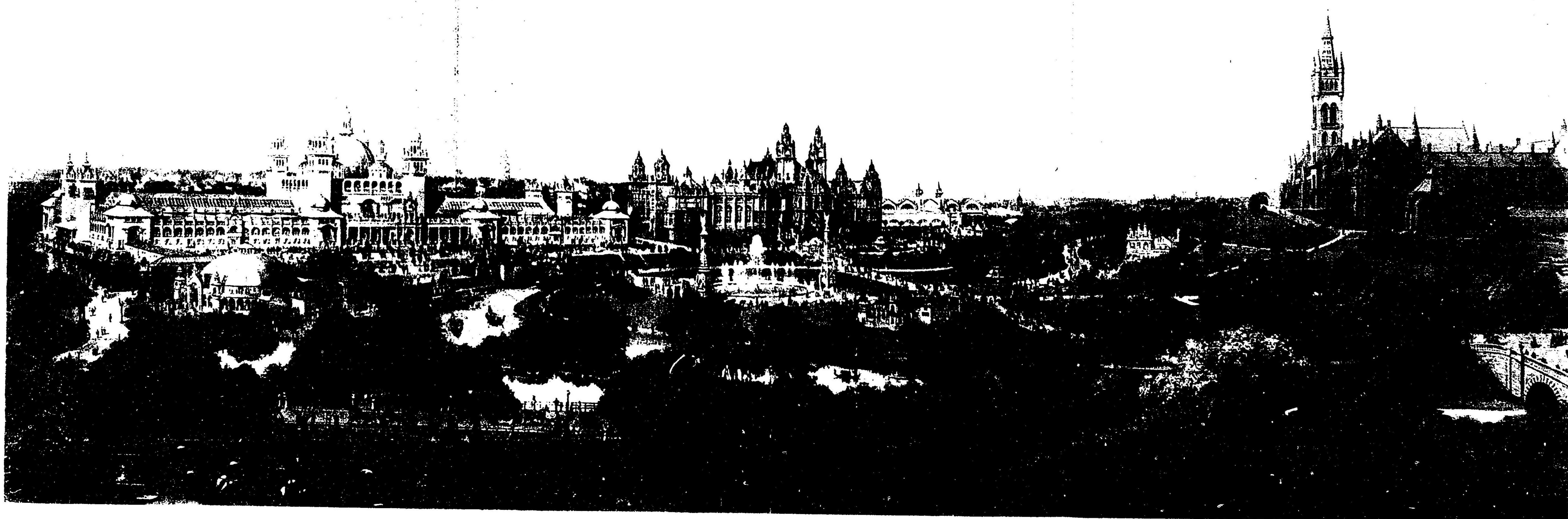
第三節	祝宴會	一五三
第八章	結論	一五五
一、	博覽會ノ好意	一五五
二、	「グラスゴー」領事ノ報告	一五七
三、	「グラスゴー」市ノ共有事業	一五九
四、	蘇格蘭概觀	一六四
五、	本會ノ成績	一六九



挿 繪 目 次

- 一 「グラスゴー」博覽會場全景
- 一 博覽會場敷地區劃圖
- 一 美術館內部
- 一 工藝館正面
- 一 機械館內部
- 一 開會式行列附「グラスゴー、ユニヴァースター」
- 一 博覽會晚餐會招待狀
- 一 紀 念 狀
- 一 日本陳列館內面縮圖
- 一 日本館內部
- 一 日本部開館式招待狀
- 一 日本館側面遠望





グラスゴー博覽會々場全景



## 英國グラスゴウ萬國博覽會出品同盟會報告

### 第一編 千九百一一年英國「グラスゴウ」萬國博覽會

#### 第一章 成立及事務組織

##### 第一節 起 原

世界ニ於ケル萬國博覽會ノ嚆矢ハ實ニ英國ニシテ一千八百五十一年倫敦ニ於テ開設シ政府ノ力ヲ假ラズ民間ニ於テ博覽會會社ナル団体ヲ組織シ五ヶ月間ノ會期中五拾萬八千磅ノ收入ニ對シテ貳拾壹萬貳千磅ノ利益ヲ得タリ。次テ千八百六十二年五月再ヒ倫敦ニ於テ工藝協會ノ企ヲ以テ萬國博覽會ヲ舉行シ其ノ組織經費ニ就テモ亦政府ノ干渉ヲ受クルコトナク一切団体ニ於テ之ヲ處理シ六ヶ月ノ會期中入場者一千六百〇三萬二千七百二十五人純益金約拾萬磅ヲ收メ得タリ之ヲ世界ニ於ケル第四回ノ萬國博覽會トナス。此ノ如ク兩度ノ萬國博覽會ハ共ニ好成績ヲ收メタルヲ以テ爾來千八百七十一年倫敦「サウス、ケンシントン」ニ於テ年々繼續的ニ工藝美術ニ關スル小規模ノ萬國博覽會ヲ開設シタリシガ其ノ第四年ナル一千八百七十四年ニ至リテ莫大ナル損失ヲ醸シ種々ノ失敗ヲ招キタルニヨリ遂ニ之ヲ廢止シタリ。爾來倫敦ニ於テ又萬國博覽會ノ舉行ヲ見ルヲ得ザリシモ北方ノ「グラスゴウ」市ニ於テ一千八百八十八年ニ至リ市ノ事業トシテ貳拾五萬磅ノ資本ヲ以テ萬國博覽會ヲ開會シタリ六ヶ月間ノ會期中來會者五百七十五萬人ニ達シ收支剩餘金約五萬四千磅ヲ生シ各種ノ方面ニ於テ



モ亦少カラサル好成績ヲ收メタルニヨリ十年ノ後ヲ期シテ更ニ大ナル規模ニヨリ再ビ舉行  
 センコトヲ豫約シタリ。此ノ豫約ニ基キテ開設セラレタルハ即チ今回ノ千九百一年グラスゴ  
 ー萬國博覽會ナリトス。開會前四年ノ千八百九十七年十月グラスゴ市會ハ市ノ事業トシテ  
 千九百一年五月「ケルヴェイングローブ」公園ニ於テ萬國博覽會ヲ開設スルコトヲ決議シ女皇陛  
 下ノ庇護ヲ仰キ翌年六月博覽會協會ヲ組織シ諸般ノ計畫ヲ立テ着々トシテ事業ノ進行ヲ始  
 メタリ。此ノ時ニ當リ前回ノ剩餘金及其ノ利子寄附金ヲ合セテ七萬四千參百四拾六磅ニ達シ  
 タルヲ以テ一大美術館ヲ建築スルコトニ決シ四年前ヨリ建築ニ着手シ開會ノ前年末ニ竣功  
 シ其ノ費額拾七萬貳千磅ニ達シタルヲ以テ不足額ハ市ノ負担トシテ之ヲ支拂ヒタリ本博覽  
 會ノ重ナル建物ハ即チ此ノ美術館ナリ

本博覽會ノ起原ハ前述ノ如クニシテ其ノ目的ハ萬國ノ生産物工藝品各種ノ器械其ノ應用及  
 ヒ學藝美術品等ヲ展覽セシムルニアリ殊ニ合衆王國及其ノ殖民地ノ現狀ヲ知り又二十世紀  
 ノ初メニ於ケル各國民ノ工藝科學及美術ノ進歩ヲ知悉セントスルニアリ

## 第二節 事務組織

一千八百九十七年十月グラスゴ市會ハ市ノ事業トシテ千九百一年五月「ケルヴェイングロ  
 ー」公園ニ於テ萬國博覽會ヲ開設スルコトヲ決議シ翌年六月博覽會協會ヲ組織シ區分ヲ定メ  
 役員ヲ撰任シテ左ノ宣言書ヲ發布シタリ

一千九百一年夏季グラスゴニ於テ開設セラルヘキ博覽會ハ近年大英國ニ於テ開設セラ  
 レタル最重要ナル萬國博覽會ノ一トナル可ク信セラル

慈愛ヲ以テ女皇陛下ハ博覽會ノ名譽總裁タルコトヲ許容アラセラレ「ウェールズ」親王殿下  
 ハ其ノ副總裁タルコトヲ許容アラセラレタリ

博覽會ハ又總テノ階級ノ間ニ熱心ナル賛成ヲ得タリ其ノ役員ノ姓名表ノ中ニハ大英國及  
 愛蘭土ノ重立チタル貴顯紳士及合衆王國ノ重要ナル首府ノ長官等ヲ見ルベシ其ノ保證資  
 本ハ既ニ四拾四萬七千磅ヲ超過シ猶増加シツ、アリ

博覽會ハ一千八百八十八年ノ博覽會ト同位地ニ開カレ同一ノ管理ヲ以テセラル其ノ計畫  
 ハ前年ト悉ク同一ニハアラサレトモ一般ノ人氣ヲ引キ立ツルコト及ヒ成效スルコトハ必  
 ス前年ヨリモ多大ナルモノアルコトヲ希望スルヲ得ベシ前回ハ其觀覽者六百萬人ヲ超エ  
 純剩餘金五萬四千磅ナリキ此ノ剩餘金ト其ノ利金トヲ合セテ更ニ個人ノ寄附金七萬四千  
 參百四拾六磅トヲ通計シタルモノヲ以テ今回大美術館ヲ建築スルコト、ナセリ此館ノ總  
 費用ハ約拾七萬貳千磅ノ豫算ナリ。大博覽會ノ建物中ノ重要ナル者トナルヘキ見込ナリ

博覽會ノ敷地ハ六十七エーカー(一エーカーハ約我四反十八步)ニシテグラスゴ市ヨリ付與セラレタルモ  
 ノニ係リ甚ダ風景ニ富ミ又便利ナル場所ニシテ即「ケルヴェイングローブ」公園及「ボンハウス」  
 「グラウン」トヲ含メル處ナリトス又「ケルヴェイン」河ハ其ノ中間ヲ貫流シテ「ギルモル」丘陵ノ  
 大學校ハ北方ニ高ク聳エ宏壯劃然タル有様ヲ保テリ



グラスゴ―市ハ蘇格蘭ノ製造業及ヒ造船業ノ中心ニ在リテ其人口七十五萬ヲ超エ近傍ニ人口多キ市區甚タ多ク且ツエデンバラ―及他ノ大市ヨリノ鐵道ヲ利用セバ一時間以内ニシテ達スルヲ得ベシ西部高地ニ至ルノ旅客ハ「グラスゴ―」ニ途ヲ取ルコト、ナレル便利ヲ有セリ

博覽會ノ計畫ハ汎ク且ツ全般ニ亘レリ大英國及其ノ屬國領分ニ殖民地等ノ產物製造物ヲ充分ニ陳列シ得ラル、ノミナラス諸外國ノ物品モ亦優ニ多數ノ陳列ヲ爲サシムルノ目的ナリトス之カ爲メニハ更ニ又特別ノ陳列館ヲ設立スルコトニ至ル可シ

博覽會ノ各部中ニ於テ特ニ左記ノ各部ハ最モ注意ヲ要スルコト、ス

美術。歴史考古。運輸交通。電氣。勞力省畧諸器械。航海器。婦人部。遊戯。  
音樂會（唱歌演奏）科學上其ノ他ノ講演裝飾點火種々ノ遊戯等ヲ觀覽者ノ爲メニ設備ス又料理店茶店其他ノ飲食店ハ會場内ニ設ケラル又郵便電信銀行等ノ便モ會場内ニ備エラレテ出品人及ヒ一般公衆ノ便益ヲ謀ルコト、ス

永久ニ保存スヘキ美術館ノ外ニ本會ノ爲メニ建築ス可キ建物ノ廣サ約ソ十三エークルノ豫定ニシテ適當ナル技師ノ設計ニ基キテ設立サルベキモノナリ「ケルプイングロ―ブ」公園ノ裝飾的花園泉池及ヒ噴水等ハ會場内ニ設ケラレ又大學ノ前面ナル丘陵ノ間ニ於テ烟花及ヒ電氣的裝飾點火音樂其他ノ餘興ヲ催フスベキコトニ適當ス。

「ケルプイン」河ハ造船業及水難救濟器等ノ陳列ニ最モ適當ス會場内ニ於テ此ノ目的ノ爲メニ利用シ得ヘキ河身ハ千五百呎ノ距離ニ達シ幅九十呎深サ六呎ナリトス

博覽會場ノ位置ハ出品者ノ爲メニ甚ダ便宜ナリ鐵道線ハ會場ノ附近ニ至リ重荷ト雖少シノ貨銀ト僅ノ手數トヲ以テ會場ニ搬入スルコトヲ得ベシ且又會場ヨリ運フ荷物ヲ上下スルニハ當地ハ其ノ貨錢等モ最モ低廉ニシテ且ツ容易ナル場所ナリトス

#### 博覽會ノ區分

- 第一部 農業及礦物ノ原料
  - 第二部 工藝及製造品
  - 第三部 器械類、電氣、勞力省畧ノ各種器械
  - 第四部 蒸氣器械類、運搬器械
  - 第五部 船舶製造
  - 第六部 光及ヒ熱ニ關スル事物
  - 第七部 科學的器械、教育音樂
  - 第八部 遊戯及遊戯器械
- 外ニ 婦人部 美術部 蘇國歴史及考古部

#### 博覽會役員

本博覽會ノパトロンタリシ女皇陛下崩御ノ後ハ現皇帝「エドワード」七世陛下更ニパトロンタ



ルコトヲ許容アラセラレタリ

總裁 ロード、ブライスウッド、ヲフ、ブライスウッド  
 副總裁 サ、ゼームス、キング、バート  
 同 サ、ゼームス、ペール、バート  
 同 サ、ジョージ、ムイア、バート  
 同 サ、ダビッド、リチモンド  
 會頭 ロード、プロボスト、シテイ、オフ、グラスゴ  
 副會頭 ジョーン、セーレル  
 同 ゼームス、ハンター、デックソン  
 名譽書記官長 サ、ゼームス、ダビッド、マーウイック  
 事務官長兼書記官長 ヘンリー、アンソニー、ヘドレー  
 外ニ名譽副總裁 二十八人 名譽委員 四十三人 名譽書記官二百三十三人  
 氏名省畧  
 博覽會ニハ行政會ノ組織アリテ實務ヲ執行スルハ即此會ナリ而シテ會長ハ總裁ニシテ副會  
 長ハ副總裁ナリトス又委員長ハ會頭ニシテ副委員長ハ副會頭ナリトス其ノ監督ノ下ニ左ノ  
 諸役員ヲ置ク  
 事務官長兼書記官長 ヘンリー、アンソニー、ヘドレー

電氣及器械課長 トーマス、ヤング  
 事務官 七名  
 書記官 三名  
 會計官 二名  
 電氣器械課長 七名  
 雜務課員 三名  
 婦人部掛 一名  
 小女俱樂部掛 一名  
 美術館掛 三名  
 以上ハ博覽會ノ執行官ニシテ此外ニ各部ニ委員會ヲ組織シ事務ノ多少ニ應シテ各適數ノ委  
 員ヲ設ケ委員長及副委員長ニ依リテ招集サル、コト、ナセリ今各部ノ委員數ヲ舉示シテ事  
 務狀況ノ一斑ヲ窺フノ資料ニ供セントス  
 一倫敦商議員會 會長ゼー、ライト、オノア、ロード、メーア  
 商議員一百四名 委員十二名  
 一入場、運輸、交通部 委員 十四名  
 一建築、瓦斯、電燈、敷地部 委員 二十五名  
 一音樂、接待、飲食、廣告、印刷部 同 二十三名



一 遊 戲 部	委 員	十 五 名
一 出 品 及 場 所 部	同	十 五 名
一 會 計 部	同	二 十 一 名
一 器 械、電 氣、光 熱 部	同	十 三 名
一 農 業、園 藝 部	同	二 十 三 名
一 工 業、科 學 部	同	十 八 名
一 教 育 部	同	二 十 五 名
一 鑛 物 冶 金 部	同	十 五 名
一 航 海 器 造 船 部	同	二 十 一 名
一 織 物 部	同	二 十 名
一 外 國 部	同	十 名
一 英 領 殖 民 地 部	同	二 十 七 名
一 美 術、歷 史、考 古 部	同	十 七 名
一 婦 人 部	名 譽 委 員	五 十 二 名
一 總 務 部	委 員	九 十 九 名
一 常 務 部	同	三 十 三 名

以上各部ノ委員ハ各其ノ專門家經驗家ヲ撰任網羅シ調査及ヒ會議ノ事項ヲ行政官ニ回致シ

テ實行ヲ見ルナリ

第三節 贊同諸國

本博覽會ハ千九百年巴里大博覽會ニ引キ續キテ開設セラレタルカ故ニ、諸外國ニ於テモ多ク出品贊同スルノ餘地ヲ有セズ。二年前ヨリ歐米各國及東洋ニ向ツテ出品勸誘委員ヲ派遣シ、猶巴里博覽會開會中ニモ委員ヲ出張セシメテ、同地ニ留レル各國政府ノ出張官又ハ出品人等ニ遊說セシメタレトモ、其ノ効果甚タ少ク、漸ク左ノ各國ヨリ出品贊同スルコト、ナレリ。

露 西 亞	政 府 贊 同
「モ ロ ッ コ」	同
波 蘭 西 斯	同
佛 蘭 西	政 府 保 護 ノ 下 ニ 出 品 團 体 贊 同
埃 多 利	同
日 本	同
丁 抹	民 業

此外ニ米國及伊太利ノ二國ヨリハ、政府又ハ団体ノ出品贊同アラサリシモ、一個人トシテ伊太利ノ「マーブル」彫像、及ヒ米國ノ造船、及ヒ電氣ニ關スル器械ノ出品アリタリ。  
英國ノ領土及ヒ殖民地ノ出品セシモノ左ノ如シ



愛蘭、印度、加奈多、「クインスランド」、西濠太利、錫蘭、南部亞弗利加(ローデシア)

愛蘭土

委員長 ダブリユー、テイ、マカートニー、ファイルゲート、

印度

會長 マーラジャ、ラフ、トラバンコール、

錫蘭

理事長 ジョージ、ペーン、

殖民地部

加奈多

事務官長 ダブリユー、デー、スコット、

副事務官長 ダブリユー、イー、ラブライト、

書記官長 ゼームス、プロデイ、

「クインスランド」

委員長 サー、ホーラス、トーザー、

支配人 ジョージ、ランドオール、

西濠太利

會頭 エーチ、ダブリユー、ベン、

ロンドン委員長 サー、イー、エッチ、ウイテヌーム、

書記官長 ジョージ、イー、トーン、

「ローデシア」

事務官 エー、プロムツヒ、

同 アール、エヌ、ホール、

外國部

埃太利

事務官長 ドクトル、リッテル、フランク、

副事務官長 ドクトル、ルドルフ、シンドレル、

以上埃國商務省派遣官

會長 フリドリッヒ、マートチル、

副會長 フリドリッヒ、スユス、

佛蘭西

名譽會長 アー、アンスロー、

會長 エミール、ジュボン、

副會長 四人



「モロツコ」

事務官

モハメット、バルカッセム、グエナ、

同

モハメット、ベンチビ、ローラル、

波斯

事務官

「グラスゴー」總領事モリーツ、

露西亞

事務官長

ゼー、ローゼンスキー、

書記官長

ビルバツフ、

日

本

後篇ニ載ス

## 第二章 財源及費途

### 第一節 「グラスゴー」市及協賛會

博覽會ハ最初三拾萬磅支出ノ豫算ヲ以テ計畫シ、市ノ事業トハイヘトモ、其ノ資本金ハ市ノ基本財産ヨリ支出シタルニアラス、又政府ヨリノ補助アリシニモアラス。全ク市民力前同ノ經驗ニヨリ、市長以下行政官ノ設計シタル處ヲ信用シ、條件ヲ定メテ銀行ヨリ借入金ヲ爲サシメ、以テ成立セシメタルモノナリ。而シテ其ノ債務者ニ當ル可キモノハ、重ニ市内貴族紳商中ノ富豪家ニシテ、是等ノ富豪家ハ博覽會協賛會員トシテ、各一人ニ付百磅以上ノ保證資金ヲ約シ、萬一博覽會閉會後收入豫算高ニ滿タス、出費ヲ辨償シ能ハサルトキハ、始メテ約諾ノ保證金ヲ集メテ金主ニ返辨スルノ方法ニシテ、此ノ會員ノ保證高ハ五拾萬磅ニ上リ、其ノ員數總計一千二百七十餘人トナレリ。會員中ニハ「グラスゴー」ノ人ノミナラス、倫敦又ハエデンバラ等ノ人士モ少カラス。而シテ協賛會員ハ營利ヲ目的トシテ引キ受ケタルニアラサルカ故ニ、博覽會ニ於テ利益ヲ得ルコトアリトモ、諸會社銀行株主ノ如ク、之カ分配等ニ與ルモノニアラス、其ノ利益ハ即市ノ收入ニ編入シ、之ヲ特別會計ニ屬セシムルコト他ノ市有事業ト同様ナリトス。

### 第二節 收支決算

一收入

三七六、九〇八<sup>磅</sup> 一一<sup>志</sup> 九<sup>片</sup>

内譯



普通入場料	一五〇、四九二 <sup>磅</sup>	四 <sup>志</sup>	五 <sup>片</sup>
シーゾン切符	九六、五二一	一九	六
場所貸與料	三四、九二四	二	一
雜 收 入	七六、二〇九	一〇	六
一支 出	二七六、四五七	五	六
内 譯			
事 務 費	四二、二九四 <sup>磅</sup>	二 <sup>志</sup>	四 <sup>片</sup>
點燈及燃料費	七、三九二	九	一
裝飾點燈及烟花費	二、八九〇	三	六
祝祭儀式費	一、七八〇	一六	五
音樂及宴會費	二六、六三七	一五	七
運動會及競技費	四、七五四	一七	一〇
地均シ建築費	一七三、四一一	五	七
雜 費	一七、二九五	一四	四
一差引合計剩餘金	一〇〇、四五一	七	三

第三章 出品ニ關スル一般制規

第一節 出品規則

第一條 本博覽會ハ女皇陛下ノ庇護ニ依リ一千九百一十年、グラスゴウ市ニ於テ開設ス

第二條 本博覽會ハ五月初旬開場シ開期ハ約六ヶ月間タルベシ

第三條 本會ニ出陳スベキ物品ハ別紙類別ニ依ルヘシ但此類別以外ノ物品ト雖出陳ヲ許スコトアルベシ

第四條 本會出品ハ一切褒賞ヲ擬セズ

第五條 本會ニ出品スル者ハ其陳列面積ニ對シテ借料ヲ拂フベシ但出品及區畫委員ノ決定ニ依ル特別ノ場合ハ此限ニアラズ

館内陳列面積借料ハ一平方呎ニ付三志トシ其ノ最少額ヲ五磅トス

一定ノ公道ヲ除キ出品者其出品ノ爲メニ取入タル面積ハ仮令空地タリトモ借料ヲ課ス

出品者壁面ノミヲ要スルトキハ其ノ趣ヲ明記シテ陳列面積ノ請求ヲナスベシ此場合ニ於テ當該委員ハ特ニ許可ノ條件ヲ定メ之ヲ其ノ出品者ニ通知スベシ

會場内館外ノ地面ハ當該委員ト協定ノ上特別ノ條件ヲ以テ之ヲ借受クルコトヲ得此場合ニ於テ出品者ハ請求書ト共ニ設計書ヲ差出スベシ但其ノ借受地ハ出品者引拂ノ際原形ニ復シ返還スルカ否サレハ其復舊費用ヲ辨償スヘシ

凡ソ陳列面積ノ貸與請求ヲナス者ハ館ノ内外ヲ問ハス其全借料ノ二割五分ニ該當スル豫



納金ヲ請求書ト共ニ差出スヘシ其殘額ハ陳列面積配付ノ通知ヲ受ケタルトキ之ヲ支拂フヘキモノトス

如何ナル場合ニ於テモ豫納金ハ五磅ノ最小額ヲ下ルヘカラス

出品物ノ搬入ハ借料全額支拂濟ノ上ニアラサレバ之ヲ許可セス

本博覽會開場期日前七日ニ至リ猶未タ陳列面積ヲ占用セサルトキハ更ニ之ヲ他ニ配付スルコトアルヘシ但之ニ關シテ既ニ拂込タル金額ハ一切之ヲ還付セサルモノトス

出品物ノ會場内運送、引渡、配置、陳列及搬出並ニ飾箱、飾屏、日除、飾臺、勘定臺等建設ニ係ル費用ハ一切出品者ニ於テ之ヲ負擔スベシ

出品物運搬、受取、荷解、配付及閉場後搬出ノ際ハ出品者若クハ其代理者之ヲ監督スベシ

出品者本規則ヲ遵守セサルトキハ事務局ハ其ノ必要ト認ムル處分ヲ爲スノ權利ヲ有ス之ニ依テ生スル一切ノ費用ハ其ノ出品者ノ負擔タルヘシ

出品物ノ盜難其他如何ナル原因ニ依ルモ其紛失及破損ニ對シ事務局ハ一切賠償ノ責ニ任セス

第六條 蒸氣及幹軸ヨリ傳フル動力ハ特定ノ規則ニ依リ事務局ヨリ無料ニテ兩ナカラ之ヲ機械館内ノ出品者ニ給與スヘシ

動力ヲ需用スル出品者ハ機械部ノ爲メニ特ニ設ケタル用紙ニ其旨ヲ記入シ請求スルトキハ事務長ヨリ之ヲ給與スベシ但枝軸、滑車、調帶、調索、鐵管等及其取付費用ハ出品者ノ負擔タ

ルヘシ

第七條 陳列面積及動力請求用紙ハ「グラスゴウ市ウツンセント、ブレース」三十六號本會事務長「エツチ、エ、ヘドレイ」宛請求スルトキハ之ヲ交付ス

出品者ハ前記用紙ニ請求事項記入ノ上一千九百年六月一日マテニ事務局ニ差出スヘシ之ニ對スル出品及區畫委員ノ決定ハ上記期日後速方ニ之ヲ出品者ニ通知スヘシ

第八條 本會ニ出品セント欲スル者ハ其出品物ノ性質ヲ陳列面積請求書中ニ詳細記入シテ差出スヘシ右請求書記入外ノ物品ハ更ニ陳列及區畫委員ヨリ特別ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其陳列ヲ許サス

第九條 事務局ハ出品拒絶ノ權利ヲ有ス但其拒絶ノ理由ハ必スシモ一々之ヲ明示スルノ責任ヲ負ハサルモノトス


第十條 各國政府ノ任命ニ係ル諸外國及殖民地事務官若クハ貿易事務官ハ本會ニ關スル事件ニ就キ渾テ本會事務長ニ向テ交渉セラルヘシ事務局ハ其交渉照會ニ應シ必要ノ通知ヲ發シ及圖面ヲ交付スヘシ

第十一條 事務局又ハ貿易官ヲ派遣セサル諸外國ノ人ニシテ陳列面積ヲ請求セント欲スルトキハ直接ニ本會事務長ニ向テ交渉スヘシ

第十二條 事務局ハ數多ノ鉄道並ニ汽船會社及運送業者ト協議シ會場出入ノ出品物運搬ノ爲メ特別ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ力ムヘシ此取扱方ニ就キテハ出品セント欲スル者ニ



向テ更ニ之ヲ通知スヘシ

第十三條 本會出品貨物ニハ其外國ノ二面ニ  ノ記號ヲ明記シ併テ出品者ノ氏名所在地名及陳列面積配付番號ヲ記スヘシ此標記ニ用フル用紙ハ各出品者ノ請求ニ應シ事務局ヨリ之ヲ交付スヘシ

第十四條 外國ヨリノ出品貨物ハ前項ニ準シ其外國二面ニ  ノ記號ヲ明記シ並ニ出品者ノ氏名國名及陳列面積配付番號ヲ記スヘシ

第十五條 飾箱、飾臺、飾屏、仕切、上床ハ特別ノ許可ヲ受クルニアラサレバ左ノ寸法ヲ超過スヘカラス

飾箱、飾屏、仕切	床上八呎
飾臺	同 二呎六吋
上床	同 一呎

但機械館内ノ仕切ハ障柵ノ高サヲ超ユヘカラス

第十六條 出品者ハ事務局長ノ認可ヲ經テ其陳列物ノ周圍ニ障柵ヲ設ケ或ハ其上ニ日蓋ヲ設ケルコトヲ得但此等ノ障柵及日蓋ハ自己ノ配付ヲ受ケタル面積以內ニ之ヲ作ルベシ  
運轉ヲ示ス機械ノ場合ハ必ス其周圍ニ堅固ナル障柵ヲ設クベキモノトス但此障柵ハ必ス一定ノ様式ニ據ルヘシ其詳細ハ陳列面積ノ配付ト共ニ之ヲ出品者ニ通知ス

第十七條 館内ノ床ヲ變更シ若クハ除去シ或ハ故ラニ之ヲ堅固ニスル爲メ特別ノ設備ヲナ

サント欲スル者ハ必ズ豫メ事務局長ノ認可ヲ受クヘシ但其費用ハ出品者ノ負担トス

第十八條 總シテ光線ノ透射ヲ妨ケ若クハ自己ノ陳列面積外ニ突出シ若クハ他區ノ見通シヲ妨ケ其他ノ出品者ニ妨害又ハ不便ヲ與フヘキ者ヲ建設、設置又ハ掲出スルコトヲ禁ス  
第十九條 館内ノ裝飾ハ均一ナルヲ主トスヘシ從テ出品者ハ豫メ事務局長ノ認可ヲ經スシテ猥リニ旗幟其他ノ裝飾物ヲ設置スルヲ得ス又飾臺、飾屏及仕切ニ用フル被布ハ事務局ニ於テ撰定ノ上館内ニ於テ之ヲ販賣セシムヘシ

第二十條 看板、標札ハ新規清潔ニシテ且適度ノ寸法タルヘシ但右ハ豫メ事務局長ノ認可ヲ經其指圖ニ從ヒ設置スヘク何レノ場合ニ於テモ光線ノ蔽遮ヲ來タス如キモノアルヲ許サス  
第二十一條 出品ニ關シテ飾箱及飾臺ニ配置シ又ハ無代價ニテ頒布スル廣告出版物等ハ豫メ事務局長及陳列及區畫委員ノ承認ヲ受クヘシ但事務局ハ何時ニテモ其許可ヲ取消スヲ得  
第二十二條 出品貨物會場ニ到着シタルトキハ出品者若クハ其代理者ハ直チニ之ヲ開キ空函ハ各自之ヲ取片付クベシ但取片付費用ハ出品者ノ負担トシ事務局ハ空函ニ就キテ何等ノ責任ヲ負ハス若シ出品者此規定ニ違反スルトキハ事務局ハ其ノ必要ト認ムル處分ヲ爲シ之ニ依テ生スル費用ヲ出品者ニ負擔セシムルノ權利ヲ有ス  
事務局ハ空函保管ノ爲メ特ニ請負者ヲ撰定シ之ニ關スル詳細ノ事項ハ更ニ出品者ニ通知スヘシ

第二十三條 出品者ハ相當ノ看守人ヲ置キ博覽會全開期中出品及飾箱飾臺ノ掃除整頓ニ從事



セシメ乱雑ナカラシムヘシ飾箱飾臺ノ上被ハ毎朝十時之ヲ披キ午後九時ニ之ヲ閉ツヘシ  
事務局ハ本條違犯者ニ向テ罰金ヲ課シ且看守人ニシテ不行狀ト認ムルトキハ出品者ヲシ  
テ之ヲ解雇セシムルノ權利ヲ有ス

第廿四條 出品者自己ノ配付面積ノ一部ヲ他人ニ讓與シ若クハ自己ノ出品トシテ既ニ認可  
ヲ受ケタルモノ、外更ニ他ノ物品ヲ陳列セントスルトキハ必ス之ニ就テ豫メ事務局ノ認  
可ヲ受クヘシ

第廿五條 凡ソ出品ニハ出品願書ニ記名シタル一個人又ハ団体ノ名稱ヲ附シテ陳列スヘシ  
第廿六條 出品者其出品説明ノ便ニ供シ併セテ觀覽者ニ其價值ヲ知ラシムル爲メ之ニ賣價  
ヲ掲クルコト隨意タルヘシ但即賣ノ爲メ觀覽者ヲ誘致シ又ハ直チニ物品ノ引渡ヲナサン  
トスル者ハ出品及區畫委員ヨリ許可ノ書面ヲ受クルニアラサレハ之ヲ許サス又會場ニ於  
テ物品ノ注文ヲ受クルハ隨意ナリト雖其物品ハ會場外ニ於テ之ヲ引渡スヘシ  
會場内ニテ製造シタル物品ニ就キテハ特別ノ規定ヲ設クヘシ

第廿七條 出品ノ全部若クハ一部ハ事務局ノ特別許可ヲ受クルニアラサレハ閉場前搬出ス  
ルヲ許サス

閉場後十五日以内ニ搬出セサル物品ハ事務局ニ於テ之ヲ保管シ所有主ヲシテ其保管ノ費  
用ヲ辨償セシムヘシ但保管中其物品ノ損害ニ對シテハ事務局其責ニ任セス若シ三ヶ月ヲ  
經テ出品者猶其處分ヲ終ラサルトキハ其物品ヲ公賣ニ附シ其賣上金ヲ以テ保管費用ニ充

ツヘシ

第廿八條 本會ノ出品ハ一千九百年十一月前又ハ一千九百一年四月後ハ之ヲ受ケサルヘシ  
但特別ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

原動機、汽罐其他特ニ基礎ノ建設ヲ要スル出品ハ前記ノ期限前ニ受入ノ取計ヲナスヘシ  
第廿九條 火及瓦斯ヲ使用スル出品者ニ對シ事務局ハ其使用ニ關スル特別ノ規則ヲ設ケ之  
ヲ勵行スル爲メ其ノ責任ヲ有スル官吏ヲ任命シテ特別ノ注意ヲ加フヘシ但出品者モ亦各  
自ノ出品ニ火災保險ヲ附スルヲ要ス

第三十條 事務局ニ於テ危險ノ虞アリト認ムル爆發物其他ノ物品ハ出陳ヲ許サス只其模型  
ノミヲ代用出陳セシムヘシ

第三十一條 酒精、油類其他ノ物品ニ害ヲ及ボシ若クハ公衆ニ不快ヲ與フヘキ物品ハ適當  
ニ且堅固ナル容器ニ入レテ出陳スルニアラサレハ之ヲ許サス

第三十二條 事務局ハ何レノ出品タルヲ問ハス之ヲ検査スルノ權利ヲ有ス  
若シ開場中出品ノ機械器具又ハ物品ノ爲メニ觀覽者其他ノ人ニ負傷損害ヲ生シタルトキ  
ハ其所有主タル出品者ハ之ニ對シテ責任ヲ負フヘシ又前記ノ負傷損害事件ニ關シ事務局  
ニ對シテ賠償ノ要求ヲ提起スル者アリタルトキハ出品者ハ一切之ヲ辨償シ事務局ヲシテ  
之ニ關シテ生スル訴訟費用損害賠償ノ關係ナカラシムヘシ

第三十三條 當該出品者及事務局ノ特別承諾ヲ得ルニアラサレハ如何ナル方法ヲ以テスル



モ其出品ヲ摸寫、攝影、臨寫若クハ複寫スルコトヲ得ス

第三十四條 事務局ハ出品者ニ無料通券ヲ交附スヘシ但看守人ニ對シテハ事務局ニ於テ相當ノ人員ト認メタルトキ之ヲ交附ス若シ他人ヲシテ之ヲ流用セシメタルトキハ其通券ハ即時無効タルヘシ

第三十五條 事務局ハ出品目録編成及出版ノ特權ヲ有ス尙ホ之ニ關スル規則ハ適宜ノ方法ニ依テ之ヲ出品者ニ告示スヘシ

第三十六條 事務局ハ本規則中何レノ條項タルヲ問ハス之ヲ改正、追加又ハ取消シ若クハ特別ノ場合ニ限り必シモ此規則ニ據ラサルヲ得ルノ權利ヲ有ス

第三十七條 凡ソ本會ノ出品者ハ本規則全部及時々事務局ヨリ發布スル他ノ規則ニ對シテ服從ノ合意ヲ爲シタルモノト認ムヘシ

第三十八條 事務局ハ本規則違犯者ノ出品ヲ會場ヨリ除去スルノ權利ヲ有ス

第三十九條 原因ノ如何ヲ問ハス出品者又ハ其他ノ人ニ屬スル出品又ハ他ノ所有品ニ就キテ生シタル紛失又ハ損害ニ對シ事務局ハ一切其責ニ任ゼズ

### 第二節 雜 則

#### 公定札紙

博覽會場内ニ送入スル出品物ニハ其外函ニ事務局ニ於テ特ニ制定シタル札紙ヲ附シ該札紙

ノ上ニ左ノ事項ヲ明記スヘシ

一 部類(事務局制定ノ出品類別ニ依ルヘシ)

二 出品者ノ氏名

三 陳列面積配付番號

此札紙ニ大小ノ二種アリ一ハ外函ニ貼付スヘキモノニシテ大札ヲ用ヒ一ハ絲ヲ附シ出品貨物ノ外部ニ貼付スヘキモノニシテ小札ヲ用フルモノトス

#### 空函預リ方

事務局ハ出品者ヨリ一定ノ空函預リ料ヲ徴シテ之ヲ保管ス其料金ハ一立方呎ニ付一片半トシ其最少額ヲ二志ト定ム但右預リ料ハ空函ヲ會場ヨリ保管所マテ運搬シ全開期中之ヲ保管シ之ニ火災保險ヲ附シ並ニ閉會後再ヒ之ヲ會場ニ搬入スルマテノ費用一切ヲ含蓄ス

大函中ニ小函ヲ詰合セ預ケ入ル、コトハ出品者ノ隨意タルヘシ又藁其他ノ可燃物ハ空函ヨリ除去シタル後ニアラサレハ其預入ヲ拒絶スヘシ

#### 看守人無料通券

事務局ハ諸工場ニテ專ラ行ハル、合札制ニ倣ヒ合札ヲ以テ通券ニ代用スルコトニ決セリ即チ入場口ニ番號ヲ附シタル板ヲ具ヘ之ニ金屬製ノ合札ヲ掛ケ看守人入場ノ節一々之ヲ受取リテ入場口旋回機附屬ノ受札箱内ニ投入スルナリ

合札通用ノ入場口ハ可成看守人ノ便利ヲ謀リ所々ニ之ヲ設クヘシ尙看守人ハ館内入場掛ヘ



申出其差圖ヲ受クヘシ

前記ノ合札ハ單ニ本人ノ通用ニ止リ他ニ之ヲ流用セシムルヲ許サス

婦人看守人私室

事務局ハ看守婦人ノ爲メニ私室ヲ設ケ一定ノ規則ニ依テ其無料使用ヲ許可ス依テ出品者ハ其部下看守婦人ノ爲メニ事務長ニ請求シ右無料私室使用券ヲ請取ルヘシ看守婦人ハ其都度該使用券ヲ掛員ニ示スヘキモノトス但此券ハ他人ニ流用セシムルヲ許サス

電氣瓦斯及用水引用料

本線及本管ニ聯絡接続スヘキ線管、綱索並ニ其接続部等取付ノ費用ハ出品者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ但白熱燈ノ場合ハ其使用料中ニ電線引用料ヲ包含スルヲ以テ此限ニアラス

(一)電氣、陳列館内ハ電氣ヲ以テ之ヲ照ス若シ出品者自己ノ陳列面積内ニ故ラニ電氣點燈ヲ

設ケントスルトキハ十六燭先白熱電燈一個ニ付線料取付費及保存料ヲ入レ各三十志ノ料金を納ムヘシ

二百五十「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ五馬力マテ

五百「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ五馬力以上

二百五十「ヴォルト」ノ電壓ヲ用ヒ調理及暖室用

(二)瓦斯

瓦斯機關ノ出品者ニ對シ

無料

他ノ出品者ニ對シ

組合申合代價

(三)用水

(目下一千立方呎ニ付二志二片)

會場ニ於テ物品ヲ製造販賣スル出品者ニ對シ一千「ガロン」ニ付四片

他ノ出品者ニ對シ

無料

唧筒其他ノ機械裝置ニ由テ多量ノ水ヲ使用スル出品者ハ其濫用ヲ防グ爲メ特ニ貯水槽ヲ設置スヘシ水道本管ヨリ直ニ水ヲ引用スヘカラス

第三節 出品運搬並ニ荷物取扱出品運搬取扱方

左記ノ會社ハ出品荷物ヲ無代價ニテ運搬スト雖其運搬中ニ生シタル破損又ハ紛失ニ就キテハ會社ハ其責ニ任セサルヘシ又販賣セラレスシテ積戻シタル出品荷物ニハ其旨ヲ記シ全博覽會事務長及書記長ノ記名ヲ經タル証明書ヲ添付スヘシ

佛 蘭 西

左ノ會社ハ一船ニ付出品荷物五噸マテヲ無運賃ニテ「グラスゴウ」マテ運送スヘシ但陸上ケ及他ノ費用ハ此限ニアラス

ヘンダアソン、ブラザー アンコル線 ライン マルセイユ寄港

ジョン、ブリュウス會社

左ノ會社ハ通常運賃ヲ以テ「グラスゴウ」マテ出品荷物ヲ運搬シ其販賣セラレズシテ積戻ス分



ハ運賃ヲ半減トス但鐵道運賃ハ此限ニアラス

ジュー及ビー、ハッチソン      ルウアン(巴里)ナンテ及ポルドウ寄港、  
デローヂ、ギブソン會社      ドンキルク及カレイ寄港

印度及「ビルマ」

左ノ會社ハ印度政府並ニ地方官廳及貴族ノ蒐集出品ニ限り一船毎ニ五十噸マテヲ無代價ニ  
テ運搬シ及一般出品者ニ對シテハ通常運賃ヲ以テ之ヲ運搬スヘシ但何レノ場合ニ於テモ販  
賣セラレスシテ積戻シトナル荷物ハ無代價ニテ運搬スヘシ

ケイザア、アルヅ<sup>ライ</sup>ン會社クラン線      ボムベイ、コロンボ、マドラス、カルカッタ寄港  
ヘンダアン、ブラサア      アンコル線      ボムベイ、カルカタ、コロンボ寄港  
ビー、ヘンダアン會社      ラングーン寄港  
デローヂ、スミッス及ソーン      シタイ線      カルカタ、ボンベイ、カラチー寄港

鐵道及會場搬入規則

(「カレドニア」<sup>イストコ</sup>、東海、グラスゴー、エンド、サウスウエスターン、北英鐵道會社協定)  
出品荷物ヲ運搬スル爲メ機械館ニ沿ヒ全館ニ達スル支線ヲ「ラナク、シャイヤ」及「ダンバルト」  
ン「シャイヤ」鐵道ニ連絡シテ設ケ通常運賃ヲ以テ一般出品ヲ會場ニ運搬シ販賣セラレズシテ積  
戻シトナル分ハ全一ノ線路ニ依リ出品者ノ危險負担ニ依リ運賃半減ヲ以テ原停車場マテ送

還ス此場合ニハ博覽會事務官及書記官ノ書面ヲ添付スヘシ但何レノ場合ニ於テモ會場搬入  
料ハ申受クルモノトス

此規則ハ直通連絡ヲ有スル英國並ニ蘇國停車場ニ限り適用ス

鐵道會社ハ右支線ヲ利用シテ運搬シタル出品物ニ對シ一噸ニ付二志(最低價格)並ニ一取扱ニ  
付壹志ヲ申受クヘシ

「グラスゴウ」各停車場ヨリ會場マテ出品搬入ニ關スル諸鐵道會社及搬入者協定  
規則

- 一 一品ニ付三噸ヲ超ヘザル一般出品(取扱毎ニ最低取扱額一志)一噸ニ付二志半
- 二 一品ニ付三噸以上五噸以下      全      三志半
- 三 全      五全      八全      全      四志半
- 四 全      八全      十全      全      六志
- 五 全      十全      十二全      全      七志半
- 六 全      十二全      十五全      全      十志
- 七 四輪私用車輛      各      四志半
- 八 二輪私用車輛      全      二志半

旅客列車ニ依テ出品物ヲ運搬センコトヲ欲セラル、トキハ普通鐵道運賃ヲ申受クヘシ但其  
危險負担ハ所有者ニ歸スヘク且二噸半五十「ハンドレドウエイト」以上ノ貨車ハ旅客列車ニ依



ヲ運送セサルヘシ

鐵道運賃及運送馬車賃

(カレドニヤン、東海岸、グラスゴウ南西、北英四鐵道會社協定)

出品物ハ通常運賃ヲ申受ケ之ヲ博覽會場ニ運送ス若シ賣却セラレズシテ再ヒ返送セントスルトキハ其旨ヲ記シ事務長及書記ノ記名ヲ經タル証明書ヲ添ヘ積戻シノ照會ヲナスヘシ此場合ニ於テ會社ハ通常運賃ノ半額ヲ以テ同一線ニ依リ其積出元停車場マテ運送スヘシ但不可抗力ニ依テ生スル損失若クハ運送延滞ニ向テハ會社其責ニ任セス又何レノ場合ニ於テモ馬車賃ハ此内ニ包含セサルモノトス

此取扱方ハ單ニ蘇國及英國内ノ停車場中「グラスゴウ」ト荷物直接運搬ノ規定アル者ニ適用ス・博覽會出品運送ノ爲メ故ラニ市内各停車場ヨリ博覽會場マテノ間ニ支線ヲ敷設シ以テ停車場ヨリ會場マテノ運送車馬ニ換フ之ニ對スル賃金ハ左ノ如シ

- 鐵道會社ハ各停車場ヨリ會場マテノ支線ヲ經テ送リタル出品物ニ對シ通常運賃ノ外一噸ニ付二志(一取扱ノ最少額一志)ヲ申受クヘシ但其累進率ハ左表ニ依ルヘシ
- 一 一物品三噸以内ノ出品(最小額一志) 一噸ニ付二志
- 二 全 三噸ヨリ五噸マテ 全 三志六片
- 三 全 三噸ヨリ八噸マテ 全 四志六片
- 四 全 八噸ヨリ十噸マテ 全 六志

- 五 全 十噸ヨリ十二噸マテ 全 七志六片
  - 六 全 十二噸ヨリ十五噸マテ 全 十志
  - 七 二輪馬車 一輛ニ付三志六片
  - 八 四輪馬車 全 四志六片
- 旅客列車ニテ出品物ヲ運送スルトキハ鐵道賃金規定ニ依ル但五十「ハンドレッドウェイト」ヲ超ユル貨物ハ該列車ニ搭載セス又不可抗力ニ依テ生スル延滞損失ニ對シ會社ハ其責ニ任セス」  
出品物及飾箱(箱詰メトナシタル)ノ運賃ハ渾テ責任除外取扱式ニ據テ申受クヘシ但一車貨切ノ分ハ一車一哩ニ付六片ヲ受クルモノトス又之ヲ馬車ニテ運送スルトキハ四輪馬車ノ賃金ヲ申受クヘシ

第四節 出品物通關規則

出品物通關規則

第一條 「グラスゴウ」萬國博覽會行ノ貨物ニハ其旨ヲ外國ニ記載シ同博覽會宛ニテ青黃又ハ淡紅ノ公定札紙ヲ付スヘシ此等ノ貨物ハ他ノ通常荷物ト區別シテ入記目錄ヲ作り之ニ「グラスゴウ」萬國博覽會行貨物」ト明記シ且輸入記號、函番號及在中物品ノ可及的詳細ナル説明ヲ附スヘシ

第二條 貨物ハ稅關特定車掌ノ保管ニ依テ其儘會場ニ送致ス此場合ニ於テ荷積掛ハ各荷車



ニ付入記目録記載ノ事項ヲ明記シタル送狀ニ通テ作り其内一通ハ場内税關官吏査閲ノ上之ヲ荷積掛ニ返付シ荷積掛ハ之ヲ入記目録ニ綴付シテ貨物ト共ニ之ヲ引渡スヘシ他ノ一通ハ之ヲ税關ニ留置シ右貨物ニ關スル他日ノ証據ニ供スルモノトス

第三條 貨物會場ニ到着スルモ税關官吏ノ認可ヲ受クルニアラサレバ之ヲ開披スルヲ得ズ税關官吏其物品ヲ無税品ト認定シタルトキハ其物品ハ即時税關ノ監督ヲ離ル、ヲ得若シ有税品ト認メラル、トキハ税關監督ノ下ニ會場ニ止マルカ或ハ閉會後再輸出ノ爲メ之ニ對シ事務局ニ保証ノ手續ヲナスカ或ハ右税金ヲ納付スルカ三者ノ一ニ依ルベシ

第四條 英國ニ輸入シ博覽會出品ノ申告ヲナシタル貨物ニシテ公定ノ札紙ヲ付セサルトキハ出品者ハ更ニ右貨物ハ出品物タル旨ヲ明記シ事務局官吏ノ記名ヲ經タル証明書ヲ通關願ト共ニ差出スニアラサレバ前項ノ手續ヲナス税關ニテ右通關ノ許可ヲ受ケ該貨物ニ公定札紙ヲ付シタル後初メテ本則ニ依テ之ヲ會場内ニ搬入スルコトヲ得

第五條 本則ニ從ヒ搬入シタル貨物ハ其利害關係者ヨリ税關ニ申立特別ノ許可ヲ受クルニアラサレバ本則外ノ處分ヲ行フコトヲ得ス

#### 第四章 陳列館及其配置

##### 第一節 會場一般設計

「グラスゴー」博覽會敷地ノ全面積ハ七十三エーカー(約ソ我二十九町步餘)ニシテ、前回開設セシト同一ノ場所ナレトモ更ニ大ニ擴張シタルモノナリ。位置ハ「グラスゴー」市ノ西南方「ケルブイン」グローブ「公園」一帶ノ地ヲ包含シ、更ニ「ダンバルトン」大路ヲ超エテ其ノ南方「ボンハウス」グランド「ニ跨レリ」ケルブイン「河」ハ此ノ公園ノ中央ヲ回流シ、近ク北方ノ「ギルモル」丘上ニハ「グラスゴー」天學ノ高塔屹立シ、又東方ニハ清雅ナル建築ヲ以テ連レル「ケルブイン」グローブ「街」ノ高臺城廓ノ如ク聳立シ、鬱蒼タル綠樹ト鮮妍タル花卉トハ、噴水泉池ト共ニ適當ノ位置ニ配置セラレ、博覽會ニ必要ナル天然的景趣ハ完備シテ缺クル處ナシ。而シテ全敷地中二十エーカー餘ハ出品陳列及其他ノ建物ニ充テタリ

出品陳列ノ爲メニハ主トシテ三個ノ大建築ヲ充テタリ、其ノ建築ノ意匠ハ美術館ヲ除ク(貳百五拾磅ノ懸賞ニヨリテ募集シ、其ノ當撰者ナル「グラスゴー」ノ建築家「セームス、ミラー」氏ノ意匠ヲ用ヒタルモノニシテ、其ノ建築法ハ西班牙復古派流ニ屬シ、華麗ナレトモ亦虛飾ニ陥ラス、内部ハ打通シトナシ各室各部ヲ區分スルコトナシ。而シテ正面ナルハ工業館ニシテ、之ニ隣レル壯大ノ館ハ美術館トス。工業館ノ左方ヨリ美術館ノ後方ヲ迂回セルガラス屋根ノ大路長ク會場ノ西北隅ニ亘リ、更ニ大架橋ニヨリテ「ダンバルトン」街ヲ超エテ工業館ト畧ホ同大ノ建築アリ、是レ器械館ナリ。此ノ三大館ノ外ニ農藝館、園藝館、蘇國戰事赤十字館、光熱館等ハ小規模ヲ



以テ各特別ニ建テラレ、九個ノ飲食店、喫茶店モ亦各適當ノ處ニ配セラレ、大音樂堂一ヶ所ノ外ニ三個ノ公開樂堂ハ塲内ノ東西北ノ三部ニ分チテ設ケラレタリ。  
 一般縦覽人ノ出入口ハ北方正門ノ外ニ四ヶ所ヲ設ケ、出品物ノ搬出入口ハ荷物檢査所ノ外ニ二ヶ所アリ、但シ器械館ハ直ニ鐵道停車場ニ接續セルモノヲ設ケタリ、又餘與トシテハ自動鐵道、ウヲターシユート、印度芝居、摸形鐵道、電氣快遊船、射的場等アリ、外國其ノ他ノ特別館ハ何レモ「ケルブイン」河ノ東方ニ在リテ、即露西亞、愛蘭、加奈多及ヒ我日本ナリ、今本館内及特別館全体ニ付キテ各國ノ占有シタル敷地場所ノ數量ヲ掲グルトセリ

大別シタルモノ左ノ如シ  
 合衆王國 一六二、〇〇〇方呎  
 屬地殖民地 四八、〇〇〇方呎  
 外國 七〇、〇〇〇方呎  
 婦人部 一〇、〇〇〇方呎

更ニ之ヲ細別スレバ左ノ如シ

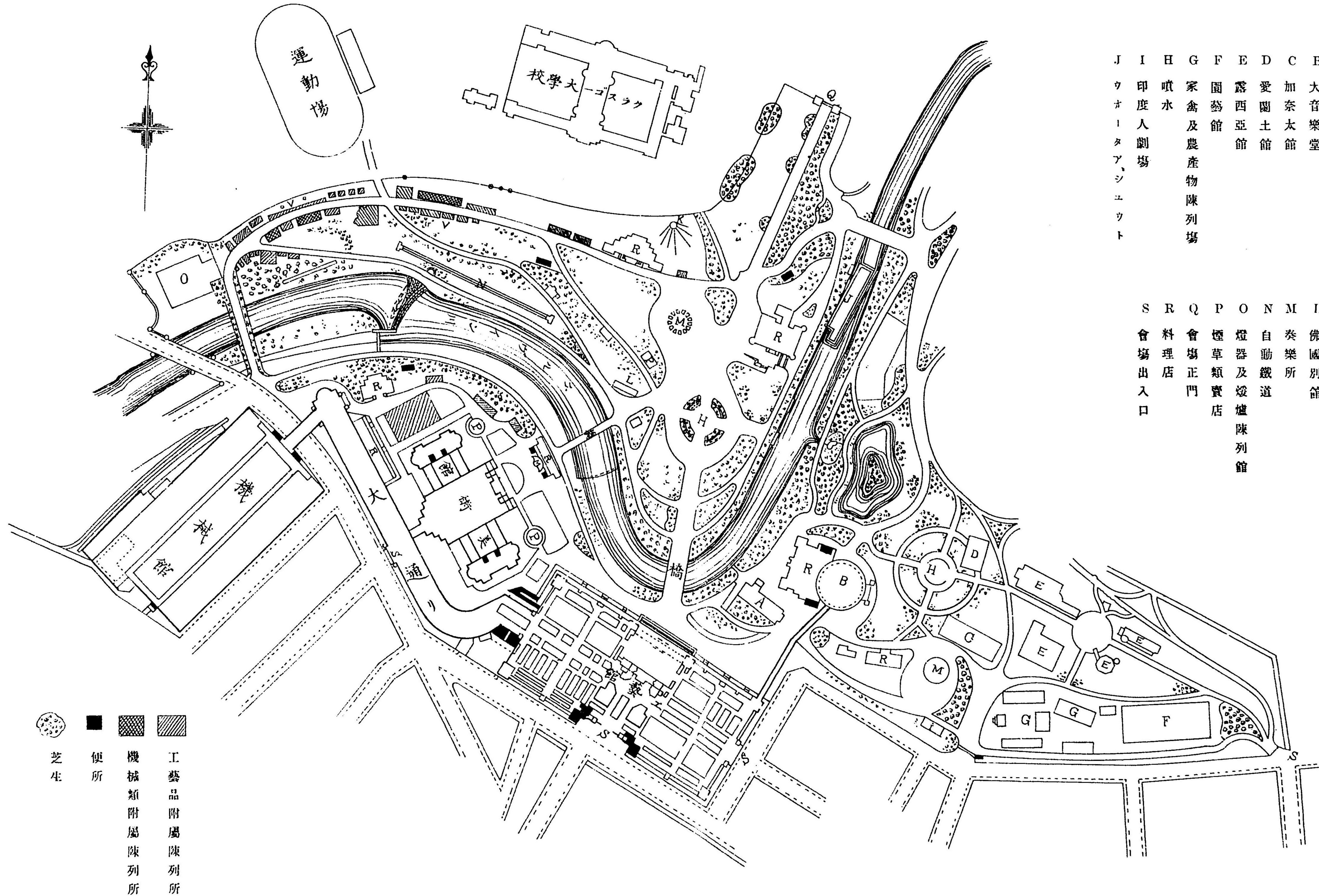
屬地殖民地	建築物	地所	計
加奈多	一二、〇〇〇方呎	一一、〇〇〇方呎	二四、〇〇〇方呎
西濠太利	一一、〇〇〇	—	一一、〇〇〇
クインスランド	六、〇〇〇	—	六、〇〇〇

其他	合計	其他	合計
—	—	—	—
五、〇〇〇	—	四六、〇〇〇	—

外國	露西亞	佛蘭西	日本	其他	合計
—	一一、〇〇〇方呎	二七、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—
—	三〇、〇〇〇方呎	—	四、五〇〇	—	—
—	四一、〇〇〇方呎	—	九、五〇〇	—	—
—	—	—	三、〇〇〇	—	—
—	—	—	—	—	八〇、五〇〇



# 博覽會場全圖



凡例

- A 日本館
- B 大音樂堂
- C 加奈太館
- D 愛蘭士館
- E 露西亞館
- F 園藝館
- G 家禽及農產物陳列場
- H 噴水
- I 印度人劇場
- J ウォーター、タア、シユウト

- K 燈塔
- L 佛國別館
- M 奏樂所
- N 自動鐵道
- O 燈器及燧爐陳列館
- P 煙草類賣店
- Q 會場正門
- R 料理店
- S 會場出入口

- 芝生
- 便所
- 機械類附屬陳列所
- 工藝品附屬陳列所



## 第二節 工業館

工業館ハ横七百呎長三百二十呎合計六エークルノ廣サ有ル四字形ノ建築ニシテ、中央屋上ニ寶冠狀ヲ爲セル高サ二百呎ノ圓頂閣空中ニ聳ヘ、屋板ハ黄金色ヲ以テ塗レルカ故ニ燦爛トシテ光彩アリ。四隅ニ四個ノ方形ヲナセル高閣アリテ、何レモ人ノ昇降スルヲ得セシム。全体ニ鐵骨セメント塗板敷ノ建築ニシテ之ヲ本館ト稱セリ

内部中央即寶冠狀圓頂閣ノ下ニ當ル處ニハ、高三十呎ノ英國皇帝ノ省像ヲ据エ、石膏製ナルモ着色セル處ハ一見銅塑ノ如シ。サテ此ノ省像ノ在ル處ヲ中心ニ博覽會事務局出張所、警察官派出所、電信電話ノ取扱所、銀行出張所、貴賓接待所、手紙認所、等ヲ設ケ、北方ノ一帶ヲ合衆王國及加奈多工藝品ノ陳列場ニ充テ、右方全部ヲ各國工業品ノ陳列場ニ充テタリ。即チ露西亞、佛蘭西、埃太利、クインスランド、丁抹、西濠洲、ローデシア、印度、錫蘭、及婦人部等ナリ

露西亞、露國ハ別ニ自ラ四個ノ列品館ヲ有スレトモ、此ノ工業館中ニモ亦出品ヲ爲セリ、革毛類、木彫具、其ノ他ノ雜貨ナリトス

佛蘭西、佛國ハ露國ト畧同大ノ出品區ヲ有シ、出品物ノ裝飾陳列ニ最モ深ク意匠ヲ凝ラシ、高尚優美場内ニ冠タリ。其ノ出品物ハ陳列區ノ割合ニ甚ダ多ク、或部分ハ稍狭キヲ感スルトコロアリ、蓋シ特別館ヲ有セサルカ故ニ此コニ至レルモノナリ。即其ノ出品物ハ樂器、書籍、出版物、寫真及同器械、電燈器械、ガラス器、敷物、壁紙、傘、衣服、靴、文具、陶磁器、毛織物、絹織物、香水、藥品、酒類、果物、野菜、罐詰品、理化學器械、貴金屬寶石細工品等ニシテ概シテ奢侈品多ク、同國一般工業品ノ狀態



ヲ知悉スルコト能ハズ

埃太利、同國ノ出品區域ハ千平方呎ニ上ラズ、出品物モ亦少數ニシテ且ツ種類少シ、貴金屬器、鋼鐵、銅器、磁器、ガラス、家具、盔甲細工、七寶類、酒、鑛泉等ナリ

其他丁抹ハ「コーペンヘーゲン」ノ陶磁器ノ出品ノミニシテ、波斯ハ手織ノ敷物及毛織物ヲ出品シ、其ノ物品ハ精巧ナルモノナリ、「モロッコ」ノ出品モ少數ナレトモ丁抹、波斯ニ比スレバ稍優レルアルヲ知ル。美シキ金糸ヲ以テ縫取リセル織物、同鞍、同革細工ノ上靴、銀象篋セル刀劍類、モロツコ鐵砲類、木彫物提灯、敷物、窓掛類ニシテ何レモ同國ノ産物ヲ代表セリ

加奈多ハ外ニ特別館ヲ有スルカ故ニ本館内ニハ飲食物、家具、鑛物、樂器、獸毛被服類ノ見本ヲ出陳セリ

「クインスランド」鑛山局ヨリ特ニ同國ノ鑛物ヲ示スカ爲メニ、本館内ニ六千平方呎ノ陳列場ヲ占メ、中部ノ一室ニ純金ノ尖塔ヲ作り、今日マデノ産出金八百六十四立方呎ノ高ヲ統計的ニ表ハセリ。又銅銀鑛ヲ鑛山ヨリ採掘シタル儘ノ物ヲモ多ク陳列シ、説明統計ヲ付記シ、其ノ採掘運搬淘冶等ニ關スル一部ノ器械模型ヲ添エ、最モ注目セシメシモノハ「クインスランド」ノ「チンナバ」鑛山産出ノ水銀ヲ大ナルガラス箱ノ内ニ充タシ、一ノ水銀池ヲ作り以テ水銀噴水ヲ裝置シタルコトニシテ、此ノ水銀ノ量目ハ三噸アリト云フ、其ノ他「クインスランド」ノ重ナル生産物トシテ獸毛、木材ヲ出品シ、サムソン泥浚船ノ模型ヲモ陳列セリ

西濠太利、同地ノ出品ハ四部ニ分タレ、其ノ一部ハ外部ニアリ、三部ハ本館内ニ陳列セリ、三部ヲ通シテ七百個ノ大寫眞ヲ掲ケ、市街ノ有様建築ノ狀態等ヲ示セリ。先ツ第一部ニハ各金鑛會社ヨリ出品セル貴重ナル金鑛ヲ、特産物ノ「カリ」、「ジャラ」製ノ木材器中ニ收ム。又金箔製ノ地球儀一個アリテ一千八百八十六年ヨリ一千九百年末マデニ産出シタル金ノ量目ヲ現ハス、即一百八十一噸、其價貳千貳百四拾九萬千九百九拾四磅ナリトス。其他銅、鐵、錫、鉛、アンチモニーノ見本及ヒ石炭類ヲ陳列シ、四方ノ壁ニハ鑛山ニ關スル地圖ヲ掲ケタリ。第二部ニハ各種ノ農産物アリ、農務局ノ分析表ヲ付セリ。第三部ハ主トシテ建築及家具木材類ヲ出品シ、其第四部ハ即チ外ニアリテ「ケルブイン」河畔ニ一小建築ヲ爲シ、林材ノ標本アル中ニ直徑八呎ノ大サアル材木アリ、「ジャラ」製ノ鐵道橋ノ一部、「カリ」製ノ鐵道荷車及ヒ大小ノ枕木、其他「ジャラ」ヲ美術的ニ作レル小亭モ併セテ出品シ趣味ヲ添エタリ

「ローデシア」同地ハモト鑛物ニ富メルカ故ニ其ノ出品モ主トシテ金、銅、鐵、石炭、及石材類ノ標本ヲ陳列シ、他ニ烟草、護謨、綿、玉蜀黍等ヲモ出品セリ。而シテ是等ハ何レモ南部亞弗利加會社ノ出品ナリトス

印度、錫蘭、中央印度ノ生産物ナル刺繡類、壁材彫刻家具、金屬製品、及ヒ天産物ノ果物鑛詰類、カレー粉等ヲ出品シ、「トラバンコール」ヨリハ音樂器、レース類、林材標本ヲ出陳シ、而シテ其ノ陳列場ノ一隅ニ於テ刺繡ノ手工實示ヲ爲セリ。錫蘭ハ専ラ茶ヲ出品シ、猶美シキ小茶亭ヲ造リ、土人ノ給仕ヲ使用シ喫茶セシム。是等ハ本館外ニ設置シタル「セーロン」喫茶店ト同シク「ロンドン」ノ「ペーン」會社ノ企テニ出ツルモノナリ



婦人部ハ本館内ニ一萬平方呎ノ場所ヲ占メ、其ノ之ヲ特設シタル目的ハ、近來歐洲ノ婦人カ其ノ教養及ヒ勞働ノ點ニ付テ如何ニ進歩セシヤヲ知ルニアリ。種々ニ區分セラルレトモ大要ハ商業、手藝、保姆、慈善事業等ナリ。被服裝飾品、兒女用具、家庭玩具、編物類等ノ手藝品ハ各國ヨリ出品シ、婦人ノ著書、圖畫モ少カラス。又古代ノ寫真、織物、刺繡類ヲモ參考トシテ陳列シ、用意甚タ周到ナリ。其ノ出品ハ蘇格蘭ヲ除ケハ佛國最モ多ク、而シテ露國及ヒ丁抹ノ婦人ハ各其ノ手藝ヲ實示シタリ。

以上概要記述シタル如ク、本館内ニ於ケル諸外國ノ出品物ハ、眞ニ其國々ノ工業品ヲ遺憾ナク網羅シタルモノト謂フヘカラサルカ、如シト雖。左方ニ於ケル合衆王國及ヒ加奈多ノ工業品ハ、其ノ分類モ整然トシテ毛織物、編物、菓子、石版、印刷等ハ皆一々製作法ヲモ實示シ、併セテ盛ンニ即買ヲモ爲セリ。又陶磁器、ガラス器、食料品、鐘錶、製紙、時計、金屬器、日用家具等何レモ多數ノ見本ヲ陳列シ、學術器械ノ應用進歩等ニ付テ大ニ資料ニ供スルニ足ルモノアリ。此ノ間ニ横濱ニ支店ヲ有セル「エドワード」父子商會カ日本文字ノ看板ヲ掲ケ、日本ノ七寶、陶磁器、象牙彫、金屬器類ヲ陳列シタルハ合衆王國列品部中ノ一異觀ナリキ。

### 第三節 美術館

前博覽會即千八百八十八年ニ開設シタル博覽會ノ剩餘金五萬四千磅、及ヒ其ノ積置利息ト個人ノ寄附金トヲ合セテ、七萬四千參百四拾六磅ノ外ニ市ヨリ附加金ヲナシテ、總計拾七萬貳千

磅ヲ以テ一大美術館ヲ建築シ、市ノ所有ト爲シタル者ハ即本博覽會ノ美術館ナリトス。其ノ建築ハ千八百九十八年ヨリ千九百年マテ前後三ケ年ヲ閱シテ竣功シ、且ツ永久のナルカ故ニ甚タ堅牢偉大ナル者ニシテ、外部ハ「ハイランド」所産ノ赭石ヲ以テ築造シ、内部ハ主トシテ花崗石及ヒ大理石ヲ用ヒ、方形大尖塔五個、小塔四個ノ總二階造リナリトス。中堂ト稱スル處ハ長百廿五呎、横五十六呎ニシテ、左右兩廊ハ各長百〇二呎、横六十呎アリ、又十二個ノ廊廊アリテ各長百呎、巾廿八呎アリ、此ノ外ニ八個ノ小區廊アリテ各陳列場ニ充ツベク造ラレタリ。館内ニ陳列セル新古ノ美術品中ニ英國帝室ヨリ拜借セシ寶物數十點アリ。又各國ノ美術館博物館等ヨリノ出品ニ係ル美術品モ少カラサレド、其ノ多クハ永久備付ノ旨意ヲ以テ蒐集セラレタル者ナリ。階上ニハ今代名家ノ油畫及古畫、寫真、各國ノ新古美術品ヲ陳列シ、陶磁器、彫刻、銅器、ガラス器、鍍器、金銀器、等各其ノ優品ニ富メリ。日本品ニハ象牙彫、七寶、銅器、薩摩磁器、刺繡等數十點ノ新美術品及古代陶器類ヲモ陳列セリ。階下中堂ヨリ廊下ノ間所々ニ大理石若クハ石膏ノ彫塑像ヲ立テ、八個ノ廊内ニハ各國ノ古美術工藝品及ヒ蘇國考古ニ屬スル樂器、武器、寺院ノ什物、衣冠、書籍、繪畫、古代ノ貨幣、寫真、遊戲ノ器具、肖像等一々解説ヲ付シ、又物品ニヨリテハ人名、國名、及ヒ由來等ヲ示シ、重要ナルモノニハ殊ニ詳細沿革ヲ付記シ、總テ秩序正シク陳列セリ。

教育部、美術館ノ中央二階ヲ以テ教育部ニ充テ、教育ニ關スル出品ヲ爲シ、區域大ナラサレトモ亦以テ蘇國教育ノ大要ヲ盡クセルモノナリトハ、同部委員ノ確ク信スル處ナリ。即チ第一ヨリ第八ニ分チ、第一書室ニハ幼稚園ニ使用サル、製作品ノ種類、第二室ニハ初等教育ノ三年マ



テノ手工品及繪畫第三室ニハ上級生ノ出品、第四及ヒ第五ハ高等小學ノ試驗成績品、第六室ニハ高等教育ノ參考品、第七室ニハ倫敦教育會ノ出品、第八室ニハグラスゴー倫敦盲啞教育ニ關スル出品物及統計表ノ類ヲ陳列セリ。其ノ範圍ノ狹小ナルヲ見レバ、教育全般ニ亘リテノ出品ニアラザルコトヲ察知スヘシ

館内ニハ猶空所多シ、爾後年々幾多ノ東西美術品ヲ買收シテ、以テ陳列スルノ計畫ナリト云フ。博覽會ノ開場時間ハ日曜日ノ外ハ、平素午前九時一一般ノ入場ヲ許シ、午後十時閉場ノ規定ナレトモ、此ノ美術館ノミハ午前ハ十時ニ、縱覽人ヲ入レ、午後ハ九時ヲ以テ嚴ニ閉館シ、守衛數名晝夜之ヲ警衛ス。又博覽會ノ催シニ係ル大夜會ハ多ク、此ノ美術館ヲ以テ會場ニ充テ、三千人ノ士女ヲ收容シテ優ニ餘地アリ、又以テ壯大ヲ知ルヘシ





美術館內部圖



#### 第四節 機械館

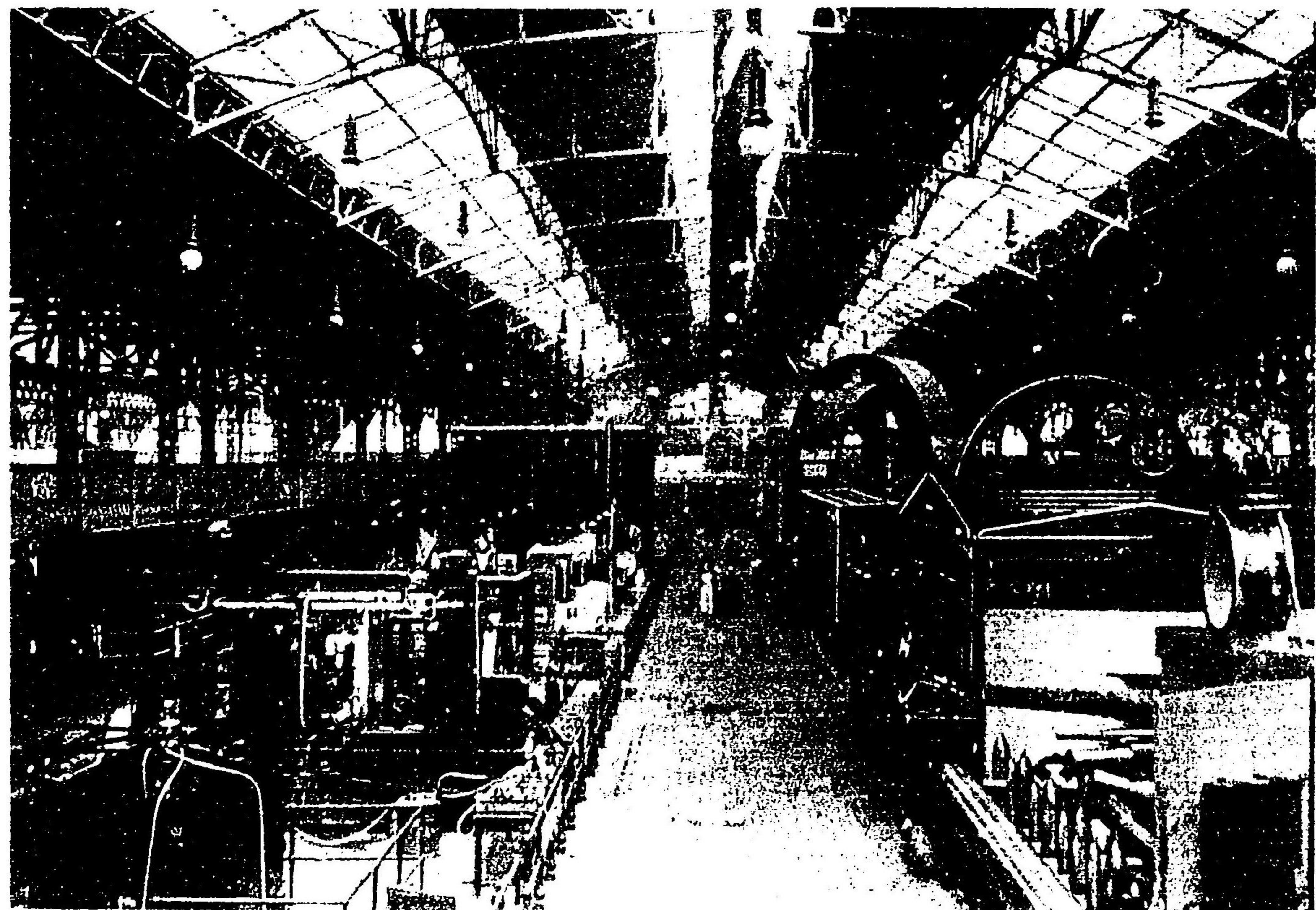
此ノ博覽會ノ特色ハ寧ロ機械館ニ在リテ存ス、館ノ位置ハ第一節ニ記載シタルカ如クニシテ、横三百四十呎長五百呎廣サ合計五「エークル」ノ長方形ガラス屋根平屋土間造リノ大建築ナリ。館内ノ周圍ニハ幅十五呎ノ上廊下ヲ設ケ、以テ器械ノ運轉ヲ瞰視スルニ便ナラシメタリ。機械ノ分類ハ秩然トシテ縦覽者ノ爲メ比較照合スルニ便宜ヲ得ル點少カラス。造船機械、製鐵器械ヲ始メ各種ノ器械ヲ陳列シ、殊ニ電氣器械ノ如キハ千九百年巴里博覽會ヨリモ多クノ出品點數ニシテ且ツ進歩シタルモノアリ。サレト其ノ詳細ヲ記述スルコトハ甚タ困難ノ事業ニシテ、専門家ノ調査研究ヲ待ツニアラサレハ、到底概要ノ報告ダニナス能ハサル處ナリトス。而シテ是等出品ノ多クハ皆蘇格蘭ニシテ、外國ヨリハ只タ米國ヨリ數種ノ電氣器械ヲ出品シタルモノアルノミ

美術館ノ後方工業館ト機械館トノ間ヲ連絡セル大廊下ハ、巾七十五呎長三百三十「ヤード」高四十呎ニシテ「グラスゴー」ノ「クライド」及ヒ「ニューカッスル」ノ「タイン、メルセイ」等ノ製造者ヨリ船艦模形ノ陳列ヲナセリ。其ノ數實ニ二百餘點。此ノ如キハ從來何レノ大博覽會ニモ未タ曾テ見サル處ニシテ、是亦此ノ地造船業ノ盛大ナル表象ノ一ナリトス。「グラスゴー」市ノ今日ノ富源ハ實ニ此ノ船艦製造ニ在リテ存ス、サレバ各造船所カ此ノ出品ニ注意シタルハ寧ロ當然ノコトナリトス。此ノ模形ハ多少沿革ヲ知ルニ便ナラシメタル處アリ、「ヘンリー、ベル」氏ノ創始シテ成功シタル千八百十二年ノ古キ「コメット」號ヲ始メ、最近ノ「タービン」式ニ至ルマデ年代ヲ追フテ





工 藝 館 正 面



器 械 館 内 部

陳列シ又各船艦ノ特長ヲ示シ大要ノ説明ヲモ付シタリ。此ノ間我帝國軍艦朝日ノ模型一層壯麗ニ裝置セラル、ヲ見ル而シテ此ノ一小摸形船其ノ價八千圓ヲ要セリト云フ他ハ以テ推知スルニ足ラン



#### 第五節 農藝館及園藝館

農藝館ト園藝館トハ相接近シテ會場ノ東南隅ニ設ケラレ、一ハ七十五呎ニ二百呎ノ廣ヲ有シ、他ハ建物ハ其ノ三分ノ一ニ過キサレトモ周圍ニ苑圃ヲ置ケリ、共ニ極メテ簡約ナル假普請ナリトス。農藝館ニテハ開會中八月及十月ノ二回ニ特別展覽會ヲ開キ、野菜果物類ノ精良ナル者ヲ蘇國ノ各地方ヨリ出品シ、悉ク即賣ヲ爲セリ。葡萄ノ如キハ歐亞各國ニ見ルヘカラル絶品多ク隨テ其ノ價モ亦甚タ高ク、一房ノ量目五バウンズ内外ノモノ、價拾五志乃至壹磅ナリキ。蔬菜及ヒ瓜類ノ如キハ、蘇國地方ニ於テハ元來饒多ナラス、特産ノ「キャベヂ」ヲ除クノ外ハ佛國及ヒ米國等ニ比シテ一般ニ遜色アルヲ免レス。而モトメトノ如キハ全ク温室中ノ育生ニカカルカ故ニ、價格モ亦他ニ比シテ高キヲ要スルナリ。園藝館ハ規模ノ極メテ小ナルモノナリ、只時ニ季節ノ花卉其ノ他ノ盆栽ヲ陳列シ、一小温室ニハ熱帶地方ノ植物數種ヲ培養スル等ノコトアル外ニハ特記スヘキモノナシ

家禽館ハ農藝館ノ後方ニ設ケラル、是亦珍奇ナル各種ノ動物ヲ展覽スルニアラス、即チ主トシテ日用ノ食鳥類ヲ集メタルモノニシテ、又牛乳搾取、乾酪製造ヲ實示シタリ

#### 第六節 特別館

##### 一 露西亞館

露西亞ハ政府ヨリ參萬磅ヲ支出シ、休職陸軍大佐ゼー、ロセンスキー氏ヲ事務官長ト爲シ、書記



官二名事務官數名ヲ派遣シ、會場内東隅ノ地ニ四個ノ獨立列品館ヲ建築セリ。其ノ大ナルモノ、廣サ一萬一千二百平方呎、露西亞風ノ木造ニシテ農業館ト云フ。館内ニハ麻、烟草、酒類、ビール原料、穀類、毛羽、皮革等ノ農産ニ属スルモノヲ陳列セリ。次ノ一館ヲ山林館ト稱セリ、建築ハ同シク露西亞風ナレトモ、四壁悉ク木材ヲ以テ組立テ構造甚タ奇ナリ。此ノ館内ニハ各種ノ木材、其ノ產地、効用、伐採ノ方法等或ハ摸形又ハ標本及ヒ寫眞ヲ添ヘテ縦覽人ノ解得ニ便ス。他ノ一館ヲ鑛物館ト稱セリ、各種ノ鑛物ヲ陳列シ、其ノ採掘法、產地、産額等ヲ明細ナル地圖及統計表ヲ添ヘテ説明ヲ附セリ。第四館ヲ美術工藝館ト稱ヒリ、其ノ出品點數甚少ク、全ク豫想ニ反シタルモノアリ、纔ニ數點ノ絨氈、毛織物、寶石細工、木具彫刻類等ノ裝飾品ヲ見ルニ過キス。元來同國ハ天産ニハ富ミタレモ工藝ハ猶甚幼稚ヲ免レス、其ノ特技トシテ近來世ニ知ラル、銅鐵鑄物及ヒ磁器七寶類ノ如キスヲ皆無ナリシハ、一般觀覽者ニ失望セシメタルコト少シトセス。隨テ出品物ノ缺乏落窶ヲ掩ハサルヲ得サル處ヨリ、館内ヲ數區ニ分チ私ニ之ヲ商人ニ貸付シタルヲ以テ、伊太利、佛蘭西、土耳其等ノ雜貨商ハ、各國各種ノ雜貨ヲ並ベテ專ラ販賣ヲ始メ、全然卑陋ナル勸工場的陳列場ニ化セラレタリ。之カ爲メ同國ノ事務官長ト商人トノ間ニ於ケル約束上ノ爭議、並ニ博覽會事務局ノ故障頻々トシテ起リ、法廷ニ訴ヘラレタルモノ數名、其ノ賣品ヲ館外ニ撤去セラレタルモノ數名、殆ント五月ヨリ八月末ニ至ルノ四ヶ月間ハ紛議ヲ以テ過ゴセシカ、遂ニ九月ニ至リテ種々ノ事情ノ下ニ事務局モ默許スルコト、ナレリト云フ。以上ノ如ク一般縱覽人ノ耳目ヲ樂シマシムルニ足ル可キ美術工藝品ノ陳列ナカリシカ故ニ、

開會前ノ衆評ト開會後ノ人氣トハ全ク反對ノ有様ヲ呈シ。加フルニ工業館ト云ヒ、山林鑛山館ト云ヒ、共ニ陳列區ノ面積ト出品物ノ點數トハ平均ヲ失シ、所々ニ空架ヲ存スルアリ、縱覽人ノ出入常ニ少ク、一層落窶タルノ觀アリキ。然レトモ其ノ國ノ財源ヲ紹介シ、學術應用ノ進歩ヲ縱覽ニ供シタル點ハ、確ニ博覽會ノ目的ニ適ヒタルモノアリト謂フ可シ。

### 二、加奈多館

英領加奈多ヨリハ本館内ニモ多クノ出品物ヲ爲シタル外ニ、約六千平方呎ノ特別館ヲ建設シ、政廳ヨリ事務官長「ダブリユー」デイ、スコット氏以下事務官書記官各係官十餘名ヲ派遣シ、諸般ノ事務ヲ執行セシメタリ。館ノ位置ハ露國館ノ西南ニ接近シ、木造ノ建築ナレトモ外見甚タ壯麗ナリ。出品物ハ獸皮、被服、剝製鳥類、鑛物標本、馬車、漁舟、耕作器具、木材、烟草穀類、野菜果物ノ罐詰、印刷石版、寫眞、等ニシテ、農具中ニハ巴里博覽會ニ出品シタルモノ多シ。館内中央ノ小事務室ハ六角形ノ堂宇ニシテ、外見石造ノ如クナレトモ鐵板製ニシテ組立方モ亦輕妙ナリ、蓋シ一部建築物ノ標本ニ供スルモノナリ。館外ニハ多クノ空地ヲ有シ、一部ヲ庭園ト爲シ、一部ニハ各種ノ風車十數點ヲ陳列セリ。其ノ多クノ出品物ハ概シテ即賣ヲ目的トシタルモノニアラズ、專ラ注文引受ケニ力ヲ致シ、廣告説明ニ意ヲ用ヒタルトコロ多シ。

### 三、愛蘭館



愛蘭ハ同地ノ農商工務省管理ノ下ニ、委員長及ヒ委員ヲ派遣シ、全ク本館トノ關係以外ニ、約ソ五千平方呎ノ特別館ヲ加奈多館ノ北方大泉地ノ畔ニ建設シ。入口及ヒ五個ノ室及ヒ附屬室ノ七區ニ分チテ出品物ヲ陳列セリ。即チ館内ハ六室ニ區劃サレタルモノニシテ、其ノ正面ノ入口ニハ戸張板、壁紙、ヲ陳列シ。第一室内ニハ木綿織物及ヒ標本、紡績、ハンカチーフ、縫取品。第二室ニハ籃籠類、カーペット、寢臺、卓椅子、家具、窓掛、指物類、彫刻、印刷物、寫真。第三室ニハ「レース」類。第四室ニハ絹綿織物及ヒ縫箔類。第五室ニハ海産物、鐵物類、室内裝飾品、船ノ摸形、寫真ヲ陳列シ。附屬室ノ第一區ニハ各種ノ織物及ヒ紡績品ヲ出品シ且ツ婦人ノ職工ヲシテフランネル織製造ノ實示ヲ爲サシム。又其ノ第二室ニハ「ハンカチーフ」手袋、烟草、敷物、糸線車ヲ陳列シ、職工ヲシテ織布ノ實示ヲ爲サシム。館外ノ庭上ニハ草刈器具數點ヲ陳列シ、多少ノ花卉類ヲ植エ風致ヲ添ヘタリ。出品物中ノ優逸品ハ即チ同國生産品ノ主ナル「レース」ニシテ、其ノ種類モ亦甚タ多ク大ニ一般ノ注意ヲ惹ケリ。

## 第五章 儀式饗宴

### 第一節 儀式

博覽會ニ於ケル儀式ナルモノ二回アリキ、一ハ開會式ニシテ一ハ閉會式ナリ。開會式、開會式ハ五月二日會場内大音樂堂ニ於テ舉行セラル。當日ハ恰モ晴天ニシテ、午前十時名譽總裁「フアイブ」公爵夫人「ルイス」親王殿下ハ公爵ト同車ニテ、儀仗兵其ノ前後左右ヲ警衛シ、海陸軍將校、蘇格蘭知事「グラスゴー」市長、警察長、僧正、其ノ他女官、及ヒ將校夫人等ノ隨員約二百餘名、威儀嚴然トシテ北方正門ヨリ式場ニ着セラレ。場内倍觀者山ヲ爲シ、殿下ノ萬歲ヲ唱フル聲雷ノ如シ、國歌ノ吹奏終ルヤ、蘇國知事タル本博覽會ノ總裁「ロード」ブライズウッド氏、先ツ千八百八十八年ニ始メテ「グラスゴー」ニ開キシ萬國博覽會ノ好況ニシテ、其ノ收入金ノ餘剩アリシヲ積ミテ基金トナシ、豫定ノ如ク前回ヨリモ盛大ナル計畫ヲ以テ、今回ノ博覽會ヲ開クニ至リタル來歴ヲ述ベ、參同出品セシ各國名ヲ列舉シ、本博覽會ノ圓滿ナル成效ヲ收メンコトヲ希望スル旨ノ式辭ヲ述ヘ、終リテ蘇國人民ヲ代表シテ、殿下ニ銀製手函ヲ進獻セリ。次ニ「グラスゴー」市長タル會頭ハ、皇帝陛下ハ喪中ニ渡ラセラル、ヲ以テ、此ノ儀式ニ臨御在ラセラレザルコト、ナリタルハ、豫期ニ違ヒ甚タ遺憾トスル所ナレトモ、宮中ニ在ハセラレテ本日ノ開會式ヲ深ク喜ハセラル、旨ヲ代リテ參會ノ各員ニ傳フ可シトノ仰ヲ蒙リタリト述ベ。博覽會ニ關スル概要ノ計畫ヲ告ケ、終リニ「グラスゴー」市ヲ代表シテ金製小函ヲ殿下ニ奉獻セリ。是ニ於テ公爵ハ本會ノ開會式ヲ舉行スル旨ヲ述ヘラレ、國歌一番式ヲ終リテ、ルイス殿下ハ公爵ト共

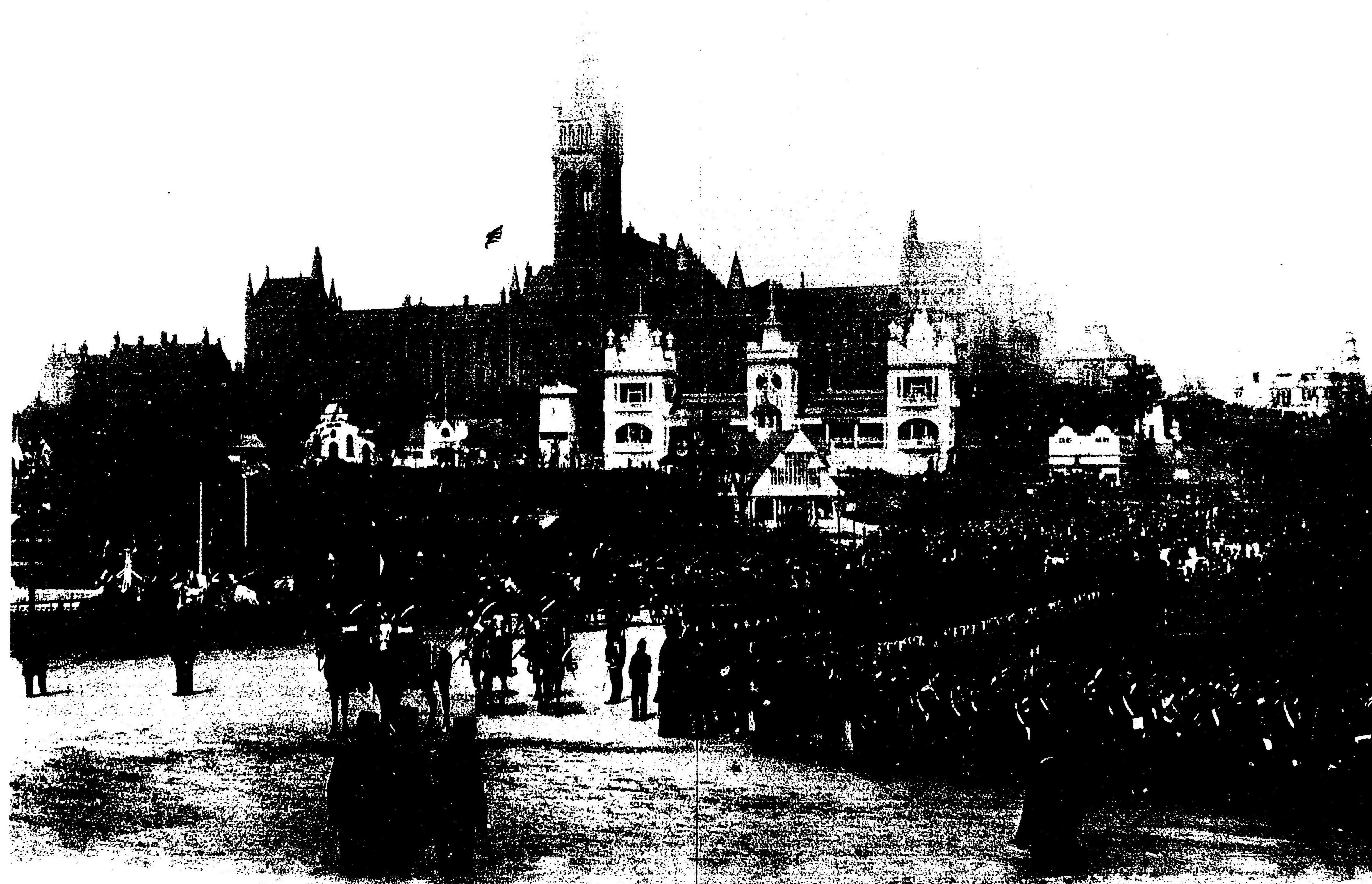


ニ假廊ヲ經テ、工業館ノ大道ヲ通過シ、美術館ニ入ラセラレ、午後一時美術館正面ヨリ乘車、儀衛兵、隨員等前刻ト同シク、歡聲四起ノ間ニ退場アラセラル。此ノ日式場ニ參列セシモノハ、當國官吏、軍人名譽職、議員、博覽會委員、各國事務官、又ハ其ノ代表者、新聞記者等ノ紳士貴婦人約三千餘人ナリキ。

閉會式、式ハ本博覽會ノ閉會當日ナル十一月九日午後八時三十分ヲ以テ、會場内大音樂堂モ於テ舉行セラル。參會者ノ數約三千餘人、敢テ儀容ノ壯ナルモノナク、裝飾ノ美ナルモノナシ、參列者モ亦多ク畧服ヲ用ヒタリ。先ヅ僧正ノ祈禱アリテ後、會頭ノ告辭、總裁ノ演說アリ、其ノ間國歌及ヒ數番ノ祝歌ハ、特ニ當日集メラレタル二百ノ女子、百ノ男子交ルルノ合唱シ、樂器トシテハ只一ノ大「ラルガン」アルノミ。終リニ又一僧ノ祈禱說教アリ、會衆舉ケテ唱歌シ、萬歳ヲ三唱シテ直ニ散會ヲ告ケタリ、時ニ九時三十分ナリキ。此クノ如ク閉會式ハ甚タ淡泊ニ過クルノ思ヒアラシメタレトモ、亦儀式トシテハ蓋シ質實ニシテ、蘇國ノ風ヲ表現セル所多シトス。總裁演說ノ大要ハ、本博覽會ハ豫期ヨリモ寧ロ盛大ナル結果ヲ收メシコト、合衆王國諸外國共ニ博覽會ノ目的ハ充分ニ達シ得ラレタルヲ信スルコト、贊同諸國ニ對シ協贊ノ厚意ヲ多トスルコト、等ニシテ終リニ本博覽會ノ計畫ヲ圓滿ニ遂行シ、好結果ヲ收メ得タルハ各委員ノ力ニ依ルモノト多シト雖、亦事務官長「ヘドレー」氏ノ功績ヲ大ナリトスベシ云々ト述ベタリ。

露西亞開館式、六月十一日午前十一時、露國ハ其ノ自個ノ特別館ナル工藝館内ニ於テ開館式ヲ舉行ス、參會者約一千餘名ニシテ、式ノ狀況ヲ畧記スレハ、館内ノ中央稍高キ處ニ佛壇ニ彷彿タルモノヲ設ケ、金冠ニシテ金燭ノ法衣ヲ纏ヘル大僧正其ノ中位ニ立テ、前方綠葉翁鬱タル邊ニ机案ヲ置キ、燈燭ヲ點シ、而シテ壇ノ三方ニハ白檀ノ香ヲ焚ケリ。之ト相距ル六呎許ノ邊ヨリ來賓環繞圍立シ、祈禱一時間ノ長キニ亘リテ後演說アリテ又祈禱シ、博覽會總裁ノ發聲ニテ露帝ノ萬歳ヲ唱ヒ、次テ僧正ノ發聲ニテ英國皇帝ノ萬歳ヲ唱ヒ、以テ式ヲ終レリ。





開會式行列附ラゴス、ニユアズテス遠路



## 第二節 饗宴

博覽會ニ關スル饗宴ハ、前後通シテ八回アリキ。其ノ種類ノ大要ヲ列記スルモ、亦無用ノ業ニアラザルベシト信スルニ付左ニ之ヲ列記ス。

開會式祝宴會　五月二日開會式ノ終リタル後、同日午後二時ヨリ「グラスゴー」市廳ニ於テ晝餐ノ饗應アリ。來會者四百九十五人ニシテ、二時半ニ至リ食堂ヲ開ク。ルイス殿下及ヒ公爵以下、總裁、會頭、隨從將校ハ一段高キ食卓ニ縱列シ、其ノ他ノ各員ハ其ノ前面ニ橫列セル卓ニ就キ、最モ鄭重ナル饗應ニシテ、總裁先ツ起チテ告辭アリタル後、公爵ノ演說及ヒ露佛兩國事務官長ノ祝辭アリ、歡聲屢々起リ、拍手叩案甚タ盛況ヲ極メ、五時半ニ至リテ散會トナレリ。

美術館開館披露會　五月二日夜又美術館開館ノ祝賀會アリ、美術部長、ベートン氏其ノ催主タリ。場所ハ美術館ニシテ、時間ハ午後八時ヨリ十時マテニ亘リ、茶菓ノ饗應ヲ爲ス。來會者ハ主トシテ博覽會ノ關係者、美術家、音樂家、及ヒ教育家ノ紳士婦人ニシテ、總數九百餘名ト云ヘリ。此夜始メテ點燈セシ館内數千ノ電光燦々トシテ白晝ノ如ク、列品ニ一層ノ光彩ヲ發チタルヲ覺エシム。

露國開館式祝宴會　露國事務官長ノ催ニカ、ル同國開館式ノ祝宴ハ、六月十一日午後二時ヨリ會場内ノ「ルシアン、レストラント」ニ於テ舉行セラレタリ。鄭重ナル晝餐ノ饗應ニシテ、來會者ハ「ファイフ」公爵以下、總裁、會頭、委員長、其他博覽會役員、各國事務官、又ハ委員長、市内ノ豪商紳士婦人等約ソ一百餘人ニシテ、晝ハ四時半ニ撤セラレタリ。



工業化學會夜會 「グラスゴー」市長會主トナリ、七月二十四日夜市廳ニ於テ開會セリ。燕尾服ノ紳士、盛粧ノ婦人、參々伍々階上階下ニ充テ、舞踏アリ演說アリ立食ノ饗應アリ、然レトモ酒ハ一切皆無ナリキ。此會ニハ外國ノ紳士甚タ多ク、夜七時三十分ヨリ十時三十分頃マデ催サレタリ、會員ニアラザルモノト雖、博覽會關係者及ヒ各國事務官委員ハ招待セラレタリ、其ノ會名左ノ如シ

Society of Chemical Industry.

英國獎學協會園遊會 九月十六日午後三時ヨリ六時半マテノ間ニ於テ、英國獎學協會ノ園遊會ヲ市内「ボタニツク、ガーデン」ニ於テ催フセリ。其ノ會名左ノ如シ

British Association for the Advancement of Science.

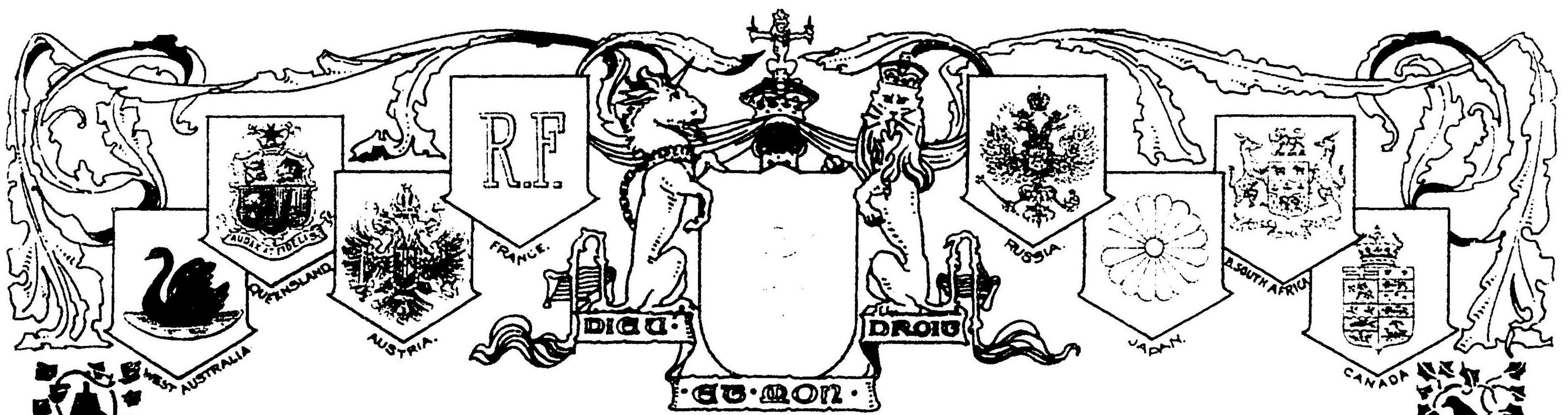
倫敦市長來場ニ就テノ午餐會 倫敦市長八月八日公式ヲ以テ博覽會ニ臨ミ、美術館ニ於テ内外紳士婦人ニ接見アリタル後、正午十二時ヨリ場内「グロスブノーア、レストラント」ニ於テ午餐ノ饗宴アリ、來會者二百五十餘名、亦盛會ナリキ。

英國獎學協會大夜會 九月十七日午後八時ヨリ「ブリチシ、アツンセーション」ノ大夜會ヲ美術館ニ於テ催フサル。參會者ハ學者、博覽會關係ノ内外紳士、夫人令嬢等約三千餘人ニシテ、茶菓ノ饗アリ、美妙ノ音樂數番ヲ演シ、十時三十分頃散會ヲ告ケタリ。

博覽會晚餐會 十月二十三日博覽會總裁ノ催フヘシ晚餐會ハ、市内第一ノ「ホテル、ウインゾル」ニ於テセラレタリ、參會者ハ副總裁、會長、委員長、事務官長、各國ノ事務官長、事務官、委員長、及ビ委員等、總テ博覽會ニ直接關係アル内外役員ノ集會ニシテ、其數百餘名、祝辭演說ハ各國事務官ノ口ヨリ更ル々々述ヘラレ、美酒佳肴ヲ列ネテ以テ歡待ヲ極メタリ、宴ハ夜七時ヨリ始リテ十時ニ終リヲ告ケタリ。此ノ宴會ノ招待狀ハ一種ノ趣味ヲ有スルカ故ニ、縮寫シテ此ニ添ユルコト、ナセリ、

博覽會大夜會 博覽會閉會後二日ヲ經テ、閉會祝賀ノ意味ヲ以テセル大夜會ハ、十一月十一日午後七時ヨリ「グラスゴー」市廳ニ於テ催フサレタリ。參會ノ男女約三千五百餘人、廳内ノ會堂ニ於テ總裁、會頭、市參事會員等ノ祝辭、謝辭、演說了リテ例ノ音樂奏セラレ、舞踏始マリ、二階及ヒ三階ノ各處ニ食堂ヲ設ケ、音樂モ亦三ヶ所ニ奏セラレ、美酒珍味ヲ口ニシ、巧妙ノ音樂ヲ耳ニセ、紳士貴女ハ、各歡樂ヲ盡クシテ十二時ニ散會セリ。蓋シ夜會トシテハ本博覽會中ニ於テ最モ盛大ニシテ美觀ナル者ナリキ。此ノ會ヲ以テ本博覽會諸饗宴ノ終リトナセリ





The President, The Chairman, Vice Chairmen  
 and the  
 Executive Council of the Glasgow International Exhibition, 1901  
 request the honour of

*M<sup>r</sup> K. Kubota,*

Company at Dinner in the Windsor Hotel, St. Vincent Street, at  
 7 P.M. on 23<sup>rd</sup> Oct. 1901, to meet the Commissioners for Foreign  
 Countries and British Possessions participating in the Exhibition.

*H. S. Hedley,*  
 General Manager

R.S.V.P.

GLASGOW INTERNATIONAL EXHIBITION KELVINGROVE, GLASGOW.

狀待招會餐晚會覽博



### 第三節 祭典

本博覽會開期中ニ著シキ祭典ナルモノナカリキ、只ダ閉會ノ當日即チ十一月九日ハ現皇帝ノ誕辰日ナルカ故ニ、市中ノ殷盛雜沓ハ名狀スヘカラス。博覽會ニモ亦相當ノ裝飾ヲ施サレタリ。元來蘇格蘭ノ舊習トシテ、前女皇ノ天長節ノ如キハ、其ノ奉祝ノ狀況ハ英愛地方トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニシ、二千乃至三千餘ノ學生及ヒ壯年者ハ、夜ニ入りテ炬火行列及ヒ假粧運動ヲ催フスノ傍ラ亂暴ヲ働キ、警察ノ力モ能ク防遏シ難キモノアリ、平素ト違ヒ此ノ祝日ニ限リテノ亂行ハ、一般人民モ亦敢テ深ク咎ムル處ナシト云フ。而シテ其ノ亂暴ノ張本者ハ實ニ「グラスゴー」Edinburgh「アバーヂン」Glasgow三大學ノ學生ナリトハ又驚クノ外ナシ、多年ノ習慣ハ一朝ニ改ムヘクモアラス、今モ猶其ノ勢ヲ存シ、年ニ依リテ其ノ相集ル處ヲ異ニシ、最モ興味多キ地ヲ擇ンテ押シ出スコトナレハ、今回ノ如キ博覽會ノ開設アル「グラスゴー」ノ如キハ、最モ彼等ヲシテ興味多キヲ感セシメタル處ナリシモ、エデンバラヲ始メ各地學生ノ「グラスゴー」ニ行クヲ止メシメ、警察署ハ特ニ附近ノ都邑ヨリ二百ノ巡查ヲ増發シ、猶其ノ上ニ博覽會入場者ヲ制限シ、百方カメテ安寧ヲ謀リシ結果、雜沓ノ割合ニ紛擾少ク、閉會式モ平穩ニ終リヲ告ケ、只タ纔ニ場内ニ在リテハ印度芝居及ヒ一茶店ノ窓戶破壊ノ亂暴アリシノミニテ、例年ニ比シ市中ニ於テモ大ナル珍事モ出來セザリシハ、一般ニ幸ヒトセル所ナリキ。此ノ祭日ニ就テノ喧騒ハ殆ンド翌曉ニ達スルヲ例トスト云ヘリ



第四節 紀念狀

本博覽會ハ其ノ規則ニ示スカ如ク出品ノ審査ヲ爲サス、隨テ褒賞ナルモノナシ、然レモ出品者及ヒ關係者ノ爲メニ各紀念狀ヲ贈與セリ、狀中記スル處、出品者ニハ各其本國ノ地方名人名ヲ、又役員及ヒ其他ノ關係者ニハ各其ノ職分ヲ附記シタル外ハ悉ク同一物ナリ、其紙幅二十一吋三十六吋半ニシテ、之ヲ縮寫シタルモノハ左ノ如シ





狀 念 紀



## 第六章 觀 覽 者

### 第一節 入場規制並ニ一般觀覽者ノ狀況

一般入場時限ハ日曜日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後十時マテノ間トシ、日曜日ハ普通縱覽人ハ勿論、出品者若クハ係員ト雖、特別入場ノ通券ヲ所持スルニ非レバ一切入場ヲ許サス。此ノ日曜特別券ハ、其ノ當日限り有効ノモノニシテ、前日ノ内ニ豫メ事務局ニ申出テ受取り置クヘキモノトス。サテ普通縱覽人ノ入場料ハ、一人一志ニシテ切符制ニアラス、入口ニ於テ直ニ現金ヲ拂ヒ渡シテ入場スルナリ。十四才未満ノ小兒ハ半額トシ、通券其ノ他ノ特別券ヲ所持スルモノハ、之ヲ門衛ニ示シテ足レリ。午後九時半ニ至レハ一切入場ヲ許サス。又九月十五日ヨリ專ラ労働者ノ便利ヲ謀リ、兼チテ博覽會ノ繁榮ヲ増サンカ爲メニ、午後六時ヨリハ半額入場料即六片ヲ以テ入場セシムルコト、ナシ、降雨ダニナクハ隔夜ニ場内ニ烟花ト電氣燈裝飾トノ餘興ヲ添ヘ、音樂堂ニハ九時半マテ音樂ノ演奏ヲ爲サシメタルカ爲メニ、物品ノ縱覽ヲ爲スト云フヨリモ、此ノ遊園ニ歡娛ヲ取ルノ入場者頗ニ増加シ、場内甚クシク雜沓ヲ極ムルニ至レリ。概シテ月曜日ハ上流人士ノ入場者多ク、土曜日ハ下層社會ノ入場者多シ。入場者ノ最モ多キ日ハ十八萬三千五百人ニシテ、少キ日ハ三萬一千六百人ナリキ。

入場者ノ爲メニ各入場口ニ博覽會案内ナルモノ、揭示セルアリ、各館ノ位置、食事場等ノ大要ヲ記シ、當日ノ音樂ノ番組ヨリ餘興ノ種類マテモ附記シ、懇切ニ案内ヲ爲シタルモノナリ。美術館ハ特別監督ノ必要上、午前十時開館、午後九時全ク閉館シ、九時前十五分ニハ鈴ヲ鳴ラシ、



巡查衛士ト共ニ在館者ニ退場ヲ促シ寸時モ假ストコロナシ。各國ノ特別館モ亦本館ト同様ニ、  
毎日午前九時ヨリ午後九時半マテハ、必ス開館スヘキノ約束ニシテ、若シ其ノ館ノ都合ニヨリ、  
或ル場合ニ此ノ時間ニ伸縮ヲ要スルトキハ、豫メ事務局ノ認許ヲ經ルヲ要シ、非常ノ場合ニア  
ラサレハ閉館ヲ許サス

第二節 入場者ノ統計

入場人數 (自五月二日至十一月九日)

出品者及ヒ其ノ關係者 一、二六六、六四〇 人

通常縦覽者(大人) 三、四二七、八九〇

此内半額六片入場者 (六二〇、六七三)

通常縦覽者(小兒) 四八〇、五三四

シーゾン切手所有者 六、一六九、一四二

鐵道及瀛車クーパー切手所有者 一、五三三、〇一四

合計 一一、四九七、二二〇

本博覽會ハ千八百五十一年以後英國ニ於テ開カレタル各種博覽會中、千八百六十二年倫敦萬  
國博覽會ニ次テノ多數入場者アリシ博覽會ニシテ、參考ノ爲メ左ニ十四回博覽會ノ入場人數  
表ヲ舉示ス。

年 度	博覽會種別	開會日數	入場員數
千八百五十一年	倫敦萬國博覽會	(自五月十一日 至十月十一日)	六、一七〇、〇〇〇
千八百五十七年	「マンチエスタ」美術博覽會	(自五月十五日 至十月十七日)	一、三三五、九一五
千八百六十二年	倫敦萬國博覽會	(自五月十一日 至十一月十日)	一六、〇三三、七二五
千八百八十三年	海產物博覽會	(自五月十四日 至十月三十一日)	二、七〇三、〇五一
千八百八十四年	衛生博覽會		四、一五八、三九〇
千八百八十五年	發明品博覽會		三、七六〇、五八一
千八百八十六年	殖民地及印度博覽會	(自五月四日 至十一月十日)	五、五五〇、七四九
千八百八十六年	「リバープール」博覽會		二、四六八、〇九八
千八百八十六年	「エデンバラ」博覽會	(自五月六日 至十月三十日)	二、七六九、六三二
千八百八十七年	「サルテール」博覽會	(自五月二十九日 至十月二十九日)	八二三、一三三
千八百八十七年	「ニューカッスルオンタイン」博覽會	(自五月十一日 至十月二十九日)	二、〇九二、二七八
千八百八十七年	「マンチエスタ」博覽會	(自五月三日 至十一月十日)	四、七六五、一三七
千八百八十八年	「グラスゴ」萬國博覽會		五、七四八、三七九
千九百〇一年	同 上		一一、四九七、二二〇



## 第三節 貴賓ノ來觀

英國皇帝八月初旬ニ、當博覽會ニ臨幸アルヘキ豫定ナリシモ遂ニ見合セトナリ、又露國皇帝若クハ大公ノ來會アルヘシトノ噂モ皆虛傳トナリ、貴賓ノ來觀ハ只タ暹羅皇太子ト倫敦市長トノ二人アリシノミ、其ノ他ニモ大陸ノ貴族大臣等ノ來會セシモノアリシト雖、何レモ微行ニシテ公式ヲ具ヘタルハ倫敦市長ノミトス。市長ハ八月六日「グラスゴー」ニ來着シ、超エテ八日公式ヲ以テ博覽會ニ臨ミ、儀衛旌旗車列等甚タ嚴肅ナリ。午前十一時美術館ニ於テ、内外紳士貴婦人ニ接見アリタル後、場内「グロスブノーア、レストラント」ニ於テ、貴紳二百五十餘名ノ午餐會ニ臨ミ、終リテ加奈多愛蘭二館ヲ一瞥シ、工業館ヲ一巡シテ去レリ。翌九日正午ニハ公式ヲ廢シ、其ノ令嬢ヲ伴ヒ特ニ日本館ニ來臨シ、一時間餘モ出品物及ヒ裝飾ヲ熟覽シ、出品物ノ説明、製作、手工ノ實示ニ付キ、一々熱心ニ見聞シ、非常ニ満足ヲ表セリ。同市長ハ十一日倫敦ニ向テ歸リ去レリ

## 第七章 附屬事業

## 第一節 諸集會

本博覽會ノ開設ヲ機トシ各種ノ集會ヲ「グラスゴー」市ニ催サレタリ即チ英國獎學協會、器械協會、化學會、萬國工學會、英國建築會、萬國教育美術學會、萬國法律會、電氣協會、海軍工業會等ニシテ其英國協會ニ出席セシ吾東京理科大学教授櫻井博士及萬國工學會名譽委員トシテ招待サレシ當時歐洲在留中ノ東京工科大学教授斯波博士ノ兩氏ヨリ會議ノ狀況ヲ報セラレタルニ付左ニ其概要ヲ記載ス

英國獎學協會第七十一年總會ハ千九百一十一年九月十一日ヨリ十九日ニ至ル十日間「グラスゴー」ニ於テ開會セリ同會ニテハ從來數學物理學(A)、化學(B)、地質學(C)、動物學(D)、地理學(E)、經濟及統計學(F)、機械學(G)、人類學(H)、生理學(I)及ヒ植物學(K)ノ十部會ヲ開キタルコトナルガ今回ヨリ教育學ノ一部門ヲ新ニ開設スルコト、シ英國教育制度ノ改善ニ熱心ナル「サー、ジョン、ゴルスト」氏ヲ以テ其部長トセリ今當年ノ會長並ニ各部長ヲ列舉スレハ則チ左ノ如シ

會長 「ルッカー」教授

部長 「マクマホン」博士(A)、「フランクランド」教授(B)、「ホーン」氏(C)、「エワード」教授(D)、「ミル」博士(E)、「ギッフェン」博士(F)、「クロムトン」氏(G)、「カニンガム」教授(H)、「マッケンドリック」教授(I)、「バルフォア」

教授(K)、「ゴルスト」氏(L)

次ニ會長以下各部長ノ爲シタル演說ノ大要ヲ紹介センニ會長「ルッカー」教授ハ有名ナル物理學



者ニシテ初日ノ總會ニ於ケル夫ノ演說ハ理化學ノ根本的理論ニ説キ及ボシ殊ニ原子說ノ確實ナルヲ論ゼルモノ「マクマホン」氏ハ十九世紀ノ初期ニ於ケル英國數學者ノ世界的位置ヲ叙シテ最近百年間ニ於ケル其進歩ヲ説キ「フランクリン」氏ハ二十世紀ノ初年ニ於ケル英國ノ化學「テフ」演題ノ下ニ於テ英ノ獨ニ及ハサル「遠キヲ慨シ「ホーン」氏ハ蘇國地質學晚近ノ進歩ヲ説キ「エワード」氏ハ變質ニ關スル實驗的研究ニツキテ述ル所アリ「ミル」氏ハ地理學研究ノ必要及ヒ範圍ヲ論シ「ギッフエン」氏ハ國民ニ統計思想ノ必要ナルヲ論シテ人口ト糧食トノ關係ニ及ヒ「クロムトン」氏ハ陸上交通機關ノ晚近ニ於ケル發達ヨリ生セル諸種ノ問題ニツキテ論シ「カニンガム」氏ハ最近二十五年間ニ於ケル人類學ノ進歩ヲ叙シ「マッケンドリック」氏ハ「生」ノ問題ニツキテ述ル所アリ「バルフォア」氏ハ「アンギオスベルム」ヲ論シ而シテ「ゴルスト」氏ハ英國ノ國民教育ノ不備不振ヲ概シ健全ニシテ學理的ナル教育制度ノ必要ヲ痛論セリ

通俗講談ハ「ラムゼー」教授ノ「空氣ノ不活動成分」及「ダー井ン」教授ノ「植物ノ運動」ト題セルモノナリシガ何レモ三千餘ノ聽講者アリテ非常ナル盛況ヲ呈セリ各部會ニ於ケル論文ハ枚舉スルニ遑アラズ殊ニ余ハ專ラ化學及ヒ物理學ノ二部會ニ出席セシカバ他ノ方面ニ於ケル論說等ハ多ク聞クヲ得ザリシナリ只一日數學教育ノ二部聯合ニテ數學授業法ニ就テ討論會ヲ開キシニツキ之ヲ傍聽セシガ「ベリ」教授ハ實地的授業法ヲ主張シ「フォーサイス」教授ハ反對ノ意見ヲ述ヘ甲論乙駁シテ中々活氣ヲ添ヘタリ

余ハ元ト賓客トシテ本會ニ招カレタルコトナレバ單ニ傍聽者ノ位置ニ立ツノ考ナリシガ早クモ化學部ノ委員ニ舉ケラレシノミナラズ是非共一場ノ演說ヲ爲スヘシトテ部長「フランクリン」氏ヨリ迫ラレ其不意打ニ驚キタレトモ辭スルニ途ナク幸ニシテ腹案ナキニシモアラザリシヲ以テ之ヲ承引スルコト、シ最後ノ會日ニ於テ「化學教育上ノ意見一二」ヲ題ニテ述ル所アリタリ即チ晚近十五年間ニ於ケル化學ノ發達著大ニシテ其面目全ク新マリ純然タル記述的學科ノ性質ヲ脱シテ尋理的學科ノ域ニ進入シ其ノ教育上ノ價值昔日ニ比シテ數倍セルモノアルニ係ラズ今尙ホ一般ニ六七十年傳來ノ舊式ニヨリテ之ヲ教授シ過多ノ箇々獨立ノ事實ヲ學生ノ腦裡ニ注入スルヲ以テ満足セルヲ非難シ化學ヲ尋理的學科ノ一トシテ教授シ以テ活智識ヲ學生ニ與ルハ斯學ヲ專攻セントスル者ノ爲メニ必要ナルノミナラス之ヲ工業等ニ應用セントスル者ノ爲メニモ亦極メテ必要ナル所以ヲ論シテ其前段トナシ後段ニ於テハ彼ノ獨乙化學者ノ一部分ガ教育上云々ノ理由ヲ以テ水素ノ原子量ヲ一トシ之レニ據テ他ノ原子量ヲ表出スベシト爲シ以テ萬國原子量委員ノ決議ニ反對セシモ斯ノ如キ理由ノ存スルコトナキノミナラズ水素說ノ却テ教育上不利ナルベキヲ論セリ此ノ演說ガ圖ラス大ニ部員ノ注意ヲ惹起シ「チルデン」「アームストロング」「デクソン」「ダイバス」「ポーブ」等諸氏交々起テ意見ヲ述ベ尠カラザル活氣ヲ同部會ニ與ヘタルハ余ノ面目トセシ所ナリ

英國獎學協會ハ一ノ學術的協會ニシテ其目的理學ノ發達及ヒ普及ニアルハ勿論ナレドモ又大ニ社交的ノ性質ヲ帶ヒ開會期中晚餐會茶話會園遊會等ノ催シアリテ學者同士ノ交際ヲ厚フスルノ機會ニ富メリ



「グラスゴー」萬國工學會議ハ千九百一一年九月三日ヨリ四日間「スコットランド、グラスゴー」市ニ於テ萬國博覽會ノ開設ヲ機トシ開會セリ其ノ景況ノ概畧左ノ如シ

一、萬國會議開設ノ準備 會議開設ノコトハ其ノ大凡ソ一ヶ年前ニ準備ニ着手シ「グラスゴー」市ニアル「グラスゴー」大學ノ教授諸氏ヲ中心トシ大英國内ニアル工學ニ關スル諸學會例ヘハ「ロンドン」ノ機械學會、造船協會、土木學會等其有力ナル諸學會ノ會員ヲ網羅シテ會議ニ會員トシテ列スルコトシ有名ナル「ロイド、ケルビン」氏ヲ名譽會長ニ「ロンドン」土木學會々長「マンサー」氏ヲ會長ニ仰キ「グラスゴー」大學ノ教授「コンマツク」氏ヲ總務主任ニ撰テ専ラ會務ニ當ラシメ本部ヲ「グラスゴー」大學中ニ設ケタリ他ノ方面即チ諸學會ニ於テハ各學會長及役員中ノ數名ヲ撰ンテ萬國會議ノ「グラスゴー」以外ノ委員トシテ各々其方面ニ向テ會務ノ補助及會議ノトキ提出スヘキ論說等ノ撰擇ニ當ラシメ會議當日ニハ各學會ノ會長ヲシテ萬國會議中ノ各部ノ議長トシテ臨マシムルコトニセリ

右ノ手順整フルノ後萬國會議ハ歐洲各國ノ政府ニ對シ參列スヘキ委員ヲ招待セリ又英國及諸外國中有名ナル工學ニ關スル學者ヲ名譽會員トシテ招待セリ右ノ招ニ應ジ參列シタル各國政府委員及名譽會員ハ別冊ニ示スガ如クニシテ又種々ノ學會等ヲ代表シテ參列シタルモノモアリキ(別冊略ス)通常會員ヨリハ會議ノ費用トシテ拾志六片ヲ徵集セリ

會議ノ期日ニ先チ各國委員及ヒ招待セシ會員及通常ノ會員ニ「グラスゴー」市ニ於ケル旅館等

ノ案内ヲ發スル等用意頗ル周到ナリキ

二、會議ノ組織及場處、會議ノ組織ハ前述ノ如ク名譽會長名譽副會長及書記長等アリテ本部ヲ組織シ各部門毎ニ部長各學會ノ會長ヲ以テ之ニ充ツ(書記各學會ノ書記ヲ以テ之ニ充ツ)アリテ各部ノ業務ヲ担任シ會議中ハ部長議長席ニ着クコトシ各部長ハ會議副會長ノ資格ヲ有セシメタリキ其他接待員長地方委員「ロンドン」委員等ヲ設ケ斡旋セシメタリキ

會議ノ部門ヲ分テ九トス左ノ如シ

第一、鐵道 第二、河川及港灣 第三、機械 第四、造船及船用機關 第五、製鉄及製鋼 第六、鑛山

第七、都市設備工事 第八、瓦斯 第九、電氣

萬國會議ノ會員ハ右ノ九部ノ中何レニテモ好ム處ニ從ヒ出席シ及ヒ發言スルコトヲ得セシメタリ

會議ハ主ニ午前中ニ開會シ午後ハ「グ」市及附近ニ於ケル諸工場等凡テ工學ニ關スルモノ、觀覽ヲ爲セリ

會議ノ場所ハ「グラスゴー」大學ニ於テシ各部全時ニ同校内諸教場ニ於テ開會セリ

三、會議開會中ノ景況、九月二日午前會長「マンサー」氏各國政府委員名譽會員各々握手シテ迎ヘ及ヒ通常會員ヲ召集シテ開會ノ辭ヲ述ブ

同夜午後八時接待員長「ケーヤド」氏主人トナリ各國政府委員、名譽會員「ロンドン」委員等「グ」市「セントアンドリュ」館ニ招待シテ晚餐ノ宴ヲ張ル席上「ケーヤド」氏ノ挨拶及政府委員等ノ謝辭



等アリテ頗ル盛會ヲ極メタリ會スルモノ大凡ソ三百人

會議ノプログラム左ノ如シ

九月三日 午前演說 午後工場視察 夜八時グラスゴー市々長會員一同ヲ招待シテ夜

會ヲ催ス

四日 午前演說 午後工場視察及蘇格蘭アヴァフエル「ラナルク」及「クライド」瀨ノ

遊覽

五日 午前演說 午後工場視察及「ロクローム」遊覽 夜會セント、アンドリウスホー

ルニ催サル

六日 「ビュット」及「アラン」「エデンバラ」及「フラスブリッチ」「ロクローム」等最終ノ遊覽ヲ

ナス

右終リテ會員ハ隨意解散シテ茲ニ全部結了セリ

四、會議ノ事項及論文（論題及論文畧ス）

第一部	鐵道	論文ヲ讀ミシハ七人
第二部	水路	同 十三人
第三部	機械	同 十六人
第四部	造船	同 七人
第五部	製鐵	同 十二人

第六部	礦山	同 十九人
第七部	都市工事	同 八人
第八部	瓦斯	同 十一人
第九部	電氣	同 八人
以上		

第二節 「グラスゴー、ユニヴァース」紀念祭

「グラスゴー」大學ハ一千四百五十一年「セームス」第二世ノ代ニ基礎ヲ置カレタルモノニシテ第二十世紀ノ初年ハ即チ其創立四百五十年ニ當レルヲ以テ萬國博覽會開設ノ好機ニ際シ六月十二日ヨリ十五日マテノ四日間ヲ期シテ一大紀念祝賀式ヲ舉行セントテ當局ノ人々ハ疾クヨリ諸種ノ準備ニ着手シ且ツ各國ノ大學著名ナル學會等へ宛夫々案内狀ヲ發送セシ所ナルカ我東京帝國大學ニテハ其案内ニ依リ櫻井、飯島ノ兩教授之ニ參列シタリ今該祝賀式景況ニ付櫻井博士ノ筆記ヲ得タレハ左ニ之ヲ記載スルコト、セリ

（前略）各大學學會等ヲ代表シテ式ニ參列セシモノ約四百名ニシテ外ニ個人的ニ案内ヲ受ケテ臨場セシ貴族、裁判官、學者、官吏、議員、當大學卒業者并ニ其ノ家族「グラスゴー」市ノ重ナル市民等千數百名アリテ總計無慮二千名餘ニ達シ非常ナル盛況ヲ呈セリ殊ニ當時全市ニ於テ大博覽會開設中ナリシカバ市中ノ賑ヒ旅館ノ混雜言ハン方ナク而カモ好天氣ノ打續キタ



ルハ誠ニ仕合ナリキ。扱式ハ十二日ヲ以テ開始サレシガ、十一日ノ晩ニハ學生ノ假裝松明行列アリテ、前景氣ヲ付ケタルコト尠カラス。今便宜ノ爲メ右四日間ノ「プログラム」ヲ掲クレハ則チ左ノ如シ

十二日、午前十時半紀念祈禱式。午後二時半大學總裁ノ各國代表員引見并ニ祝文進呈式。午後八時半夜會。午後九時學生唱歌會

十三日、午前十時「ゼームス、ウオット」傳(ロイド、ケルヴィン)講演「アダム、スミス」傳(スマート)教授

講演名譽學位授與式。午後三時新築植物學教場開場式。午後四時園遊會。午後九時半夜會

十四日、午前十一時半「ウイリアム、ハンタ」傳(ヤング)教授講演「音樂演奏」。午後三時茶話會。午後七時市長宴會。午後九時學生夜會

十五日、午前十時ヨリ午後五時マテ「クライド」海峽ノ船旅行

サテ大學ガ紀念式ヲ舉行スルニ當リテ初日第一着ニ祈禱ヲ爲ス如キハ、人ヲシテ奇異ノ想ヲ爲サシムル所ナラン、ナレトモ元來當大學ハ宗教ノ勢力強大極マリシ時代ニ於テ「タンブル」ト呼ヘル大僧正ノ熱心ナル盡力ト、國王「ゼームス」第二世ノ請願トニヨリテ、初メテ羅馬法王「ニコラス」第五世ノ論文ヲ得、以テ其創立ヲ見ルニ至リシモノナルカ故ニ、此ノ宗教的儀式ハ即チ創立當時ノ時勢ヲ追懷セシムル所、紀念式ヲ舉クルニ當リテ先ツ之ヲ行フハ適當ノ順序ナルヘシ。祈禱ハ「グラスゴ」有名ノ寺院ニ於テ「ミユア」神學博士之ヲ勤メ、大學職員各代表員等ハ多ク正服若クハ學服用ニテ、指定ノ時刻寺院ニ參集シテ式ニ列セリ

大學總裁ノ各代表員引見并ニ祝文進呈式ハ、大學内ナル「ビュート、ホール」ト呼ヘル大講堂ニ於テ施行サレシガ、時刻到ルヤ大學職員及各代表員ハ奏樂ニ導カレテ設ケノ席ニ就キ、其他ノ諸員ハ階上階下隨意ニ着席セシコトナルガ、何分二千余ノ人數ナレハ、サスガニ廣キ式場モ瞬時ニシテ立錫ノ余地ナキニ至リ、尙場外ニ人ノ山ヲ築キタリ。總裁「ステイヤ」廬事故アリテ式ニ與ルコト能ハサリシヲ以テ副總裁「ストーレ」博士代リテ先ツ歡迎ノ辞ヲ述ヘ、尋テ各代表員ヲ順次引見セシガ、何レモ簡單ナル祝辞ヲ述ヘテ、其齋セル所ノ祝文ヲ進呈セリ。蓋シ祝文ノ數二百二十八ノ多キニ至リシガ爲メ、其朗讀ヲ省略セシナリ。此ノ二百二十八通ノ祝文中羅典語ヲ用ヒタルモノ百四十六、英語ヲ用ヒタルモノ五十六、獨語ヲ用ヒタルモノ八佛語ヲ用ヒタルモノ七、「ウエールス」語ヲ用ヒタルモノ三、「伊語」ヲ用ヒタルモノ三、「サン」スックリト「語」ヲ用ヒタルモノ二、露語ヲ用ヒタルモノ一、「チ」ヒ語ヲ用ヒタルモノ一、「日語」ヲ用ヒタルモノ一アリ

初日ノ夜會ハ準備ノ都合ニヨリ、大學本部ニ於テ之ヲ開クコト能ハサリシカバ、其ノ女子部タル「クイン、マーガレット」校ニ於テ催フサレシガ、部長「ガロウエ」嬢主人トナリテ客ヲ受ケ、數十名ノ卒業貴婦人ハ接待掛ノ勞ヲ取リテ客ヲ遇シ、且ツ優美ナル音樂唱歌等ノ餘興アリテ、如何ニモ上品ニシテ愉快ナル催ナリキ。余ハ此ノ夜會ヲ十一時頃ニ辞シテ、夫レヨリ直ニ大學俱樂部ニ於テ催フサレタル學生唱歌會ニ臨ミシガ、彼ト是トハ自ラ其趣大ニ異ナル所アリテ、失笑的唱歌、滑稽演述等モ亦大ニ興味アリシナリ。而シテ多數學生ノ催シニ係ル會合ナ



レハ、随分雜沓ヲ極ムヘキ筈ナルニ、其ノ然ラスシテ萬事座長ノ指圖ニヨリテ行ハレ、契烟自由諸事無遠慮ナガラ、規律整然トシテ乱ル、コトナカリシハ、當國學生ノ特風ナルヘシ  
翌十三日ニ施行サレタル要務ハ、全祝典中人々ノ最モ待受ケタル所ナリシガ如シ式場ノ光景ハ初日ト異ナルコトナク、階上階下共相替ラス人ノ山ヲ築キシガ、午前十時ヲ報スルヤ「ロード、ケルヴィン」ハ拍手喝采沸クカ如クニ迎ヘラレテ靜ニ演壇ニ上リ、「グラスゴ」大學ガ此祝典ヲ舉クルニ當リテ、今ヨリ百四十五年以前ニ於テ、當時數學器械ノ一製作人、後チ蒸氣機關ノ發明者、人生ノ大恩人ニ一小室ヲ貸與シテ其工場タラシメタル事ヲ追懷スルノ至當ニシテ、且ツ大ニ愉快ナルヲ信スト説キ起シ、老體ナガラ少シモ疲勞ノ氣色ナク、一時間余ニ涉リテ「セーム、ウオット」傳ヲ講演シ、亞テ「スマート」教授ハ「グラスゴ」大學教授時代、佛國漫遊時代、及著述時代ノ三段ニ別ケテ「國ノ富」著者、經濟學ノ元祖タル「アダム、スミス」ノ傳ヲ講演セリ。次ニ名譽學位授與式ニ移リシガ、學位ヲ受クヘキ人何分百名内外モアリシ事ナレハ、其學歷ヲ一々朗讀スルノ暇ナク、單ニ姓名ヲ讀ミ上ルニ從ヒ、一人宛副總裁ノ前ニ進ミテ、戴帽ノ式ヲ受ルコト、ナレリ。斯クテ各候補者ガ呼出サル、ヤ、拍手喝采ノ響堂ニ滿チテ耳モ裂ン計リナリシガ、此日此榮譽ヲ博セシ人々ノ中ニハ文學者アリ、醫學者アリ、法學者アリ、理學者アリテ、今理學者中一二ノ最モ著名ナル人ヲ舉クレハ、獨國物理學者「クインケ」、伊國化學者「ナシニ」、英國化學者「ロスコ」、全物理學者「ゼ、ゼ、トムソン」、全地質學者「ゲイキ」等ノ諸氏ナルヘシ。又大ニ毛色ヲ異ニセルモノアリテ「カーネギ」氏ノ如キハ即チ其一人ナリ、蓋シ蘇國大學ノ

爲メニ莫大ナル寄附金ヲ爲セシ大恩人トシテ、「グラスゴ」大學ガ氏ヲ遇スルニ此名譽學位ヲ以テセシモノナラン

此日午后三時ヨリ植物學教室ノ開場式アリタリ、蓋シ「グラスゴ」大學在來ノ植物學教室ハ狹隘ニシテ學術研究ニハ勿論、學生ノ授業ニモ大ニ不便ヲ感セシモ、經費上ノ都合ニテ増築スルノ運ヒニ至ラスシテ、當局者ハ大ニ遺憾トセシ所ナリシガ、有志者ノ寄附金アリテ經費ノ不足ヲ補フヲ得テ、新ニ教室ヲ建築スルニ至リ、工事モ竣功セシニ付、此日ヲトシテ其開場式ヲ舉行セシコトニシテ、「フリーカ、リスタ」等諸名家ノ祝辭演說アリテ甚タ盛典ナリキ、學問ノ爲メニ莫大ナル私財ヲ投シテ之ヲ獎勵スル人ノ、英米ニ續々アルハ實ニ羨シキ限リナリ。サテ右開場式ニ引續キテ、午后四時ヨリ植物園ニ於テ園遊會ノ催シアリシガ、隣地ノ「クイン、マーガレット」校ヲ以テ休憩所トナシ、此所ニ淡薄ナル茶菓ノ用意、及園内ニ樂隊ノ設ケアリキ。サテ又午后九時半ヨリ夜會ハ大學ノ「ビュート、ホイ」圖書館及博物館ニ開カレシガ、參會者三千余ニ及ヒテ非常ナル盛況ヲ呈セリ、此夜各團體ヨリノ祝文ヲ圖書館ニ陳列シテ參會者ノ一覽ニ供セシガ、我東京帝國大學ノ祝文及之ヲ納メタル函ハ、一對ノ好美術品トシテ、大ニ衆目ヲ引キ好評ヲ博セリ

十四日午前ニハ「ヤング」教授ガ解剖學者、醫學者ニシテ「グラスゴ」大學内ナル彼ノ有名ナル「ハンテリアン、ミュージアム」解剖學大博物館ノ創立者タル「ウイリアム、ハンタ」ノ傳ヲ講演シ、次ニ音樂ノ催シアリ、午后ニハ茶話會ヲ開カレタルガ、博覽會當事者ノ厚意ニヨリテ、全會場



内ナル美術館ヲ以テ會場トシ、相替ハラスノ盛會ナリシナリ。又夕刻ニハ「グラスゴー」市ノ催シニ係ル大宴會ヲ市廳ノ大理石堂ニ開キシガ、招待ニ應シテ午后七時前後參會セシ各代表員等四百余名ニ對シ、市長ハ主人トシテ一々挨拶ヲ爲シ、夫レヨリ一同宴會ノ席ニ移リテ、極メテ鄭重ナル晚餐ノ饗應ヲ受ケ、食後數番ノ祝詞演說等アリテ、非常ナル盛況ヲ呈セリ。此ノ晩學生ノ夜會アリシガ、余ノ右宴會ヲ辞シタルハ、既ニ夜半ノ頃ナリシカバ之ニハ赴カサリシナリ。

十五日ハ祝典最終ノ日取リニテ、クライド海峽ノ船旅行ハ此日ヲ以テ催フサレタリ。天氣快晴風清涼ニシテ、此種ノ催シニハ詠ヒタル如キ日和ナリシガ、午前十時「グラスゴー」及南西鐵道會社ノ特別列車二臺ヲ以テ、乘客ハ先ツ「グリノック」ニ送ラレ、此所ヨリ一同「グレン、サノック」ト命名セル、全會社ノ美麗ナル小汽船ニ乘リ移リテ、遙ニ海峽ヲ下リ「ビュート」島ヲ周リテ歸路ニ就キ、「グリノック」ヨリ更ニ特別列車ニテ「グラスゴー」ニ歸リシハ六時半頃ナリキ。蘇國ガ天然ノ風致ニ富メルハ人ノ知レル所ナルガ、「クライド」海峽ニハ山水ノ趣甚タ妙ナルモノ多クシテ、前三日間午前ヨリ夜半ニ至ルマテ、種々ノ要務ノ爲メニ殆ント忙殺サレントセシ余等ノ神身ハ、此ノ愉快ナル且ツ氣樂ナル船旅行ニヨリテ全ク洗濯セラレ、紀念祝典ハ茲ニメデタク終リヲ告ゲヌ。

### (後略)

此ノ紀念祝賀式ニ際シテ、工學博士櫻井錠二氏ハ全校ヨリ名譽學位(D. Sc.)ヲ授與セラレタリ。

又本會委員長委員ハ全總裁ノ招待ニヨリ、祝賀式ニ參會シ且ツ饗宴ニ列セリ。

### 第三節 會場内ノ餘興

本博覽會ハ元來蘇格蘭固有ノ習俗ヲ表ハセルモノナルカ故ニ、何地ノ博覽會ニモ殆ンド常例トシテ設立サル、附屬的余興ノ種類甚タ少ク、或ハ却テ其ノ嚴肅ニ偏スルナキヤヲ思ハシメタリ。千九百年巴里博覽會ノ事ハ言フニ及ハス、米國「パフアロー」博覽會ノ如キスラ、猶且ツ六十有餘ノ見世物餘興ノ附屬セルモノアリシニ、此ノ「グラスゴー」博覽會ニハ只ターノ印度芝居アリシノミ、其ノ他ノ遊戯トシテハ自動鐵道「ウオターシュー」ト「電氣快遊船」鐵道模型、競走游泳、射的ノ事アリシニ過キス。

自動鐵道ハ我國ニ於テ第三回内國勸業博覽會ノ當時、上野山内ニ設置シタルモノト同様ニシテ、比較的距離ノ遠キ差アルノミ、會場ノ北方大學校ノ下、丘陵起伏セル邊ニ設ケラレ、日々ノ遊戯者最モ多ク、婦人小兒亦喜ンテ之ヲ試ムルノ風アリキ。

「ウラター、シュー」ト「仮リニ舟滑リ」トモ名ケンカ、一千九百年米國桑港ニ建設シ、次テ倫敦「アイリスコー」ト夏季博覽會ノ際、七十呎ノ高サヲ以テ設ケラレタル遊戯ニシテ、加奈多人「キラルフイー」ノ創始シタルモノナリ。本博覽會ニ設ケラレタルモノハ其ノ高臺ノ高百呎ニシテ、「ケルプイン」河ニ舟ヲ流スコト、ナセリ、今此ノ遊戯ノ趣向ヲ畧記スレハ、試乗セントスルノ客ハ下部ノ待合所ニ入り、函車ニ身ヲ投スレハ、「ケーブル」ノ自動ニ依リ、一分時ニシテ百呎ノ高台上ニ達



スヘシ此ニ於テ更ニ八人一組トナリテ他方ノ小舟ニ乗組ミ、頓テ繫鎖ヲ外ツセハ舟ハ數秒ノ間適度ノ勾配ヲ以テ造ラレタル軌道ノ上ヲ疾下シ、水面ヲ突キテ飛沫左右ニ騰昇シ、咄嗟池中ニ没入セシカト見ル間ニ、左ハナクシテ飛沫ノ間ヲ潜リテ進ミ、一高一低動搖數回ノ後、波止場ノ如キ岸ニ着キテ乗客ヲ上陸セシムルナリ。其ノ壯快ナルカ爲メニ乗客日ニ三千乃至五千人ヲ超ユルコトアリ、又乗ル人ヲ見ルニ婦女老幼ノ差別ナク、何レモ嘻々トシテ快ヲ呼ヘリ、又飛沫ノ爲メニ衣髮ヲ濡スカ如キコト毫モナキハ一段ノ妙味ヲ存セル處ナリ

此ノ「ウヲター、シユート」興行ノ支配人ハ大ナル日本好ノ人ニシテ高台ノ四柱ニハ常ニ合衆王國蘇格蘭露西亞ノ各國旗ト共ニ日本ノ國旗ヲ懸シ居レリ

模型鐵道トハ普通流車ノ小模型ニシテ、小兒ノ遊戲ニ充ツルニ過キス、電氣快遊船トハ大人六人ヲ容ル、ニ足ル小舟ヲ「ケルヅイン」河ニ泛ヘ、電氣動力ニ依リテ進航スル者ナリ、右何レモ趣味ニ乏シク、殆ント余興トシテ數フルノ値ヲ有セスト雖、亦相應ニ遊戯者アリシハ別表ニヨリテ之ヲ知ルニ足レリ。此外ニ運動會部ノ催ニ係ル遊泳ノ競技、「クリケット」障害物競走等アリキ

興行物入場員數概表

種目	人數	(一人遊戯料)
電氣快遊船	八七、〇〇〇	六片
「ドーム」電氣昇降觀覽者	一九五、〇〇〇	六片
「ウヲター、シユート」	六五一、〇〇〇	六片

模型鐵道	一五二、〇〇〇	三片
自動鐵道	一、一一一、〇〇〇	六片
印度芝居	一九七、〇〇〇	六片

余興トシテ最も價值アリシモノハ音樂、花火、及電氣裝飾ナリ。會場内ニ入りテハ一錢ヲ費サスシテ是等ノ娛樂ヲ恣ニスルヲ得セシム。東西北三ヶ所ノ樂堂ニハ、毎日午前十時半、ヨリ夜ノ九時半マテ七八番ノ音樂アリ、晝夜其ノ樂手ヲ變更シ、米國、白耳義、和蘭、獨逸、露西亞、佛蘭西、英、蘭、及蘇格蘭等各國ノ名高キ音樂家ヲ招聘シ、日々番組ヲ換エ各其ノ妙處ヲ演奏セシム、此ノ音樂ノ爲メニ博覽會ノ費ヤセシ金高約二萬磅ナリト云ヘリ

大音樂堂ハ特ニ入場料ヲ徴シ、晝夜二回ニ分チテ音樂演奏ヲナス、堂ノ建築ハ「グヰネンヤ」風ニシテ圓形ナリ、圓塔ノ高サ八十呎ニシテ堂ノ直徑百四十三呎アリ、堂内五千人ヲ容レテ優ニ餘地アリ、又舞臺ニハ五百人ノ樂隊ヲ容ル、ニ足ルベシ、「ホール」トシテノ大サハ現今英國中ノ第一等ノ大サヲ有ス、堂内ニ備付ケラレタル大「ラルガン」ハ「ブリクストン」ノ「リウリ」會社ノ特別製品ニシテ最も優等ナル物ナリト云ヘリ。而シテ此大樂堂ハ平時ハ音樂場ニ充ツルト雖、公會儀式等ノ場合ニハ其式場ニ充用スル事トナセリ

烟花ハ「ケルブイングロウ」高丘ノ間ニ於テ催サレ、其ノ一タビ發火スルヤ仕掛、打揚ノ兩者殆ト間斷ナク、約二時間ニ亘リテ願盼ニ違アラサラシム、亦壯麗ノ一觀ナリトス



電氣燈裝飾ハ九月中旬ヨリ始メラレタリ、各館ノ外廓及附屬諸館、數十万ノ電燈五彩ノ色ヲ以テ絢ラレ、電火一タヒ點セハ忽チ不夜城ヲ現出シ美觀言ハン方ナシ、此中ニモ美術館ハ全ク白色燈ヲ以テ淡泊ニ飾ラレ、工業館ハ五彩燈ヲ以テ華カニ裝ハル。其外ケルブイン河ノ兩岸ヨリ各橋ノ欄邊マテ、各色ノ「ランブ」ヲ以テ光彩ヲ加ヘ、宛然畫裏ノ如シ。蓋シ場内廣漠ニ過キス、乱雜ニ流レス、規劃自カラ正シク、景趣備ルアルヲ以テ、一ノ大假山水ハ更ニ能ク其ノ美趣ヲ發揮スルモノアリ、紛雜卑俗ノ見世物餘興ナシト雖、優ニ婦女童幼ノ娛樂ヲ取ルニ餘リアリ、亦以テ本博覽會設計者ノ意思、及蘇格蘭習俗ノ如何ヲ了解スルニ足レリ

## 第二編 本邦ノ部

### 第一章 出品同盟會ノ成立

#### 第一節 趣意

英國グラスゴー萬國博覽會出品同盟會趣意書

千九百一年英國グラスゴーニ開設スベキ萬國博覽會ハ巴里博覽會ノ如ク規模大ナラスト雖其計畫ノ整頓完備セルコトハ實狀ヲ視察セシ人ノ舉ケテ賞賛スルトコロニシテ其ノ盛況好果ヲ呈スベキハ同地先年ノ例ニ徴シテモ亦疑ヲ容レザルベシ然ルニ我政府ハ英政府ノ公開スルモノニアラザルヲ以テ例トシテ賛同スルニ至ラザリシモ之ヲ國際上ニ就テ考フルトキハ假令國家トシテ賛同セザルモ個人トシテ之ニ出品シ以テ賛同ノ意ヲ表明スルハ當ニ美擧ナルノミナラズ將來工藝品ノ販路ヲ擴ムルノ捷徑タルベキヲ信ス加之既設巴里博覽會ノ景況豫想ノ如クナラズシテ出品者ガ多年精神ヲ籠メ巨資ヲ要シタル精巧ナル工藝美術品モ空シク還送サル、者少カラザルベク各出品者ニ於テモ殘品ヲ生スルハ固ヨリ豫期スル處ナルベシト雖モ亦大ニ苦痛ヲ感セザルヲ得サルモノアリ今是等ノ殘品ヲ併セテグラスゴー博覽會ニ出品シ廣ク世人ニ紹介セバ則チ一舉兩得ノ策ヲ得ル者ト謂フ可シ況ンヤ本年ノ初メニ於テ彼ノ委員ヨリ我外務大臣ニ向テ我商工業者ノ出品ヲ勸奨シ且ツ巴里博覽會ノ殘品ヲ廻送出品センコトヲ懇請シ來リ又委員ヲ巴里ニ派シテ親シク出品者ニ之ヲ請求シタル處アル



ニ於テヲヤ左レバ國際上トシテモ亦其ノ希望ヲ空クセザランコト本邦人ノ最モカム可キ義務ナリト信ス此ニ於テカ在巴出品人中ニモ既ニ巴里ノ殘品ヲ廻送センコトニ決シタルモノアリト雖猶此ノ以外ノ出品者モ少カラザルコトナレバ其ノ殘品ト新製品トヲ併セテ出品シ以テ相俱ニ賛同シテ將來貿易上ノ利益ヲ確實ニセンコトヲ謀ラントス是レ本會ヲ組織シタル所以ナリ

明治三十三年八月十二日

第二節 組織

前節ノ趣意ヲ以テ、一千九百年七月巴里博覽會開會中、同地ニ於テ同志者ノ團體ヲ組織シ、グラスゴー」ヨリ派遣サレタル同地ノ委員及ヒ事務官長ト數回ノ交渉ヲ重ネ、本邦ヨリ出張セル諸官民ノ賛成ヲ得テ、八月十二日其ノ創立會ヲ開キ諸般ノ協議ヲ爲シ、委員長以下仮リニ責任アル委員ヲ撰定シ、一方ニハ「グラスゴー博覽會ニ向テ出品賛同ヲ通スルト共ニ、特別ノ便宜ヲ與ヘラレンコトノ協商ヲ爲スノ必要ヲ生シ、總代委員山口鐵之助、村上剛外三名ハ、九月九日ヲ以テ「グラスゴー」ニ出張シ、其ノ重役ト緊要ノ交渉ヲ遂ケ、大ニ彼レカ歡迎ヲ受ケ、畧ホ我々希望ヲ容ル、コト、ナリ、此コニ出品ノ權利ト特別ノ便宜トヲ得タリ。之ト同時ニ一方ニハ本國政府ニ補助金ノ下附ヲ請願シ、併セテ商工業者ニ新タニ出品ヲ勸誘センカ爲メニ、其ノ委員トシテ河原徳立及ヒ窪田勘六ハ、九月十日佛國ヲ出發シ、英國ヲ經テ急行歸朝シ、十一月一日東京ニ本部

ヲ設ケ、定款ノ認可ヲ申請シ、以テ出品同盟會ノ確立シタルコトヲ内外ニ公表シ、政府ニ向テ補助金ノ下附ヲ出願シ、各地方廳及ヒ工業者ニ出品ヲ勸誘シタリ。超エテ明治三十四年四月二十日、會頭ニ早川周造ヲ推選シ、委員以下役員ノ更任選定アリテ、本會ノ組織全ク成レリ

役員氏名

- |     |       |
|-----|-------|
| 會頭  | 早川周造  |
| 委員長 | 鹽田眞   |
| 委員  | 河原徳立  |
|     | 北濱三十郎 |
|     | 鈴木吉五郎 |
| 顧問  | 山口鐵之助 |
|     | 丹羽圭介  |
| 評議員 | 深川忠治  |
|     | 稻葉七穂  |
|     | 荒木眞弓  |
|     | 大塚卯三郎 |
|     | 宮川半之助 |
|     | 松原榮   |
|     | 村上剛   |
|     | 窪田勘六  |
|     | 松本佐平  |
|     | 清水聞二  |
|     | 渡邊徹   |
|     | 松尾寛三  |
|     | 安藤重兵衛 |
|     | 佐野嘉七  |
|     | 大澤芳太郎 |
|     | 山村貞輔  |
|     | 織田利三郎 |



第三節 諸規則

規則

第一章 總則

第一條 本會ハ明治三十四年英國グラスゴ―萬國博覽會ニ出品セントスル者並ニ之ヲ贊成スル者ヲ以テ組織ス

第二條 本會ノ目的ハ巴里萬國博覽會出品物殘品ト特別出品スル者トヲ併セテ出品シ我精巧ナル工藝品ヲ偏ク歐洲人ニ示シ將來ノ販路ヲ擴張スルニアリ

第三條 本會ハ英國グラスゴ―萬國博覽會出品同盟會ト稱ス

第四條 本會ハ東京ニ本部ヲ置キグラスゴ―府ニ支部ヲ設ケ猶必要アル場合ニハ便宜ノ地ニ出張所ヲ置クモノトス

第五條 本會ノ存立ハグラスゴ―萬國博覽會閉會後事務ヲ完結シ諸般報告ノ終ルヲ以テ期限トス

第六條 本會ハ營利ノ目的ニアラサルモ會頭委員ハ本會ニ關スル一切ノ責任ヲ連帶負擔ス

第七條 本會ハ會員外ノ出品物委託ヲ受クルコトヲ得ズ

第二章 會員

第八條 本會ノ會員ハ名譽贊助員通常會員特別會員ノ三種ニ分ツ

一名譽贊助員ハ名望又ハ資力アル人ヲ推シテ本會成立ノ扶掖ヲ請フモノトス

一通常會員ハグラスゴ―博覽會ニ出品スルト否トニ關ラズ會費トシテ金三圓ヲ納ムルモノトス

一特別會員ハ會費ノ外本會資金トシテ金五百圓以上ヲ前納スル者トス  
但決算ノ際剰金アラバ之ヲ返附ス

一諸組合又ハ購協會ガ各自ノ出品ヲ代表シテ入會スル場合モ亦前項ノ例ニ依ル

第九條 新ニ本會ニ加入セントスル者ハ住所姓名及職業ヲ記載シ本會ヘ申込ム可シ  
第十條 本會ヲ退會セントスル者ハ其旨會頭ニ届出ツ可シ  
但既納ノ會費ハ返却セザルモノトス

第三章 役員

第十一條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 壹名 委員長 壹名 委員 五名以上

顧問 若干名 評議員 若干名

第十二條 會頭及委員長ハ會員之ヲ推選ス

第十三條 顧問及委員評議員ハ會頭之ヲ選任ス

第十四條 會頭ハ本會ヲ代表シ本會全般ノ事務ヲ統轄ス

第十五條 委員長ハ會頭ノ指揮ヲ受ケ諸般ノ事務ヲ處理シ會頭事故アル時ハ之ヲ代理ス

第十六條 會頭缺員ノ場合ハ委員長兼テ其權限ノ事ヲ行フコトヲ得



第十七條 委員ハ委員長ヲ輔佐シ諸般ノ事務ヲ分擔處理スル者トス

第十八條 評議員ハ會頭ノ招集ニ應シ本會ニ關スル重要ノ事項ヲ評決ス

第十九條 顧問ハ會頭其他役員ノ諮問ニ應答スルモノトス

第二十條 役員ハ總テ名譽職トス

但時宜ニヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトアルベシ

第二十一條 事務進捗ノ爲メ有給事務員若干名ヲ置キ委員長之ヲ任免ス

#### 第四章 事務

第二十二條 本會ハ左ノ事項ヲ執行ス

第一項 グラスゴ―大博覽會々社ト陳列ノ場所及地所等ノ借受ヲ協定スルコト

第二項 出品ニ要スル建築裝飾整頓一切ノ準備ヲナスコト

第三項 出品物ヲ輸送解荷陳列保管スルコト

第四項 出品物ヲ販賣説明スルコト

第五項 出品物ニ對シ注文申込アル時ハ其ノ紹介取次ヲナスコト

第六項 閉會後殘品ニ關シ荷造返送ヲナスコト

但特約アルモノハ適宜處分スルコトアル可シ

第七項 前各項ノ外出品ニ係ル一切ノ事務手續ヲ執行ス

#### 第五章 會計

第二十三條 本會ノ出納ハ評議會ノ評決ヲ以テ定メタル豫算ニ依リ之ヲ處理スル者トス

第二十四條 本會ノ經費ハ會資會費及出品者ノ負擔スル手数料ヲ以テ支辨スル者トス

#### 第六章 雜則

第二十五條 本會ノ會議ハ總テ出席員ノ多數決ニ據ル者トス

第二十六條 本會事務細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條 本會規則ハ必要アル場合ハ評議員會ノ評決ヲ經テ修正スルコトヲ得

第二十八條 巴里博覽會出品聯合協會並ニ出品組合へ委托セシ物品ヲ本會へ委托セント欲

スル時ハ其理由ヲ明記シタル委任狀ヲ本會ニ差出スト同時ニ其旨出品聯合協會又ハ出品

組合へ通知スベシ

第二十九條 前條ノ場合ニ於テハ本會ハ之ヲ出品聯合協會又ハ出品組合へ交渉シ巴里博覽

會場ニ於テ出品物ヲ受領シ出品ノ手續ヲ爲スモノトス

#### 出品同盟會責任及監理規程

#### 第一章 責任

第一條 出品物ニ關スル本會ノ責任ハ

一 物品ヲ本部若クハ支部出張所ニ於テ受領セシトキニ生ス

一 物品ヲ販賣セシトキハ其代價ヲ出品者ニ拂渡セシトキニ消滅ス



一 物品ヲ還付スル場合ニハ出品者ノ希望ニ隨ヒ本部支部又ハ出張所ニ於テ物品ヲ出品者ニ引渡セシトキニ消滅ス

第二條 不可抗力ノ外本會役員若クハ雇人ノ故意懈怠ニ依リ受托物品ヲ亡失毀損セシトキハ本會ハ其ノ出品者ニ對シ賠償ノ責ヲ負フ可シ

第三條 前條ノ賠償額ハ物品ノ原價ヲ超過セザルモノトス但運賃及雜費ノ仕拂ヲ要シタルトキハ之ヲ原價ニ加算ス

第四條 本會ノ責任ハ本規程第八條ニ依ル收得金及本會規則第八條ニ依ル會資會費其他本會ノ名ニ於テ有スル一切ノ財産ヲ以テ之ヲ負ヒ且ツ會頭及委員長委員ハ無限責任ヲ以テ連帶負擔ス

第二章 監理

第五條 本部支部若クハ出張所ニハ委員長委員若クハ責任アル本會ノ役員ヲ置キ出品物ヲ監視セシム

第六條 本部支部若クハ出張所ハ出品物ノ火災盜難ニ罹ラザル様相當ノ設備ヲ爲ス

第七條 本會出納ノ金錢ハ總テ之ヲ相當ノ銀行ニ依托シ出品物ノ賣上代金ハ銀行ヨリ出品者ニ拂渡サシム

第三章 手数料

第八條 受托出品物ヲ販賣セシトキハ其ノ賣價ノ二割ヲ委托者ヨリ受領ス

但積戻品ニ對シテハ一切手数料ヲ受ケス

第九條 非賣品ハ見積リ價格ニ對スル一割ノ手数料ヲ受領ス

第十條 出品目錄入記目錄等ノ調製翻譯及解説書ノ翻譯謄寫等ニ關シテハ一切手数料ヲ受ケズ

第十一條 荷造運搬保險ニ係ル一切ノ費用ハ實費ノ計算ヲ以テ委托者ニ請求ス

第十二條 陳列及説明廣告並ニ裝飾ニ關シテハ出品者ヨリ特別ノ請求アル者ノ外一切費用ヲ受ケズ

第十三條 本規程ノ取扱細則ハ追テ之ヲ定ム

以上



出品委托取扱手續

第一章 本會取扱ノ事務

第一條 本會ハ出品者ニ代リ出品物ノ輸送及ヒ積戻シノ取扱出品整頓解荷陳列保管説明販賣並ニ出品ニ對シ注文申込アル場合ニ於ケル紹介取次其他出品ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱フモノトス

第二章 出品人ノ負擔スベキ諸費

第二條 出品委托人ハ左ノ各項ニ對スル諸費ハ自辨タルベキモノトス



- 第一項 出品ノ往復荷造費
- 第二項 出品ノ往復運送費
- 第三項 火災及海上保險料
- 第四項 船積手數料
- 第五項 入記目錄調製料
- 第六項 賣約品ノ荷造搬出費
- 第七項 倉敷料

第三章 出品委托及發送

第三條 會員出品物ヲ委托ヒントスルトキハ左ノ書式ニ依リ出品委任狀一通並ニ出品目錄  
 二通ヲ添へ申込マルベシ  
 但説明ヲ要スルモノハ其説明書一通ヲ添フベシ

①  
 一 錢 甲號書式 (用紙美濃二ツ折)  
 証 券 出品委任狀

英國グラスゴー萬國博覽會へ別紙目錄ノ通り出品致候ニ付貴會出品委托取扱手續ノ規定  
 ニ據リ左ノ件ヲ委任ス

一、出品ノ輸送取扱其他出品ニ關スル一切ノ手續

一、出品物若シ毀損變色等アルキハ適宜ノ處置

一、賣品ハ……………相成度事

(例へバ場合ニヨリテハ賣價ノ何割減以内ニテ賣却相成度事)  
 (又ハ目錄記載ノ通り賣却相成度事)

一、非賣品ハ……………相成度事

一、賣殘品ハ……………相成度事

(例へハ賣價ノ何割減マデニテ賣却相成度事)  
 (又ハ其ノ儘積戻シ相成度事)

一、保險ハ原價ノ三割増ヲ以テ取扱相成度事

一、何々ハ……………相成度事

右委任狀仍テ如件

住所職業

明治三十四年 月 日

何

某 ①

英國グラスゴー萬國博覽會出品同盟會御中



乙號書式 (用紙美濃)

出品目録書		出品者		氏名			
番 號	物 名	物 質	形 狀	寸 法	數 量	原 價	賣 價
合	計						
右之通り							
年 月 日				住所職業		何 某 印	

備考 合計物名ノ欄内ハ何點原價賣價ノ欄内ハ其合計ヲ記スベシ

第四條 出品物ハ本年四月十日迄ニ左ノ場所ニ送付セララルベシ

横濱北仲通一丁目開通合名會社内本會出張所

第五條 出品委托者出品物ヲ發送セントスル時ハ出品物ト同時ニ左ノ入記目録ニ通ヲ作リ

一通ハ出品物差向ケ地ノ本會出張所へ他ノ一通ハ本會へ直ニ送付セララルベシ

丙號書式 (用紙美濃)

出品入記目録即本紙ハ外國一函ニ付總テ三通ヲ作ル事ヲ要ス其ノ内一通ハ國內ニ入レ一通ハ本會事務所へ他ノ一通ハ横濱市北仲通開通合名會社内本會出張所宛ニテ送ラルベシ

外國番號		品番號		品名		物質		個數		原價		出品者氏名	
第	號	第	號	品	名	物	質	個	數	原	價	出	品
合	計												
右之通候也													
明治 年 月 日													
縣府 郡市 村町 番地													

出品物入記目録 (外國一函毎ニ各別ニ調製スヘシ)

第六條 出品物荷造ハ最モ堅牢ニ又可成的容積數量ヲ減少スルコトノ注意ヲ要ス若シ荷造粗惡ノ爲メニ生スル損害ハ本會其ノ責ニ任セス



第七條 出品物ノ荷造ハ各種ノ工藝品美術品ト織物系物トハ可成各別ニスルコトヲ要ス  
 第八條 出品物ハ每品番號住所氏名ヲ記シタル札ヲ貼付シ内函アルモノニハ又同様ノ記載ヲナシ外箱ニハ住所氏名及箱番號ヲ日本文字ヲ以テ明瞭ニ箱ノ一隅ニ書キ込ミ置クベシ  
 第九條 出品物ノ外箱ニハ前條規定以外ノ日本文字又ハ歐文ヲ書クベカラス又墨痕アル古板ヲ使用スベカラス

第四章 保 險

第十條 本會委托ノ物品ハ必ス海上及火災保險ヲ附スヘキモノトス  
 第十一條 出品物ノ被保險手續ハ本會之ヲ爲スベシ

第五章 賣品代金ノ勘定

第十二條 受託品販賣代金ハ本會ヘ受領スベキ規定ノ手数料及本會ヨリ請求スベキ諸費ノ計算ヲ立テ遅クモ閉會後五ヶ月以内ニ詳細報告スベシ

第十三條 販賣代金ハ相當ノ銀行ニ寄託シ計算報告後直ニ該銀行ヨリ出品委托者ヘ拂渡サシムルモノトス

第十四條 此取扱手續ノ規定ニヨリ委托ヲ受ケタル出品物受取ノ上直ニ本會ヨリ左ノ書式ノ受託証ヲ交付スベシ

一 錢 証 券

丁 號 書 式

出 品 受 託 証

一 品 目 第何號ヨリ何號迄 個 數

數 量

原 價

右ハグラスゴ一萬國博覽會出品トシテ御委托相成荷造ノ儘正ニ領收致候依テ本會出品委托取扱手續ニ基キ取扱可申候出品受託証如件

年 月 日

英國グラスゴ一萬國博覽會出員同盟會

何府縣 何 某 殿

第十五條 本取扱ニ關スル本會ノ責任及出品委托者ヨリ本會ノ受領スベキ手数料ハ本會規則責任監理規程第一章及第三章ノ各條ニ規定スル處ニ隨フ可キモノトス

第四節 政府ノ補助

本來外國博覽會ニ出品贊同セントスルニハ出品費以外諸種ノ費用ヲ要スル者アリ、又全然之ヲ個人ノ私營の事業ニ任シ難キ場合アリ、殊ニ萬國博覽會ニ在リテハ、各國ニ對スル均衡上ニ



於テモ、又我國現下殖産工業ノ上ニ於テモ、一國政府トシテ賛同スルニアラサレハ、更ニ私人ノ團體ニ對シテ相當ノ保護監督ヲ加ヘテ、以テ其ノ事業ヲ完成セシムルノ必要アリ。故ヲ以テ本會ハ前掲ノ趣旨及ヒ組織ニ依リ政府ニ向ツテ補助金ノ下附ヲ請願シタリシニ、政府ノ認容スル所トナリ、三十四年五月一日ヲ以テ、別項ノ如キ命令ノ下ニ金四萬圓ヲ本會ニ下附セラルルコト、ナリタリ

## 補助金下附請願書

千九百一一年英國グラスゴ―ニ開設スベキ萬國大博覽會ハ巴里博覽會ノ如ク規模大ナラスト雖其ノ計畫ノ整頓完備セルコトハ實狀ヲ視察セシ人ノ舉ケテ賞賛スル處ニ有之其ノ盛況好果ヲ呈スヘキハ同地先年ノ例ニ徴シテモ亦推測サル可キ次第ト存候然ルニ我政府ハ英政府ノ公開スルモノニアラサルヲ以テ例トシテ賛同スルニ至ラザリシモ之ヲ國際上ニ就テ考フルキハ仮令國家トシテ賛同セザルモ個人トシテ之ニ出品シ以テ賛同ノ意ヲ表明スルハ管ニ美舉ナルノミナラズ將來工藝美術品ノ販路ヲ擴ムル捷徑ニ可有之ト確信仕候加之既設巴里博覽會ノ景況豫想ノ如クナラズシテ出品者ガ多年精神ヲ籠メ巨資ヲ費シタル精巧ナル工藝美術品モ空シク還送サル、者少カラザルベク各出品者ニ於テモ殘品ヲ生スルハ固ヨリ豫期スル所ニ有之候得共亦大ニ苦痛ヲ感スル次第ニ有之候ヘバ今是等ノ殘品ヲモ併セテグラスゴ―博覽會ニ出品シ廣ク世人ニ紹介致候ハバ則一舉兩得ノ策ヲ得ル者カト存候昨年ノ初メニ於テ彼委員ヨリ我外務大臣ニ向テ我商工業者ノ出品ヲ勸奨シ且巴里博覽會ノ殘品ヲ廻送

出品センコトヲ懇請シ來リ又前日委員ヲ巴里ニ派シテ親シク出品者ニ之ヲ請求シタル處有之旁國際上トシテモ亦其ノ希望ヲ空シクセザランコト我國商工業者ノ最モ勉ム可キ義務ナリト信シ候就テハ在巴出品人中ニモ既ニ出品センコトニ決シタル者有之又本國ニアル出品者及工藝家ヨリ賛同ノ意ヲ通シタル者有之猶此以外ノ出品者モ少カラザルコトニ候ヘバ其殘品ヲ出品シ以テ相俱ニ賛同シテ將來貿易上ノ利益ヲ確實ニセンコトヲ欲シ乃チ出品同盟會ヲ組織仕候然レモ本會獨之ニ賛同致候キハ之ニ要スル萬般ノ費用ハ本會自ラ之ヲ支辨致サバルヲ得ズ是レ本會ノ甚々難ンスル處ニシテ切角ノ計畫希望モ或ハ之ガ爲メニ挫折スルコトナキヤヲ恐ル、次第ニ有之候若シ政府ニ於テ此ノ舉ヲ美トシ其ノ成立ヲ全フセシメンガ爲メニ此ニ相當ノ補助金御下附被成下候ヲ得バ獨リ出品者ノ幸福ナルノミナラズ本會ノ基礎ヲ鞏固ニシ圓滿ニ其ノ旨趣ヲ貫徹スルコトヲ得可キ義ト存候本會ノ旨趣深ク御諒察ノ上補助金七萬圓御下附被成下候様伏テ懇請ノ至リニ堪エズ候依テ別紙本會趣意書及規則並ニ仮豫算書會員名簿等相添エ此段奉請願候也 頓首

英國グラスゴ―萬國大博覽會出品同盟會

明治三十三年九月十日

委員長

鹽

田

眞

農商務大臣

會

補

荒

助

殿

追テ本願ハ本會會頭ヨリ呈出可仕候處在外中事勿創ニ屈シ未適任者ヲ得ズ候ニ付仮リニ委員長ヲ以テ出願候ヘ共不日選定ノ上ハ更ニ會頭ヨリ請願ノ手續可仕候



補助金下附命令書

英國「グラスゴー」萬國博覽會出品同盟會

會頭 早川周造

九四

客年九月十日付其會經費補助ノ義請願ニ依リ特別ヲ以テ金四萬圓補給候條別紙命令ヲ遵奉シ事業ノ完成ヲ期スヘシ

明治三十四年五月一日

農商務大臣 林有造 印

命令書

第一條 其會ニ於テ規則ヲ制定又ハ變更セントスルトキハ豫メ本省ノ認可ヲ受クヘシ既ニ提出シタル諸規則並ニ收支豫算ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二條 補助金ハ二回ニ分チ之ヲ交付スヘシ

第三條 其ノ會ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ收入支出ノ豫算ニ基キ出納一切ノ顛末ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第四條 收入支出ニ屬スル證憑書ハ之ヲ徵收シ帳簿照査上便宜ノ方法ニ依リ編纂スヘシ若シ証憑書類ヲ徵シ難キモノアリタルトキハ其ノ出納ヲ証明シ得ヘキ書類ヲ添付シ置クヘシ

第五條 收入支出ハ補助金交付後六ヶ月毎ニ打切り其計算書ヲ調製シテ本省ニ差出スヘシ

第六條 其ノ會ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ賣買約定ヲ爲シタル受托品ノ品目、數量、出品人名、價格及結約ニ依リ領收シタル金額ヲ明細ニ記帳シ置クヘシ

第七條 受托品ノ販賣代價ハ別ニ之ヲ區分シ本省指定ノ銀行ニ預ケ入ルヘシ

前項預金ハ本省ノ認可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

第八條 本省ハ隨時主任官ヲ派シテ其會ノ諸帳簿及ヒ事務ヲ監査セシメ不整理ト認ムルトキハ矯正ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 其會ハ博覽會閉會後五ヶ月以内ニ其ノ取扱ニ係ル事務及收支決算ノ總報告書ヲ差出スヘシ

第十條 其會ニ於ケル事務完了後殘留セル總財産ノ處分ハ本省ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 其會會頭、委員長及委員ヲ變更セントスルトキハ本省ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 其會ハ責任アル役員及必要ノ人員ヲ博覽會開設地ニ派遣シ出品説明、金錢出納、調査報告等一切ノ事務ニ付滯ナカラシムヘシ

前項派遣ノ役員ハ本省ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 其會ノ議決事項及調査報告ハ其都度本省ニ差出スヘシ

第十四條 本省ハ此命令書ニ掲クル事項ノ外隨時必要ノ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十五條 此命令及其他本省ノ命令ハ會頭、委員長及委員連帶ヲ以テ遵奉ノ責ニ任スヘシ

第十六條 會頭、委員長及委員ハ其職ヲ辞スルコトアルモ在職中ニ生シタル事項ニ付テハ其

九五



責ヲ免ル、コトヲ得ス

第十七條 此命令及其他本省ノ命令ニ違背シ若クハ業務執行上不都合ノ所爲アリタルトキハ補助金ノ下附ヲ停止シ又ハ之カ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第二章 經費  
第一節 收支決算表

收入		支出											
會費金	五七、七一八、九九六 <sup>圓</sup>	內國費	諸給手當	臨時手當	旅費	借家料	器具費	通信費	新聞料	諸雜費	政府補助金	雜收入	販賣手数料
一八〇、〇〇〇		四〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五九三、九〇〇	七〇、〇〇〇	一五八、一八〇	一四八、五〇〇	四二、四七五	三七五、八七五	八、六五〇	七四、三三五	六、六六二、四三一	一〇、八七六、五六五	一〇、八七六、五六五



集會費	一二三三、四七〇
消耗費	三一、一五七
印刷費	四、三〇〇
臨時費	三六、五〇〇
支拂利子	三一、〇〇〇
交際費	五八五、二五五
創立費	一、四一四、五二二
外國費	四三、九六五、九九四
諸給手當	一八、九〇八、三七二
旅費	六、三五四、七五〇
陳列費	六、三八五、三四七
空函倉敷料	三九二、二九〇
借家料	四七九、九五五
器具費	二三〇、九二二
通信費	三一三、九九二
廣告料	一一一、二九八
電氣点燈料	六二〇、一八九

諸雜費	一、五五七、九三八
場所借入料	三、三三〇、三〇〇
修繕費	一、二二六、一三〇
交際費	二、三六一、六五七
出品物搬出入費	一九一、五七七
殘品荷造運搬費	一九八、六三七
運費	一、二〇二、三四〇
出品物火災保險料	九〇、三〇〇
委托品損害辨償金	三三九、四三〇
慰勞金	六、五〇〇、〇〇〇
殘務費	二、一〇五、四六三



### 第三章 日本陳列館

#### 第一節 陳列館ノ位置

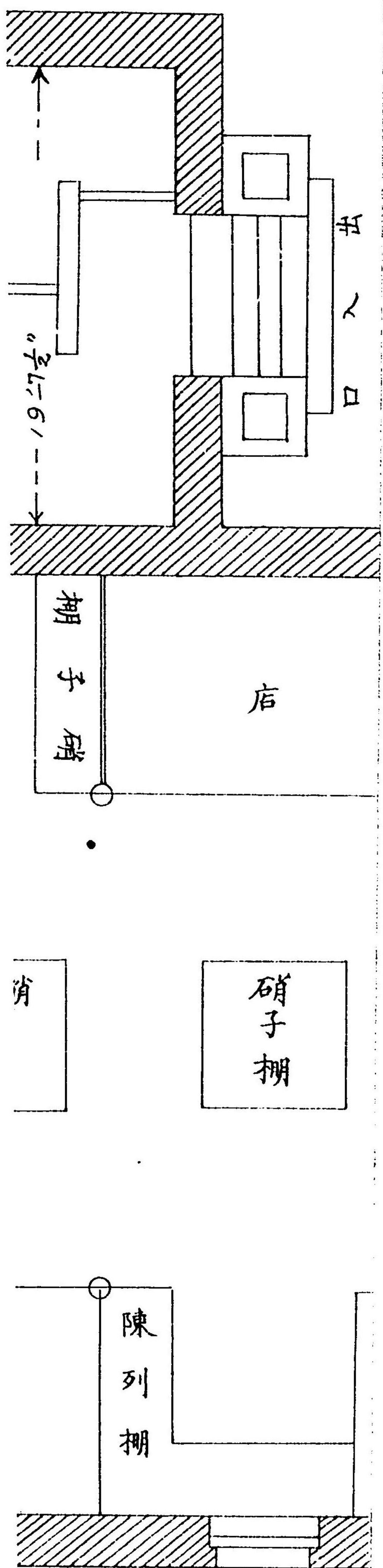
日本陳列館ノ位置ハ、本博覽會工業館ノ前面右方、ケルブイン河ノ右岸ニシテ、會場内最モ樞要ノ處ヨリ東方ニ面シ、四邊廣濶ニシテ大音樂堂及グロスブノア、レストラント其ノ左ニアリ、而積長百一十呎、四時、横三十九呎九吋、及附屬別室長三十七呎九吋、横十八呎三吋ヲ有セル長方形、二階吹抜キ玻璃屋根鐵骨石造ノ壯嚴ナル建築ニシテ、十余年前完全ナル設計ノ下ニ、公園内ノ常設博物館トシテ建設セラレタルモノナリ。館ハ風雨媒烟ノ爲メニ外部甚タシク汚損セルヲ以テ、本會ノ之ヲ借入ル、ヤ、石壁ヲ塗ルニ白堊ヲ以テシ、左右兩側ニ黒ク JAPAN ノ文字ヲ記シ、遠望ニモ能ク明了ナラシメ、前面ニハ屋上高ク直徑二十呎大ノ雲上旭日章ヲ飾リ、更ニ扉上ニ和英兩体ノ文字ヲ以テ、日本出品同盟會ナル大額面ヲ掲ク、屋上ニハ二十旒ノ日章旗ヲ立テ、以テ一個ノ嚴然タル特別館ヲ成セリ。

抑モ本會カ此陳列館ヲ使用シ得ルニ至リシハ實ニ異數ノ事ニシテ、此ノ一事以テ「グラスゴー」市ノ如何ニ日本ノ出品贊同ヲ歡迎シタルカヲ推知スルニ足レリ。本博覽會設備ノ當初、此ノ館内ニ陳列セル物品ヲ美術館及市内博物館其他ヘ移シ、其ノ後ヲ婦人部ノ陳列區ニ充ツルノ手筈ナリシモ、本會カ此博物館ヲ使用スルニ至リシヨリ、婦人部ハ遂ニ本館内ニ設クルコトニ更定セラレタリ。本會若シ此ノ陳列館ヲ得ザル時ハ、勢ヒ假リニ別館ヲ建築スルカ、或ハ本館内ニ雜居セサルヘカラス、別館ヲ建設スレハ簡約ナル仮普請ヲ以テスルモ、其ノ費用ハ借料ノ數倍

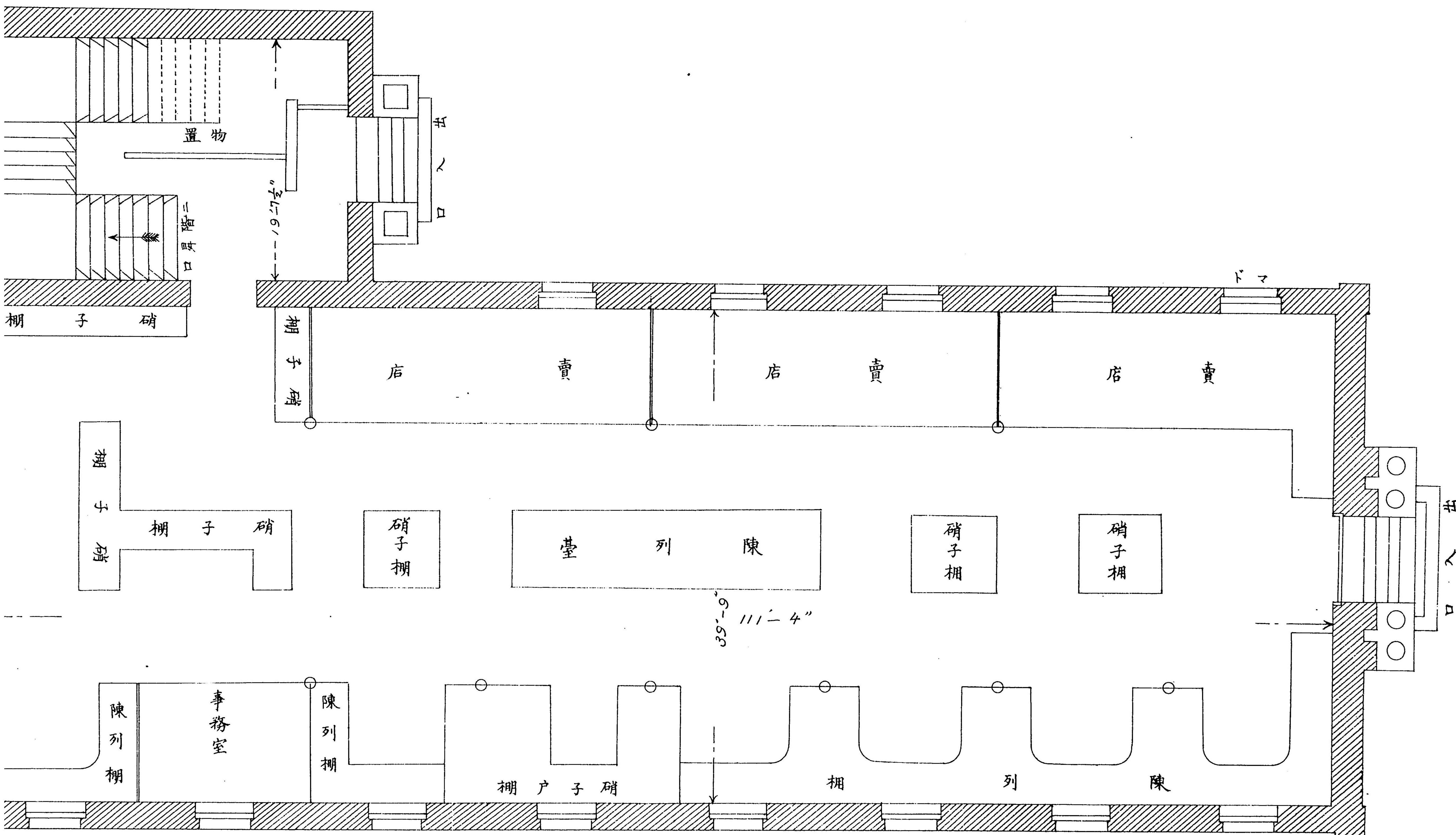


ヲ要スヘシ、又本館内ニ雜居スレハ畜ニ自個別宜ノ場所ヲ得難キノミナラス、區域亦狹ク取締自ラ充分ナラス、而シテ借賃諸經費モ亦却テ多額ヲ要スルヲ免レス。是等數多ノ不利益ヲ去リテ、各國仰美ノ間ニ此ノ陳列館ヲ使用シ得タル本會ノ利益ハ實ニ尠少ニアラザリキ、故ニ本會モ亦博覽會ニ對シテ相當ノ協約ヲ締シタリ。其ノ重ナルモノハ、一、館側ノ空地ニ日本風庭園ヲ仮設シ、日本園藝ノ一部ヲ衆人ニ展觀セシムル事、二、日本手藝品ノ製作法ヲ實示スル事、三、館内外ノ裝飾ハ總テ善美ナル日本風ニ依ルヘキ事、等ニシテ本會カ比較的少額ノ經費ヲ以テ萬國博覽會ニ贊同シ、隨テ相當ノ結果ヲ收メ得タルモノハ、先ツ其ノ陳列場ニ一着ヲ制シタルニ職由セスンハアラス

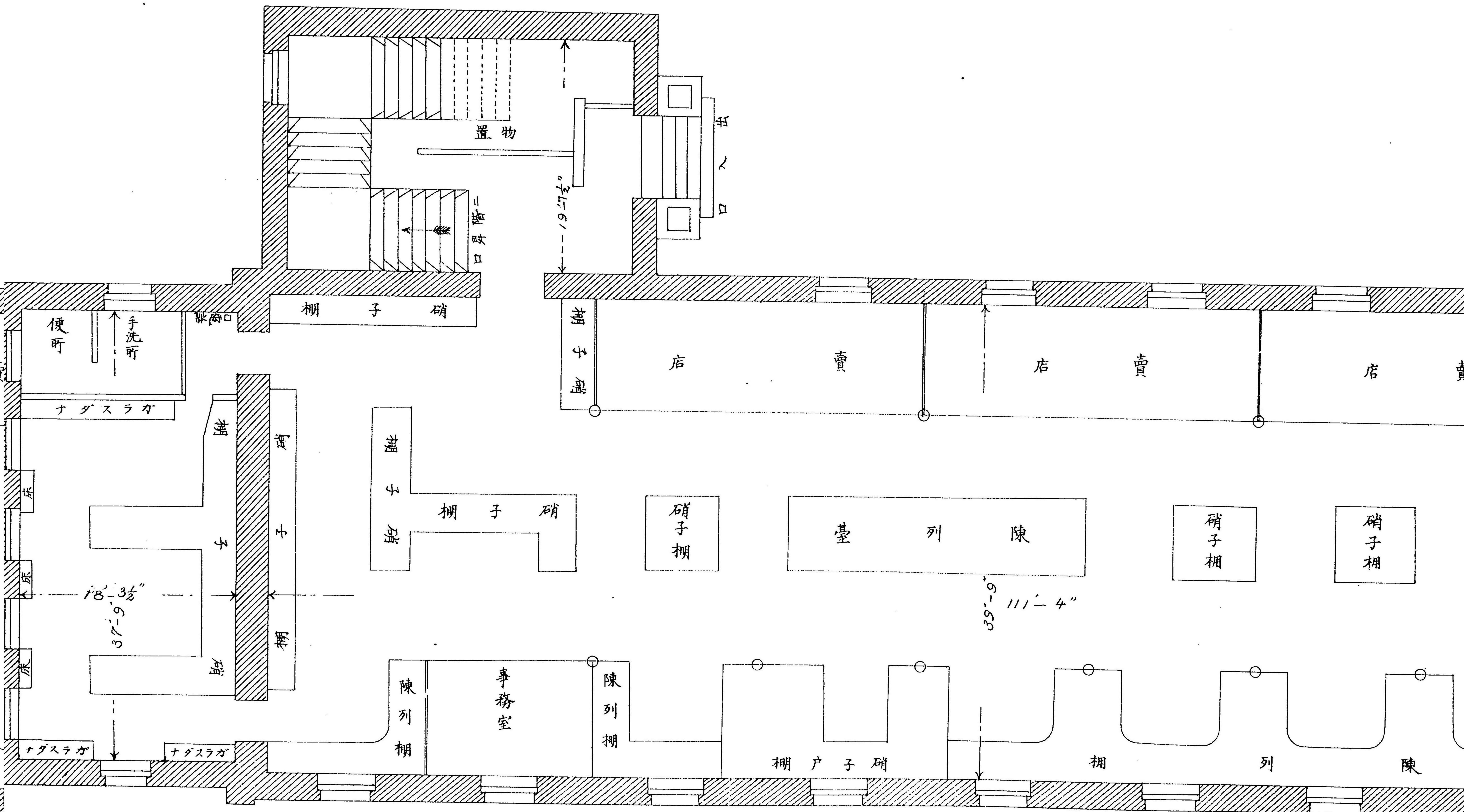
「グラスゴ」萬國博覽會日本出品同盟會陳列館内面圖



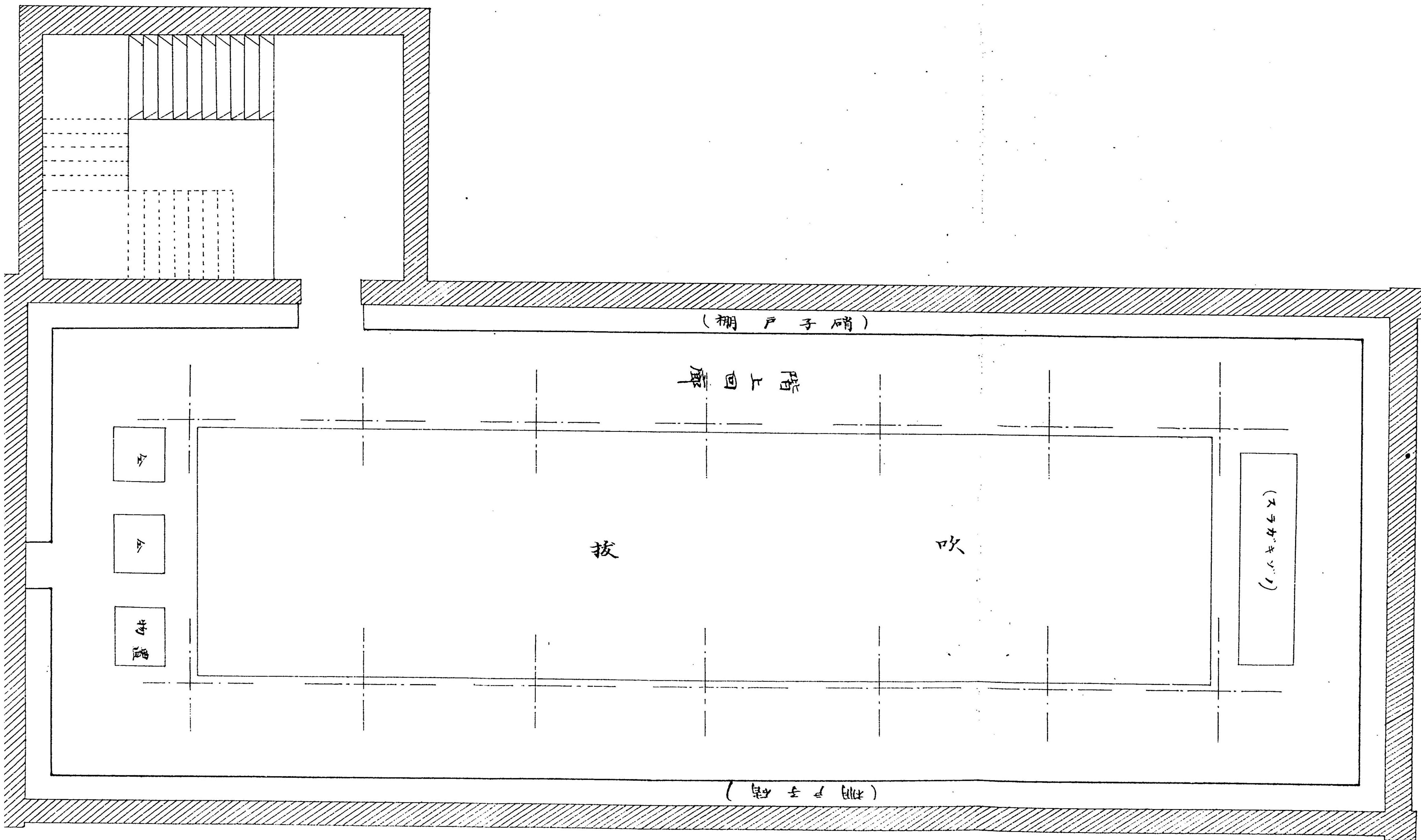














## 第二節 日本庭園

本會陳列館ノ右側即チ工業館ニ面スル處ニ、百坪余ノ稍高低アル丘地ヲトシテ、日本風ノ庭園ヲ造レリ。園ノ正面ニハ三段ノ架ヲ設ケ、之ニ二百余株ノ日本産植木盆栽ヲ駢ヘ、其ノ前面ニハ五尺乃至三尺ノ檜、檜、松、其他菊等ノ花卉類ヲ植エ、石燈籠又ハ銅製大鷲置物ヲ配置シ、全園繞スニ竹籬ヲ以テシ、園ノ一隅ニハ六疊敷程ノ吾妻屋ヲ建テ、總テ日本風ノ茶亭ニ擬シテ裝飾セリ。初メ本會ニ於テ自ラ之ヲ設備スルノ豫定ナリシカ、開會期日切迫シテ猶諸般ノ準備充全ナラサルニヨリ、之ヲ倫敦山中商店ニ托シ、小亭ヲ造リ竹籬ヲ繞ラスニ要スル費用ヲ補助シテ、以テ六月中旬全ク工事ヲ竣ヘタリ。開園前ヨリ世評嘖々トシテ大ナル呼物トナリ、頓テ竣工スルヤ、六大新聞紙ハ筆ヲ極メテ之ヲ賞賛シ、日本庭園ノ記事ハ一時博覽會中ノ重要ナル事項トシテ報道セラシタリ。我邦人ノ眼ヨリ見ルトキハ、實ニ植木屋ノ一庭園ニモ劣リ、殆ント庭園ノ名ヲ下スラ耻カシキモノモ、非常ノ喝采賞揚ヲ得タルハ、花卉盆栽ノ種類、及ヒ小亭ノ多少雅趣ヲ存スル處、只タ珍奇ナルヨリ此ノ如キ狀況ヲ見ルニ至リシナリ。又客ノ需ニ應シテ盆栽ヲ販賣セルヲ見ルニ、甚タシキ高價ニシテ、東京ニ於テ普通一圓内外ニテ賣買セラルヘキ小盆栽モ一磅以上ニ賣レ行キ、閉會ノ際ニハ僅ニ十分一ヲ剩スノ外ハ、悉ク高價ヲ以テ賣リ盡クシタルカ如キ、如何ニ園藝品盆栽ニ乏シキ蘇國ナレハトテ、甚タシキ好況ナリシニハ、當業者モ亦意外ニ感シタル所ナリ。

本會ハ「グラスゴー」博覽會事務局トノ協約上、初メハ義務トシテ之ヲ設備シタリシモ、其ノ成績



及ヒ其ノ他ノ關係ヨリ察スルトキハ、寧ロ自ラ進ンテ之ヲ設置スルノ價值アリシコトヲ明ニセリ。即チ此ノ園庭ヲ造リシカ爲メニ、博覽會中ノ立物トナリ、博覽會ノ繁榮ヲ増スト共ニ日本ノ名聲ヲ弘メ、隨テ本會ニ直接間接ノ利益ヲ與ヘタルコト少シトセス。當初若シ充分ナル設計ト、假スニ時日トヲ以テセハ、蓋シケルゾイン「公園全部ヲ壓スルモノアリシナラン乎

### 第三節 販賣店設置

本博覽會ニハ所謂販賣店設置ノ規定ナシ、其ノ規則ニ掲クル所ニヨレハ、現場ニ於テ製作シタル工藝品ニ限り、之ヲ即賣スルコトヲ得ルトアルノミニシテ、本會カ其ノ陳列館内ニ賣店ヲ設置スルカ如キハ、博覽會當局者ノ固ヨリ認容セサル所ニシテ、只タ出品贊同申込ノ當初協約シタル條項中ニ、手藝ヲ實示シタルモノハ之ヲ即賣ニ付スルヲ得ルトアルニ基キ、館内ノ北側一帶ヲ販賣店トナシ、之ヲ甲乙丙ノ三區ニ等分シ、甲ハ玩弄品、陶磁器、絹、刺繡ノ類、乙ハ牙彫類、金屬器、及ヒ陶磁器、丙ハ七寶類ノ賣店トナシ、後更ニ南側ニ一區ヲ設ケ、漆器、彫刻、敷物類ノ賣店ヲ設ケタリ

此クノ如ク出品人ノ希望ニヨリ賣店ヲ館内ニ設ケ、手藝實示ノ計畫ヲ立テ、盛ンニ即賣ヲ爲シタル際、露國ハ其ノ特別館内ニ、佛國、埃國ハ其ノ本館内ノ陳列區ニ於テ、各規則ヲ無視シテ即賣ヲ始メタルヲ以テ、新聞紙ハ漸ク非難ノ聲ヲ舉ケ、市内雜貨商等ハ故障ヲ唱ヘタルニヨリ、最初黙過シタル事務局ハ、開會後一ヶ月ノ後ニ至リ、突如トシテ嚴重ナル通告ヲ發シ、規則ノ勵行

ヲ始メタリ。而シテ各國出品者ノ此ノ通告ニ從ハスシテ、法廷ニ訴ヘラレタル者類々相踵キ、本會賣店營業者中ニモ亦反則ノ訴ヲ受ケタルモノ二名アルニ及ヘリ。眼前ノ利益ニ垂涎セル商人等ハ、依然トシテ即賣ヲ爲シ、其ノ甚タシキモノニ至リテハ、裁判ノ命令ヲ無視シテ拘留ニ處セラレタルモノアリ、即チ佛人二名露人一名ナリキ。此ノ際ニ於テ本會ハ賣店營業者ノ爲メニ、事務局ト數回ノ交渉ヲ重ネタル末、製作法ヲ實示スルモノニ限り、既成品ト雖同種ノ物品ヲ即賣スルノ認諾ヲ得ルト同時ニ、本會委託品モ亦最小品ニ限り、之ヲ即賣スルコト、ナレリ。此クノ如キ状態ヲ繼續セルコト約三ヶ月ノ後、九月ニ至リテハ事務局モ各國出品者ノ狀況ヲ察シ、委員會ヲ開キテ數回商議ノ上、遂ニ即賣禁止ノ制ヲ緩フシ、十月ニ至リテハ全ク之ヲ默許シタルヲ以テ、各國競フテ即賣ヲ爲シ、最後ノ三週間余ハ會場内ノ到處殆ンド賣店ノ如キ奇觀ヲ呈シ、日本販賣店營業者モ亦盛ンニ販賣ヲ爲シ、從來萬國博覽會ニ未タ曾テ見サルノ盛況ヲ現ハセリ。今賣店營業者ヨリ報告セシ賣上表ヲ左ニ掲ク

#### 販賣店賣上概表

(磅以下切捨)

清水 間 二、馬場 傳 次 賣店營業高

漆器類
アンチモニー製品
七寶類
雜貨

三、三五〇磅
一、〇〇〇磅
、四五〇磅
、四〇〇磅
一、五〇〇磅
一〇五



北島孝次郎 全 上

106

アンチモニー製品

内譯

牙彫品

陶磁器類

玩弄品

三、二〇〇磅

二、一〇〇磅

三、〇〇〇磅

五、〇〇〇磅

三、〇〇〇磅

松本佐平 全 上 (陶磁器)

一、二八四磅

三、五五磅

〇、三五磅

二、四二磅

〇、四八磅

〇、三〇磅

内譯

陶磁器

玩弄雜貨

絹織物

牙彫類

安藤重壽 全 上 (七寶燒)

一、二二六磅

二、一五七磅

一、六一一磅

五、四六磅

村上政之丞 全 上

内譯

絹織物刺繍

玩弄品

一、四七二磅

#### 第四節 製作法實示

本博覽會ノ規定及出品賛同申込ノ際ニ於ケル約定ニ從ヒ、本會ハ我陳列館内ニ於テ手藝品ノ製作ヲ實示スルノ義務ヲ有セルガ故ニ、開會當初ヨリ其設備ニ怠リナカリシモ、時日ニ餘裕ナク、且經費ニ影響ヲ及ホスコト少カラサルモノアルニヨリ、僅ニ其一部ヲ實示シタルニ過キス。即チ先ツ刺繍、漆器、七寶燒ノ一半、陶磁器ノ一半、アンチモニー電氣鍍金ノ實示ヲ開始シ、繼テ象牙及木具ノ彫刻ヲモ實示セシメント計リシモ、職工疾病ヲ得テ止ミス。此内稍完全ニ其手藝ヲ表ハセシモノハ刺繍ニシテ、二名ノ女工ハ其熟練ナル技術ニヨリテ手巾、帛紗等ノ刺繍ヲナシ、縦覽者ヲシテ智識ノ觀念ヲ増サシメ、又手藝ノ巧妙ヲ感賞セシメタルモノ多ク、當ニ日本出品館ノ聲價ヲ高メシノミナラズ、全博覽會中ノ著シキ呼物トナレリ。漆器及陶器ノ日本風繪付モ亦多少ノ價值ヲ見ハセシト雖、只其一部分ノ手藝ヲ實示スルニ過キサルカ故ニ、所謂隔靴搔痒ノ嘆ナキ能ハサリキ

日本陳列館ノ他ノ列品館ニ比シテ、常ニ縦覽人ノ雜沓セシ所以ノモノハ、大体出品物ノ東洋的工藝品ノ珍奇ニシテ、一種ノ異彩ヲ有スルカ爲メノミニアラスシテ、又此等製作法ヲ觀覽セシメシカ爲メニ出テタルモノ多シトス、殊ニ刺繍部ノ如キハ晝夜人ヲ以テ充タサレ、之ヲ制限スルニ甚シキ煩累ヲ感セシメタリキ、而シテ各賣店品ノ賣行活潑ナリシモ、亦此事アリシニ因ルモノ多キヲ知ルヘシ



#### 第四章 出品ノ處理

##### 第一節 出品ノ積出シ

本會委托出品物ノ巴里ヨリ「グラスゴ」ニ直送シタル分ハ、千九百年十二月三十一日ヲ以テ全ク積出シヲ終レリ、其積出シニ付テモ何港ヨリスルヲ最モ便利トナスカヲ取調ベタル末、遂ニ「ルーアン」下決定シ、悉ク全所ヨリ發送セリ。其函數大小八十一個、他ニ「アントワーブ」ヨリシタルモノ三個、又一旦馬耳塞ニ出テ、全港ヨリ英船ヲ以テ積送ラレタルモノ七個、總計九十一個、此噸數大約三十噸ナリ。又新ニ横濱港ヨリ本會受託ノ上取扱ヒタルモノ十三個約五噸ニシテ、出品人ヨリ直接ニ積出シタルモノ四十三個約十三噸(外ニ醬油及附屬品)神戸港ヨリ發送ノ分五十七個約十八噸(賣店品ヲ除ク)ニシテ、積込ノ船ニハ英船アリ、日本郵船アリテ一定セズ、是レ運賃ニ割引等ノ特別取扱アラサリシヲ以テ、積出シノ都度各自ノ便宜ニ從ヒシヲ以テナリ。其本會委託取扱ニ屬スル出品物ニ對シテハ、總テ第一章第三節中ニ記セル出品委託取扱手續ニ依リテ實行シタリ

本博覽會ニハ元來出品物ニ對シテ、或ル區間及指定船會社、鐵道會社トノ間ニ運賃割引、又ハ往復無賃等ノ規約アリタリト雖、本邦各港ニ寄泊スル船會社ノ船舶ニ對シテハ、何等ノ特待アラサリシヲ以テ、本會ハ當初博覽會事務局ト屢交渉ヲ重ネタレトモ、更ニ要領ヲ得ル能ハズ、遂ニ已ムヲ得ス前ノ如キコト、ナレリ。只々殘品ノ積戻シニ對シテハ豫メ協商スル所アリ、英國内ノ鐵道及船舶ニ託送シテ半減ノ運賃トナリ、更ニ本會ト日本郵船會社トノ間ニ於ケル交渉ノ



結果、倫敦本邦間普通運賃ノ二割ヲ減スルコトナリタリ

## 第二節 出品ノ種類

本會ノ趣旨及「グラスゴー」博覽會トノ協約ニヨリ、本會ハ主トシテ本邦美術工藝品ノ出品ヲ爲スニ止メタルガ故ニ、醬油ハ特別取扱ヲ爲ス、汎ク教育、水産、鑛山等ニ關スルコトハ、遺憾ナカラ之ヲ出品紹介シテ以テ縦覽セシムルコトヲ得ザリキ、而シテ美術工藝品ノ種類ハ、本章第四節出品一覽表ニ示スカ如ク

七寶、花莖刺繡、織物、糸物、絹物、漆器、陶磁器、木竹製品、銅器、象牙彫刻繪畫、鳥類毛羽、袋物、貴金屬器、紙、携帶品、提燈、室内裝飾品及古器物ノ各種ナリ

以上ノ内最モ点数多キハ陶磁器ニシテ、又最モ金高多キハ七寶ナリ  
此外皮革及葉烟草ノ出品アリシモ、点数金高共ニ僅少ナリ

## 第三節 出品ノ陳列

本會出品陳列場ハ本編第一章第一節ニ記載セルカ如ク、出品物ノ多寡種類ニ應シテ豫メ之ヲ建築シタルモノニ非サルカ故ニ、其陳列ニ付テモ亦自ラ工夫ヲ要シタルモノ少カラス。先ツ館内全般ニ亘リテ之ヲ區分スレハ、階下ハ賣店ノ設ケアルニヨリ、委託出品物モ亦概ネ即賣シ易キモノヲ陳列シ、大ナル銅製置物、燈籠、書棚及ビ陶磁器ノ稍大ナルモノハ別ニ之ヲ「ガラス」棚ノ

中ニ容レズシテ、臺又ハ架上ニ陳列シ、其小ナルモノ及ビ他ノ出品物ハ多ク之ヲ「ガラス」棚ニ收メ、各適當ノ裝飾ヲ加ヘテ陳列セリ。入口ヨリ向テ右側一帯ヲ賣店ニ充テ、左側半ヲ露臺トシ、其半ヲ「ガラス」戸棚トシ、中央ニハ四方「ガラス」棚及臺ノ兩様トナセリ。奥ノ一廊ハ悉ク「ガラス」棚トナシ、此處ニハ刺繡織物類ヲ陳列セリ、以上ノ「ガラス」棚ハ一体ニ其高サ六呎半ニシテ、悉ク新造シタルモノニ屬ス。階上ハ四周ニ在來ノ「ガラス」棚一様ニ設ケラレタルモ、其架ノ奥行僅ニ一呎二吋ナルヲ以テ、之ヨリ大ナル物ヲ容ル、ヲ得ズ、七寶、銅器、漆器、屏風、象牙彫、古器物、陶磁器、毛羽類、繪畫等各適宜ノ架ヲ製シ陳列シタリ。是等ノ棚内ハ物品ノ種類ニ依リ、色ノ配合ニ注意シ、赤、白、翠、紺等ノ天鵝絨及ビ緋羅紗ヲ以テ悉ク裝飾ヲ施セリ、猶貴金屬品、携帶品等ハ四個ノ美麗堅牢ナル「ガラス」箱内ニ收メテ、以テ階上ノ空所ニ配置セリ

元來出品物ヲ分類シ、同一種類ハ全一ノ場所ニ陳列スルヲ以テ適當トナスカ故ニ、本會モ亦當初ヨリ斯ク爲スヲ期シタレトモ、出品物ノ到着時期ノ後レタルヲ、出品物ノ種類點數大小等豫メ確定セサリシヲ、既成陳列場特ニ階上ニハ固定飾棚アルカ故ニ、隨意ニ之ヲ變更シ能ハザリシヲ等ノ理由アリシヲ以テ、勢ヒ分類法ニ據ル能ハズ、稍難駁ノ嫌ナキニアラザリシモ、大部分ハ成ル可ク之ヲ分類シ、縦覽人ノ便ヲ謀リ、陳列ノ体裁ヲ損セザル様ニナシタリキ

出品物説明、美術品、古物、工藝品ノ主ナル者數百點ニ就キ、或ハ詳細ニ或ハ簡約ニ、其宜シキニ從テ説明書ヲ付シ、猶保管係ハ絶エズ注意シテ、質問ニ應シ説明ニ力メタリキ

一般裝飾、館内ノ四壁、柱、天井、階段等ハ悉ク塗り替へ、一見新造ノ如キ觀アラシメタリ、階下ノ



板敷ハ悉ク「オイル、クロス」ヲ以テ張り詰メ、奥ノ一室ハ初メニ特別室トナスノ考ヘナリシヲ以テ、又其裝飾ニモ意匠ヲ加ヘ、窓掛敷物ノ善美ハ本博覽會中何レノ陳列場ニモ見ル能ハサル程ノモノトナセリ。階段及階上ノ廻廊ハ、一帯ニ英國製絨氈ヲ敷キ、中コロヨリハ更ニ本邦製花氈ヲ敷キタリ。又十二旒ノ日英蘇三國旗ヲ交互ニ柱ノ半バヨリ垂下シ、ガラス屋根ノ下ニハ白色ノ幕ヲ張り、以テ光線ヲ加減シ、夜ハ六個ノアーク燈、七十八個ノ十六燭電燈ヲ點シテ、白晝ト等シク物品ノ觀覽ニ差支ヘナカラシメタリ

第四節 出品一覽表

種類	點數	原價 (邦貨)	賣價 (英貨)	出品人名
七寶	一七	二八五、一〇	七六、三	稻葉七穂
花氈	一一	八八、一〇	一三、一八	磯崎高三郎
綿織物	三九	八五、八〇	一四、一四	石田與七
絹織物	六	八七、五〇	一八、四	全
刺繡	一〇	一一、〇〇〇、〇〇	一、三五八	林忠正
漆器	二二	二八〇、二〇	八七、二三	林九兵衛
絹糸製品	一五	九、七〇	一一、九	全
木竹製品	三	五、五五	一一、三	全

古器物	木竹製品	絹糸製品	陶磁器	銅器	全上	陶磁器	銅器	全上	室内裝飾品	陶磁器	全上	室内裝飾品	全上	絹物	牙彫	陶磁器
二四二	三	一七	三四	一	二六	一〇	七	八	一	六	七四	四	五	五〇	六七七	三
四、七六〇、〇〇	二〇、〇〇	六八、〇〇	二〇七、八六	四、五〇〇、〇〇	一五二、六〇	七六、二五	八三七、五〇	六五二、五〇	三二五、〇〇	六六、〇〇	二、二一〇、一七	四、五九〇、〇〇	一六五、〇〇	二四〇、〇〇	一四、六二七、二五	一二五、五〇
一、〇六九、一八	四、一〇	一四、二〇	四一、一一	九四七、五	三一、一四	一五、五	一六七、一〇	一三〇、一〇	六五、一	一三、四	二九九、一〇	六七六、一	二八、一〇	四四、一四	三、五一九	二五、二
丹羽圭介	全	道明新兵衛	富永甚四郎	岡崎雪聲	岡本富之助	綿野源太郎	渡邊金太郎	全	全	川尻喜平	瓢池園	河本喜兵衛	河本又吉	川島甚兵衛	世繼富五郎	谷口吉次郎



農 產 物	木 竹 製 品	彫 刻 物	袋 物	裝 飾 品	木 彫 物	牙 彫 物	銅 器	木 竹 製 品	陶 磁 器	全 上	古 器 物	陶 磁 器	全 上	花 筵	日 本 酒	綿 織 物
一九	三〇	三	四二	二七	二九	七	四	二	四七	二	六〇八	四一四	二九	八	一〇	二

二二、〇〇	一九、四〇	三〇、〇〇	五四三、四〇	一、三四五、〇〇	一一〇、四〇	一一〇、四〇	二九、〇〇	一、七〇	六一二、二〇	三五、〇〇	九、八九九、八五	三、三〇六、七五	三三九、〇〇	六三、七〇	二一、七〇	一〇、〇〇
-------	-------	-------	--------	----------	--------	--------	-------	------	--------	-------	----------	----------	--------	-------	-------	-------

三	八	三	一四七	二二七	二七	三六	八	一五四	七	一、九七九	六六一	六七	一四	一〇	一	三
八	一〇	二八	九	九	一〇	一五	一	七	一	一九	七	一六	二	二七	二	八
九	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

藤村岩次郎 全 全 松本佐太郎 山中商會 山本伊三郎 全 全 全 倉元新七 窪田勘六 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

刺 繡	友 染	刺 繡	古 器 物	牙 彫	刺 繡	陶 磁 器	綿 織 物	漆 器	古 器 物	陶 磁 器	漆 器	毛 織 物	木 竹 製 品	書 本	刺 繡	鳥 毛 獸 皮
五	一三	一	二〇九	七〇	一	一四	二	一	一五	二四	二二	五	六	二二	六	二二

八二七、〇〇	三八七、〇〇	九〇〇、〇〇	二、二〇二、九五	七六四、八〇	一五〇、〇〇	一二九、七五	一〇、〇〇	一、四〇〇、〇〇	二、二四七、〇〇	二五一、五〇	一〇一、〇〇	二五、七五	二五	一六七、六四	一〇三、五〇	一一、七〇
--------	--------	--------	----------	--------	--------	--------	-------	----------	----------	--------	--------	-------	----	--------	--------	-------

一六一	六三	一五〇	四四三	一一五	四二	二五	一	三〇六	二五一	四一	一七	七	三三	二〇	二〇	二
八	一	一	五	一〇	二	一九	二	一	一〇	一九	一	一〇	一	一五	一〇	六
一	一	一	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

田中利七 全 田中清七 多和田泰四郎 全 鶴田直子 筒井又七 内藤小四郎 中村作次郎 村上剛 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

野澤組 村上厚



古器物	絹織物	紙製品	陶磁器	七寶	木彫物	陶磁器	古器物	漆器	銅器	七寶	木彫	陶磁器	裝飾品	絹物	銀器	銅器
九四	一二	四二	二二	三五六	二六	八〇	三三	一三	二	二	一	七	二	二	一六	九八
四三四、〇〇	二二三、〇〇	二九、六七	一三五、〇〇	一三、四九一、五〇	二六四、五〇	一七七、五〇	六〇七、五〇	三、八〇三、〇〇	八五〇、〇〇	三七、〇〇	一八、〇〇	一〇六、五〇	四四三、〇〇	一三六、〇〇	三、〇五五、〇〇	八、三六九、〇〇
八六一六	二九六	四三七	二七	四、五三四一六	三七六	五三六	一二一〇	一〇七四三	一六〇	七	四	二六	一〇六	二〇	六一	一、六七三
二木喜助	福井絹織物組合	勅使河原合資會社	秋山駒次郎	安藤重兵衛	芥川及水谷商會	全	三榮組	佐野嘉七	全	全	全	全	全	全	北嶋孝次郎	北濱三十郎

七寶	牙彫	室內裝飾品	漆器	古器物	絹糸製品	陶磁器	古器物	漆器	牙彫	陶磁器	竹製品	七寶	室內裝飾品	携帶品	金屬器	刺繡
四五	八一	五	一〇	五〇	二〇	三一	一五五	二二	三	一	一	七	七	二	一〇	一
三、五四六、七五	四、一〇三、〇〇	五、五二七、五〇	五四四、〇〇	一、四九五、四五	三八九、〇六	二六三、〇〇	一、一〇一、〇〇	六八、七五	二二、二五	一二、五〇	三七	二六、七五	四六、五〇	五二、六三	一〇、八八	三、七五
七〇九	八二〇	一一〇五	一〇八	二九九	一二二	六五	二九八	一三一	四	二	一	五	九	一〇	二	一五
七	二二	二〇	一六	一	一四	一四	五	一五	三	一〇	一	七	六	六	三	一
全	全	全	全	全	京都系物協會	宮川香山	鹽田真	清水開二	全	全	全	全	全	全	全	全



銅器	室內裝飾品	花筵	絹衣服	牙彫	陶磁器	古器物	陶磁器	絹物	陶磁器	紙製品	陶磁器	銅器	陶磁器	銅器	漆器	陶磁器	陶磁器
一六	一三	一〇	一二	七	一二	三三	一一	一〇九	二二	四二	二八	二八	二八	二八	二	二	五
一、四五六、〇〇	三四二、二五	二二、四〇	一一九、七五	二三一、七五	一九九、二五	一、二三七、〇〇	一〇二、七五	一六四、七五	一二六、二五	四四、五四	二二四、七五	一九八、〇〇	一、四三九、〇〇	二五〇、〇〇	一〇〇、〇〇	五六、〇〇	
二八五	七〇	四	二三	二二	三八	二〇	二一	三二	二五	一一	四四	四七	三三〇	四八	二〇	一一	
一五	一四	九	一三	一〇	一〇	一〇	一五	一九	一五	一九	一九	一九	一九	一	一	一	
柴田權次郎	全	全	全	全	全	泉田鑄吉	酢屋久平	全	酢屋久	鈴木寅松	鈴木吉五郎	鈴木長吉	鈴木八藏	全	全	安達正太郎	

牙彫	陶磁器	醬油	陶磁器	漆器	紙製品	古器物	陶磁器	全上	計
一	一五	一六九	二	二	二四	四二	一七三	一〇	五、一〇二
一五〇、〇〇	二〇〇、〇〇	三〇四、六〇	七六、〇〇	一、二五	六八、三〇	七四七、〇〇	一、六九四、五〇	一一六、〇〇	一三一、六四二、三二
一八	四六	五九	三六	一七	一七	一六三	五二〇	二四	二七、九九五
江浪龜四郎	谷口余次郎	濱口儀兵衛	堀川光山	芝川又右衛門	中村源藏	古筆了任	井上治兵衛	德田八十吉	

出品種類別一覽表

種類	點數	原價(邦貨)	賣價(英貨)
七寶	四二七	一七、三八七、一〇	五、三三三、一〇
古美術品	一、四八〇	二四、七三一、七五	四、九一五、九六
牙彫	八四九	一九、九五〇、四五	四、五四〇、一七
銅器	一三七	一六、四八九、五〇	三、三三七、一二
陶磁器	一、一三九	一三、〇九四、〇八	二、七八一、一五



室內裝飾品	三五	一〇、九九六、二五	一、九五五	一	六
刺繡	二四	一三、九八四、二五	一、七三三	一	一
漆器	八四	六、二九八、二〇	一、六二七	一四	一
銀器	一六	三、〇五五、〇〇	六一	一	一
裝飾品	八〇	二、三三一、四〇	四九	七	六
絹物	二三六	一、三六八、〇〇	二三二	一六	一
糸物	五二	四六六、七六	一三九	三	六
木彫	五六	四〇二、九〇	六八	一六	六
醬油	一六九	三〇四、六〇	五九	三	二
繪画	二三	一六七、六四	三三	一〇	六分
紙製品	一〇八	一四二、五一	三三	三	七
花筵	三〇	一七四、二〇	三二	九	九
綿毛織物	四八	一三一、五五	二五	八	六
木竹製品	四五	四七、二七	一五	六	三分
酒類	一〇	二一、七〇	一〇	一七	一
携帶品	二	五二、六三	一〇	一〇	六
農産物	一九	二二、〇〇	三	八	一

鳥毛獸皮	二三	一一、七〇	二	六	一〇
金屬製雜品	一〇	一〇、八八	二	三	六
計	五、一〇二	一三三、六四二、三二	二七、九九五	七	一一





部 内 館 本 日



## 第五章 儀式饗宴

### 第一節 開館式

本會ノ開館式ハ既ニ六月中ニ舉行スルノ豫定ナリシモ、本邦ヨリ輸送セシ出品物ノ到着大ニ後レタルノミナラス、政府ノ補助モ亦詮議ニ日時ヲ費シ、諸般計畫ノ確立シ難キモノアリ、已ムヲ得ス遷延シテ、七月中旬ニ至リ漸ク出品物ノ整頓ヲ告ケ、館内ノ陳列裝飾全ク成リシヲ以テ、八月初旬ヲ期シテ開館式ヲ舉クルコト、ナセリ。之ヨリ先キ本會々頭ハ都合ニヨリ「グラスゴ」支部ニ出張スルコト能ハザルニヨリ、英國駐在公使林男爵ヲ名譽總裁ニ推選シ、「グラスゴ」ニ來リテ親シク開館式ヲ舉ケンコトヲ請ヒタルニ、八月五日倫敦日本人會副會長「アーサー」、デラシー氏及公使館附武官宇都宮少佐ヲ伴ヒテ來着シ、其翌六日ヲ以テ日本陳列館ノ開館式ヲ舉行シタリ。當日ハ一般縦覧人ノ出入ヲ禁シ、前夜ヨリ會員ノ熱心ナル意匠計畫ニ成リシ仮設的富士山、及琵琶湖ハ館内中央ノ陳列臺ノ上ニ飾ラレタリ、即チ富士山ハ友仙染ヲ以テ全体ヲ形成シ、頂上ニハ素絹ヲ掩ヒ、白雪ヲ戴ケル狀ヲ示シ、其麓ニハ出品物ノ陶磁器、造花、盆栽ヲ以テ箱庭的池ヲ仮設シ、傍ラニ富士山ノ一夜ニ湧起シテ山ヲ成シ、琵琶湖ノ一夜ニ陥没シテ湖水ヲ作リシ古來ノ口碑ニ倣ヒ、此ノ裝飾モ亦一夜ニシテ作成セシコトヲ諧謔的文章ヲ以テ揭示シタリ。又岐阜提灯ト造花トヲ綱條ニ附シテ館内縱横ニ張り渡シ、館外ニハ屋上ヨリ三方ニ此提灯綱ヲ斜下シ、館ノ正面ニハ大ナル日章旗ヲ二重ニ交叉シタリ。サテ午前中ハ細雨霏々タリシニモ關ハラス、招待セシ賓客續々トシテ來會シ、林名譽總裁ハ一々慰勞ニ握手ノ禮ヲ行ヒ、委員



長各委員以下會員一同正装ニ一種ノ徽章ヲ附シ接待ニカメ、デヲシー氏及「グラスゴー」名譽領事「ブラウン」氏ハ共ニ斡旋ノ勞ヲ取リタリキ。ヤガテ定刻十一時トナルヤ、階上ノ一隅ヨリ蘇國ノ國歌ハ囀曉トシテ吹奏サレ、次テ日本ノ國歌ヲ奏シ、林名譽總裁ハ階上ノ欄角ニ倚リテ開會ノ辭ヲ述べ、開館式ノ後レタル所以及ヒ昨夜獨逸皇太后崩御ニ付、本日ノ式モ省略スルトコロ少カラサル次第ヲ言ヒ、來賓ノ厚意ヲ謝シタリ。次テ當日來賓ノ上席者ナル博覽會會頭「ロード」、プロボスト「」本會ニ對スル祝辭演說アリ、拍手喝采ノ間ニ式辭ハ終リテ、個々出品物ノ批評說明ヲ爲スアリ、裝飾ノ意匠寓意ヲ賞スルアリ、階下ノ一隅ニ設ケラレタル酒舖ニ於テ飲食スルアリ、福引紀念品ニ笑ヒ興スルアリテ、午後一時半全ク散會セリ、來賓二百五十餘名ナリキ。開館式終リテ午後二時ヨリ會場内ノ「ルシアン」、レストラントニ於テ午餐ノ饗宴ヲ開ク、來賓ハ博覽會々頭、副會頭、市參事會員、博覽會ノ重ナル役員、各國ノ事務官長、大學教頭等ノ紳士夫人及新聞記者等都合六十餘名ニシテ、本邦人ノ來賓ニハ倫敦ヨリ岩崎男爵、宇都宮少佐、中井正金銀行支店長及夫人等ニシテ、開宴スルヤ主客ノ間ニ祝辭謝辭ヲ交換シ、十分ノ歡ヲ盡シテ午後四時半散會セリ。此宴會ニハ特ニ新趣向ノ餘興若クハ紀念品ナカリシト雖、食卓上ノ獻立書ニ小形ノ「ハンカチーフ」ニ「グラスゴー」博覽會、紀念花、日本部、國旗ノ刺繡アルモノヲ挿ミテ、紀念ニ分チタリシハ一般ニ賞賛セラレタリ。

開館式ノ舉ゲラレシ翌朝、六大新聞紙ハ皆日本部ノ開館式ト題シテ其狀況ヲ詳報シ、等シク賞賛ノ辭ヲ加ヘタリ。全「ヘラルド」紙ノ所載ヲ抄譯シテ參考ニ供スルコト、セリ。

グラスゴー萬國博覽會ノ日本部ノ名譽總裁林男爵及委員ノ招待ニヨリ、貴女紳士ノ多數ハ日本部ノ開館式ニ列センガ爲メニ、昨日ノ午前ヲ以テ其館内ニ集マリタリ。多數ノ來賓中ニハ市長市參事會ノ上座クレランド、ブレ、パール、「ドクトル、グアイエル」、「ジョン、セーレル」、「ウルタル、ウイエルソン」、「エチ、エ、ヘドレー」等ノ人々ヲモ見受ケタリ。

日本部ハ特ニ此會ノ爲ニ造花ヲ以テ飾ラレタリ、ソレハ其他ノ天然物ノ模造ト等シク勦忍強キ日本人ハ、驚ク可キ寫術ヲ以テ人ヲ感動セシム、各國ノ國旗ハ大ナル室ノ廊下ニ飾ラレタリ、奇妙ナル形ノ提灯ガ儀式一般ノ有様ニ幾多ノ光彩ヲ加ヘタリ、併シナガラ絹ノ小旗ニ於テ悲シキ黒キ印ヲ表ハセリ。館内ニ陳列セル美術品並ニ其他ノ出品ハ、既ニ美術家カ相當ノ意匠ヲ以テ裝飾ヲ加ヘタルモノナレバ、更メテ裝飾ヲ加フルノ必要ヲ見ズ。殊ニ日本人ノ想像ハ多數ノ日本人ヲ支配スル所ノ想像力ノ樂シキハ、中央ノ大ナル物ニ於テ現ハサル、ソハ神聖ナル富士山ノ雪ノ冠ヲ戴ケルト、其下ニ於ケル神聖ナル湖水トナリ、是等ハ一般出品物ノ見本ヨリ成レルナリ。日出國ニ於ケル其山ノ由來ニ付キテ、其國ノ口碑ト符合シテ開館式ノ前一夜ニ出來上レリ。當日ハ音樂モアリキ、其初メハ「デッドアーチインソール」ニシテ、其終リノ番組ハ寧ロ夜會ノ性質ヲ帶ビタリ。

林男爵ノ演述ニハ、何ヲ措イテモ先ツ昨夜當方ニ達シタル悲シム可キ報道即チ獨逸皇太后陛下ノ崩御ニ付キテ先ヅ吊辭ヲ述べザルベカラス、一般ニ之ニ對シテ表スル同情ハ固ヨリ本日ノ式ニ於テ淋シサヲ加ヘサルヘカラス、然ラサリセハ今日ノ式ハ最モ華ヤカニ行フ



ノ計畫ナリキ、斯カル事情アルカ故ニ此際只ダ日本部ヲ開クトノ事ヲ告白スルヲ以テ足レ  
リトス、而シテ貴女紳士ノ來會セラレシヲ榮トシテ謝スル處ナリ

「ロード、プロボスト」之ニ對シテ博覽會事務局ニ代リ述ヘテ曰ク、事務局ハ當日ノ式ニ就キテ  
ハ大ナル満足ヲ表シテ歡ブ所ナリ、又博覽會ハ日本人カ此博覽會ニ對シテ盡シ且得セシメ  
タル利益ト助ケトニ向テ厚ク謝意ヲ表ス、殊ニ事務局ハ本日出來上リタル美シキ裝飾ヲ賞  
賛シ、開期中日本部ノ爲メニ大ナル繁榮ヲ祈ル

公式終リテ妙味アル趣向ニ依リテ紀念品ヲ來賓ニ分チタリ

全日ノ午後林男爵ノ招待ニヨリテ、多數ノ貴女紳士ハ「ルシアン、レストラント」ニ於テ晝餐ノ  
饗ヲ受ケタリ、「ロード、プロボスト」大學教頭「ストリー、ソルジョン、ミュール」市參事會員「ク  
ランド」「ソーレー」「ビルスランド」「セーレル」「ブリムロース」「ウイルソン」「クラフアルト」及ヒ  
「ダイエル」「ヘドレー」等列席セリ、食事中ニ總裁林男爵ハ、英國皇帝陛下ノ健康ヲ祝シ、其際併セ  
テ英國及獨逸皇室ニ起リタル喪ニ對シ吊意ヲ述ベタリ、次ニ

「ロード、プロボスト」ハ日本皇帝陛下ヲ祝シ、猶曰ク曾テ遠方ノ來客殊ニ菊ノ花ノ國トシテ衆  
目ニ珍ラシキ感ヲ與ヘタル時代モアリキ、而カモ其時ハ久シキコトニテアラザリキ、今ヤ各  
國間ノ交通進歩シタル結果トシテ、吾々ノ市街ヲ逍遙スル所ノ外國人ハ、恰モ其自國ニ於ケ  
ルカ如キ思ヲナス様ニナリヌ、是即チ經典ニ、神ハ一ノ地ヨリ各國ノ人ヲ作レリト言ヘルコ  
トノ眞理ノ証據ナリトス、又嘗テ吾々ノ詩人ハ「四海日ナラズシテ兄弟タラン」トノ豫言ノ前

表ナリ(喝采)

今日ノ集會ハ極東ニ於ケル最モ「インテレスチング」ナル國、即チ日本人ノ國ニ關スル會ニシ  
テ、總テノ來會者ハ進歩的ノ人民ハ新シキニ就キ、進歩ヲ望ムノ精神ヲ以テ附與セラレタル  
天皇陛下ニ依リテ支配サレテアリ、且ツ其國ノ富源ヲ開キ、其臣民ノ幸福ヲ増進センコトヲ  
一意力メラル、天皇陛下ニ依リテ支配サル、コトヲ知ルハ最モ喜ブ所ナリ、故ニ今日ノ會  
衆ハ 天皇陛下ニ萬歳ト健康ト繁榮トヲ願フコトニ、眞實ニ全意ヲ表スルコトナラン云々、  
トテ充分ナル祝辭ヲ述ヘタリ

林男爵ハ次ニ「グラスゴー」市及博覽會ノ成功ヲ祝シテ曰ク、此市ハ蘇格蘭ノ商業及工業ノ最  
大中心トシテ知ラレテアリ、此市ニ來リシ日本人ノ多數ハ大學校ニアリテ學問ヲナセリ、又  
「グラスゴー」ヨリハ日本ヘ多數ノ教授及技師ヲ送レリ、今日ノ來賓ノ一人ナル「プロフェッ  
ル、ダイエル」ハ、東京ニ於テ始メテ工學寮ヲ設ケテ大ニ日本ノ爲メニ盡力セリ(喝采)他ノ教授  
及技師モ重要ノ位置ヲ充タシ、彼等ニ任セタル事業ヲ充分ニ成スノ能力アル人々ナリキ、日  
本ノ商業ノ爲メニ用フル大汽船ノ多數ハ「クライド」ニ於テ作ラレタリ、其船舶ハ今ヤ亞細亞、  
印度、濠太利、亞米利加等ニ向テ其國ノ物産ノ運搬ヲ爲シツ、アリ、今又日本商工業者ノ團體  
ノ中ヨリ幾十人ハ此「グラスゴー」ニ來リ、事務局員並ニ一般市民ノ歡待ヲ受ケツ、アリ、望ム  
ラクハ是等ノ人ノ來往ニヨリ、兩國ノ間ノ關係ヲシテ益親密ナラシメンコトヲ望ム(喝采)  
右ノ「トースト」ニ對シテ「ロード、プロボスト」ハ林男爵ニ對シテ、グラスゴー市殊ニ同大學カ日



本ノ進歩ニ對シテ致シタル誠意ノ價值ニ付キテ賞賛ヲ蒙リシコトヲ謝シ、此市カ日本ノ爲メニ致シタル利益ニ對スル勢力ハ將來モ減ゼズ、其遠方ノ國ノ船ハ依然ク「ライド」ニ於テ造ラレンコトヲ最モ望ム所ナリトス。林男爵並ニ其國人ヲシテ世界ノ最大造船ノ中心ハ「グライド」ナルコトノ感念ヲ保タレンコトヲ望ム。又「グラスゴ」天學ニ對シテ學術上名高キ場所トシテ信用ヲ失セズ、依然「ギルモル」丘上及其教室ニ續々學生ヲ送ラレンコトヲ望ムト。又博覽會ニ付テハ市長ハ林男爵ニ向テ其厚意ヲ謝シ、且ツ曰ク此博覽會ノ短キ經過ノ半バニ至リ、成功ノ確タルコトヲ知ルニ至リシヲ喜ブ、博覽會ノ最モ熱心ナル同志者カ、既ニ三ヶ月ノ中ニ最モ幸ナル繁榮ノ事實ヲ擧ゲタリ、コハ固ヨリ縦覽者及收入ノミニ就テ言フニアラズ、否只之ノミヲ以テ成功ノ眞實ナル証據トスルニ足ラス。博覽會ハ一ノ教育的ニ屬ス、其歸スル處ハ獨リ自國ノ製造者並ニ工業者カ、今日マテ爲シタルコトヲ示スノミナラス、他國ノ商人技藝者カ作成シタルモノヲ示ス處ナリトス。故ニ智識ヲ擴メ新來ヲ求ムル爲メニ集ル所ノ多數ノ縦覽者ノ爲メニハ最モ喜ブ可キコトニシテ、是レゾ誠ニ博覽會ノ成功ヲ判ス可キ一ノ精神ナリトス。猶今後數月間中ノ成功ハ、過去ノ如ク大ニシテ其結果ハ人民一般ノ智識ヲ増スコトニ至ランコトヲ望ム。獨リ未來ニ於テ大事業ヲ行フ爲メニ得ル所ノ金錢上ノ利益ノミナランヤ

前市參事會員「ジョン、セーレル」氏日本部ニ對シテ贊辭ヲ述ブ、其大要ニ曰ク、本博覽會ノ成功ハ外國助力者ノ多數ノ力ニ依レルコトニシテ、即チ露西亞帝國、佛蘭西共和國及我殖民地諸州ノ如キ著シキ出品アリタリ。然レトモ殊ニ衆人ノ注意ヲ惹クモノハ日本部ノ出品ニアリ、其美麗高貴ナルコト吾人ヲシテ深ク敬服セシム、元來蘇國人ハ日本ニ對シテ特ニ同情ヲ表スル次第アリ、即チ日本ハ蘇國ト同シク山水明媚ノ國ニシテ、又日人ハ我蘇國人ノ如ク深ク商工業上ノ天性ヲ有シ、進歩ニ向テノ希望ヲ有スル人民ナレバナリ、故ニ吾人ハ日本部ニ對シテ其繁榮ナル前途ヲ祝ス云々

之ニ對シテ日本ノ委員長「鹽田氏」ハ、邦語ヲ以テ明晰ニシテ快活ナル調子ヲ以テ答ヘタリ、「アサー、デラシー」氏ニ依リテ通譯サレタル大要ニ曰ク、日本出品カ此クノ如ク諸君ノ賞賛ヲ蒙リタルコトハ、同胞並ニ自己ノ大ニ満足スル所ナリ、然レトモ其成功ハ主トシテ博覽會ノ施設ノ當ラ得タルニ依ルコトニシテ、又事務局員ノ親切ナル助力忠言ニ依ルコト多シトス、故ニ是等ノ局員ニ向テ感謝ノ意ヲ表ス、特ニ事務長「ヘドレー」氏ハ熱心ト老練ト敏捷トヲ具ヘタル材幹ヲ以テ、此博覽會ノ大成功ニ付キテ大ナル功績アルモノト信シ、同氏ニ向テ併セテ感謝ノ意ヲ表ス云々

次ニ倫敦日本人會「アサー、デラシー」氏ハ、鹽田氏ノ答辭ヲ補足シテ曰ク、元來當國人ニハ一ノ誤解アリ、即チ日本品ハ買フヘカラス、何トナレバソレハ「パーミングハム」製ナリト、固ヨリ「パーミングハム」ニテハ同價ヲ以テ日本品ヲ製作スル能ハス、日本品ハ安價ニシテ且ツ精良ナリ、日本人ハ世界ノ此ノ部面ニ於ケル人民ヨリハ少キ給金ヲ以テ働キ、然ノミナラス美術ハ日本人ノ性質ノ特有タルヲ以テ、普通品ト雖自ラ美術ノ神髓ヲ具フ。又日本人ノ品位如



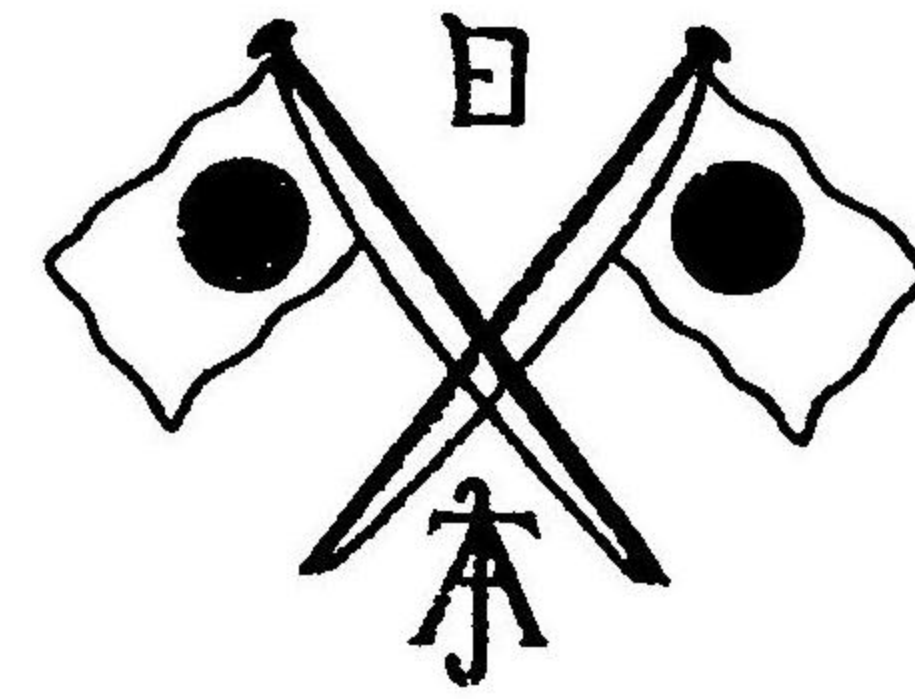
何ハ英國人民中ニ於テ能ク知悉サレ居レリ、即チ單ニ其名ヲ言ヒテスラ、各英人ノ胸中ニ賞賛尊敬ノ感念ヲ惹起ス然レトモ同情ハ市場ニ於テ値ヲ有スルモノニ非ス、日本ハ資本ヲ有ス、且ツ之ヲ活用スベキ商業上ノ熱心及經驗ヲ要ス云々ト述ヘ、更ニ總裁林男爵ノ健康ヲ祝セリ。此ノ祝賀ハ衆人ノ熱心ナル合意ヲ以テ表ハサレ、愉快ニ宴ヲ終リヌ

## 第二節 天長節

十一月三日ノ天長節ニハ、「グラスゴー」支部ニ於テモ亦相當ノ祝賀式ヲ舉行セント欲セシモ、當日ハ恰モ日曜日ナリシヲ以テ、土地ノ習慣上萬事休止セサルヘカラス、(第八章結論中「グラス」人ヲ招キ宴ヲ張ル如キコトハ事實成シ難キトコロナレバ、已ムヲ得ス)在留會員一同、午前十時ヨリ博覽會場内日本陳列館ニ參集シ、遙ニ東方ヲ拜シテ熱心ニ天皇陛下ノ萬歲ヲ三唱シ、小宴ヲ開キ以テ祝賀ヲ了ヘタリ

「グラスゴー」名譽領事、ブラウン氏ハ、十一月三日ハ全ジク日曜日ナリシガ故ニ一日ヲ延バシ、四日午後七時ヲ以テ「グラスゴー」俱樂部ニ於テ、在留本邦人及領事館ニ關係アル當地ノ紳士及、ドクトル、ダイエル等三十餘名ヲ招キ、盛大ナル天長節ノ祝宴會ヲ開キタリ、本會ヨリノ列席者ハ委員長及委員三名、事務員四名、出品人三名ナリキ、本會委員長來賓ノ總代トシテ「ブラウン」氏ト祝辭謝辭ノ交換ヲナシ、君が代ノ唱歌蘇國ノ祝歌ヲ内外人合唱シテ十時半散會セリ





*Baron I. Hayashi, Honorary President,  
and the Committee of the Japanese Section of the  
Glasgow International Exhibition  
request the honour of the company of*

*and  
at luncheon in the Russian Restaurant, Kelvingrove Park, on  
the 6<sup>th</sup> August, at two o'clock, after the inspection of the  
Japanese Section.*

*R.L.P.*

狀待招式館開部本日



寫遠面側館本日



## 第六章 日本出品ノ成績

### 第一節 出品物即賣ノ狀況

本博覽會規則第二十七條ニ出品ノ全部若クハ一部ハ事務局ノ特別許可ヲ受クルニアラサレハ閉場前搬出スルヲ許サスト規定シタリ。蓋シ何レノ博覽會トイヘトモ大抵此制規ヲ設クルノ常ナレハ、獨リ「グラスゴー」博覽會ノミヲ評スヘキニアラサレドモ、本博覽會ハ元來出品物ノ審査ヲ爲サス、隨テ褒賞ヲ與フルニモアラズ。即チ博覽會開設ニ就キ、出品勸誘又ハ獎勵ニ屬スル一部ノ意味ヲ失ヘルモノナレバ、此規則ハ其當ヲ得サルモノニ似タレトモ、亦博覽會一般ノ趣旨及体裁上ニ就テ察スルトキハ、猶之ヲ活用スルノ必要アルヲ認ム、故ニ本會ニ於テモ普ク我邦美術工藝品ノ價值ヲ知ラシメ、又陳列ノ体裁ヲ損セサルヲ計リテ、當初ヨリ之ヲ遵守シ、專ラ賣約法ニヨルヘキ者ト觀念シタリシモ、開會後ノ實狀ハ長ク之ヲ墨守スルノ不利ナルコトヲ發見シタリ。即チ多クノ買客ハ、其出品物ヲ即時代金引換ニ授受スルニ非サレバ、購買ヲ中止スル事。些少ノ物ヲモ閉會後一々荷造送達ヲ爲ストキハ、手數ノ繁雜ト經費ノ過分トヲ要シ、不利少カラサル事。同一種類ノ出品二個以上アルモノハ寧ロ其ノ一ヲ即賣スルノ便利ナル事。多種類ノ物品ヲ即賣スルハ、毫モ博覽會出品ノ旨趣ヲ妨ゲサルノミナラス、陳列區ニ餘裕ヲ生シ、一般出品物ノ利便トナル可キ事。等何レヨリ考フルモ著大ナル物、又ハ他ニ類ナキ物、專ラ見本の出品ノ性質ヲ有スル物、即賣シテ陳列ノ体裁ヲ損スルカ如キ物、顯著ナル物等ヲ除クノ外ハ買客ノ請求次第即賣授受ヲ開始セント欲シ、事務局ニ交渉ヲ重ネシカハ、遂ニ前記ノ希望ヲ容



レラレテ、八月中旬以來賣約ト即賣ト両ナカラ之ヲ爲スコト、シタリシカハ、大ニ購買者ノ喜  
 プ所トナリ、販賣高モ亦隨テ増加スルニ至レリ

第二節 出品物ノ賣上表

種類	點數	原價 (邦貨)	賣價 (英貨)
牙彫	一、五九七	七、二五六、一九 <sup>四</sup> 錢	一、四一四 <sup>磅</sup> 六 <sup>志</sup> 一 <sup>片</sup>
陶磁器	三、九四一	五、八一六、六二	一、〇五九 一 <sup>二</sup> 二 <sup>分</sup>
七寶	二〇〇	二、八四〇、〇〇	七四二 一 <sup>八</sup> 三
銅器	七二	二、五四七、七五	五一〇 一 <sup>一</sup> 一
古美術品	五、三三	三、〇〇〇、五五	四六三 一〇 九
室内裝飾品	五二	五、七四七、〇〇	四二二 六 六
刺繡	一三	一、七九八、二五	二七二 八 一
絹物	一、一八一	一、〇七〇、七〇	一七六 一 <sup>二</sup> 一
漆器	三六一	六六八、〇〇	一三九 一〇 六
銀器	六	五〇、〇〇	九〇 一 一
醬油	一、七七〇	三二四、一〇	六六 一四 一
木彫	二二六	二二二、四五	四〇 一 七

種類	點數	原價	賣價
裝飾品	二〇四	七六、五〇	二六 六 六
花筵	六二	一〇〇、四四	二四 一八 八
紙製品	二二一	一一三、二七	二三 一七 八
綿毛織物	四五	一一七、五〇	二一 一六 六
繪畫	九八	一〇〇、五〇	二〇 三 三 <sup>分</sup>
携帶品	三八四	八三、九二	一八 一七 一
袋物	一四	四五、五〇	八 一八 一
酒類	二〇	一四、五〇	二 一八 一
糸物	一一	六、二二	二 三 一
木林製品	五〇	七、二一	一 一七 三
金屬製雜品	一九	七、八七	一 一 六
農產物	二	二五	一 一 分
計	一〇、八七三	三三、〇〇五、二九	五、五五二 一 一 分

出品賣上府縣別一覽表

府縣	種類	出品人數	點數	原價	賣價
東京	牙彫	三	一、五八五	六、九九七、一四 <sup>四</sup> 錢	一、三八二 <sup>磅</sup> 一四 <sup>志</sup> 一 <sup>片</sup>







		福井		兵庫		岡山		岐阜		愛知	
	絹物		陶磁器		牙彫		紙製品		七寶		計
計	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	六
	二二	二七六	二九	一	三〇	四二	一六六	二二五	一七九	二六一	八八九
	二二三、〇〇	一八五、二七	八八、一〇	一五〇、〇〇	二三八、一〇	二九、六七	二、四三八、二五	三三三、九七	八三、六〇	三一、三〇	二、九八五、三二
	二九	四六	一二	九	二二	四	六六一	四四	一九	八	七五一
	九	一六	八	二五	三	一	一七	一七	一七	七	一六六
	一	六	九	一	九	八	三	一	一	九	五分

一三九

		石川		漆器	
	陶磁器		美術品		計
計	一三	三	三	三	一
	三、〇八七	六一	九八〇	四三	七一
	四、一四四、五五	四九三、六五	四二四、七〇	一〇七、五〇	一、二五
	七三九	八七	六六	二〇	一三一
	一〇	一一	五	二〇	四
	七	一八	一一	五	六
	二〇	三	三	三	一
	一五	四	四	一	五
	一一	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	四、八四	一七、五〇	一四、〇〇	一四、五〇	一、九五
	一七、五〇	一四、〇〇	一四、五〇	一、九五	九八五
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二
	一〇	二	一	一	二

一三八



神奈川	陶磁器	四	五五九、一〇	一二九	五
	銅器	一	二二〇、二五	四四	一〇
	計	五	七七九、三五	一七三	一五
千葉	醬油	一	三一四、一〇	六六	一四
合 計		一〇、八七三	三三二、〇〇五、二九	五、五五二	一一二

第三節 將來ノ販路

「グラスゴー」市ニ日本雜貨ヲ販賣スル商店三個アレトモ、「エドワード」父子商會ヲ除クノ外ハ何レモ微々タルモノニシテ、眞ニ精巧ナル工藝品、高貴ナル美術品ヲ求メント欲シテ得ヘカラス。而カモ其商品ノ種類ハ少數ニシテ且ツ粗末ナリ、寧ロ價ノ廉ナルヲ旨トシタルカ如キ跡アリ、甚シキハ獨逸製擬日本品ヲ眞實ノ日本品ト稱シテ賣レルモノナリ。此ノ如キ狀態ナルカ故ニ、市民ノ大部分ハ眞實ノ日本工藝美術品ヲ熟知セサルモノ多ク、隨テ眞正ノ價值品位ヲ區別スルコトニ至リテハ全ク無經驗ナリトス。即チ日本ノ精巧多種ナル工藝美術品ヲ縱覽熟知スルヲ得シハ、今回ノ博覽會ヲ以テ始メトスト謂フモ可ナリ、故ニ日本品ノ購買ニ經驗ナキヲ以テ、先ツ一般ニ價格ノ低キモノヲ撰ミ、珍物トシテ且ハ紀念トシテ試ニ求メタルモノ多シトス。

販賣店ノ盛況及ヒ本會委託品ノ低廉又ハ細小品ノ重ニ賣レ行キタル亦此ニ職由ス。絹團扇及ヒ刺繡ハンカチーフノ如キ、又ハ「アンチモニー」製品及ヒ九谷碗皿ノ如キ、當時倫敦ハ言フマテモナク、少シク著名ナル都市ニ至リテハ、其ノ之ヲ珍奇トナサ、ルハ勿論、市上ノ賣價モ本邦小賣相場ト殆ント軒輊ナキノ有様ナルニ、獨リ「グラスゴー」博覽會ニ於テハ、是等ノ物品ハ二倍若クハ三倍ノ價格ヲ以テ盛ニ賣レ行キ、賣店營業者ヲシテ豫想外ニ驚カシメ、閉會前其ノ所有貨物ヲ賣リ盡シタルモノ少カラス。然レトモ是等ハ多ク一時ノ好況ニシテ長ク繼續スヘキモノニアラス、所謂博覽會營業タルニ外ナラサレハ、之ヲ以テ將來ヲト知スヘカラス。殊ニ其ノ價格ノ如キ甚タ不定ニシテ、或ハ商品ノ信用ヲ失墜スルコトナキヤノ憂ナキ能ハサリキ。

將來蘇國地方ニ販路ノ擴張サルヘキ、最モ有望ノモノハ醬油ヲ以テ第一位ニ推サ、ルヘカラス。今回出品セシハ、今醬油ニシテ、同品ノ風味ハ大ニ蘇格蘭地方人ノ嗜好ニ適シ、曾テ倫敦ニ販路ヲ求メテ「グラスゴー」ニモ試ミランシ龜甲萬ニ比スレハ遙ニ優レルモノアリトシ、新聞ノ廣告ヲ見テ其ノ性質成分ノ大要及ヒ價格ヲ知り、次テ博覽會ニ入り日本館ニ來リテ實物ヲ見、其ノ說明ヲ聞キ、更ニ見本的小櫃ヲ購ヒ歸リ、或ハ直ニ現場ニ於テ試味シ、始メテ其ノ美味及ヒ使用法ヲ覺知スルニ至ラシメ、遂ニ日本醬油ノ名噴々トシテ「グラスゴー」市民ノ間ニ喧傳サレ、將來ノ需要益多大ナルモノアラントスルノ形勢ナルヨリ、市内ノ商會又ハ商人ヨリ、特約販賣ヲ爲サンコトヲ乞フモノ頻々起リタルニ付、本會委員其ノ中間ニ立チテ、同地領事「ブラウン」氏ト協議ノ末、就中有力ナル五商會ト仮リニ契約ヲ締結シ、本邦ヨリ今醬油ヲ定期輸送ヲ爲スコト



ニ定メタリ。其ノ一手特約販賣區域ハ、蘇格蘭一体及ヒ愛蘭ノ北部ニシテ、第一期ニハ先ツ五千  
 ダースヲ輸送スルノ豫定ナリキ。是等ハ誠ニ一時的ニアラス、將來益々多大ノ需要アルヘキハ  
 信シテ疑ヲ容レズ、只タ日本製造家ノ資本ノ分量、及ヒ現在ノ規模ヲ以テシテハ、或ハ彼ノ希望  
 ニ應シテ、能ク永遠ニ満足ヲ與ヘ得可キヤ否ヤヲ危マシムルコトアルノミ。獨リ今醬油ニ限ラ  
 ス、他ノ醬油ニテモ彼國人ノ口ニ適スルモノヲ製出シ、之カ輸出販賣ヲ謀ラハ、歡迎ヲ受クルコ  
 ト又今ト同様ナルモノアラシ。蓋シ本邦商人ノ惡癖トシテ、漫ニ販賣擴張顧客吸收ノ爲メニ、同  
 業者間ノ競争ヲ惹キ起シ、終ニ又漁夫ノ利ヲ爲サシムルカ如キ愚ヲ演出スルヲ警メ、或ハ之カ  
 先進者今製造者ト相共同シテ當ルコト、セハ、則チ規模モ大ニシ易ク、不利ノ競争ヲモ免レ、隨  
 テ國益ヲ進ムルコトヲ得ルニ庶幾カラシカ

醬油ニ次テ將來販賣ノ好望アルモノハ羽二重ナリトス、グラスゴーニハ從來日本羽二重ノ需  
 要少カラサリシモ、之カ販賣取次ヲ爲スモノハ、皆倫敦商會ノ手ヲ經テ請賣ヲ爲スニ過キサリ  
 シカ、今回福井絹物同業組合ノ出品ニ係ル素地羽二重十二匹ハ、陳列早々賣約成リ、猶之ヲ見本  
 トシテ直接注文ヲ發セントスルモノ少カラス、遂ニ同市内絹物卸商會ハ直接取引ヲ開始セン  
 ト欲シ、其ノ紹介ヲ本會ニ依頼シテ、福井絹物組合ト取引注文ノ交渉ヲ開キタリ。爾來未タ其ノ  
 成績ノ如何ヲ審ニセスト雖、斯業者ニシテ一致共同以テ誠實ニ事ニ當ラハ、必ス著シキ利益ヲ  
 見ルニ至ルヘク、隨テ神戸横濱等ノ商館カ、多年不正ノ利益ヲ壟斷シ、製造業者ヲ苦シメタリシ  
 痕ヲ絶ツノ時機亦遠キニアラサルヘシ

岐阜縣勅使河原製糸會社出品ノ典具帖「ナフキン」平紙、板張紙類モ亦大ニ嗜好ニ適シ、其ノ四十  
 有餘點ノ見本ハ忽チ賣約トナリ、猶多數ノ需要者アリシモ、小賣的ニ屬シ且ツ低價品ナルカ故  
 ニ、大注文ニアラサル外ハ、本邦ヨリ一々送付スルヲ得サルモノアリ。將來之カ販賣取次ヲ爲ス  
 モノ、生センコトヲ希望スルコロナリ。又「ウイスキー」製造ノ一會社ニテハ、「ウイスキー」  
 包被ニ充用センガ爲メニ、一々年間ニ約一億萬枚内外ノ「ナフキン」平紙ノ注文ヲ爲サント欲シ、  
 其ノ見本及ヒ物品發送期限代價等ニ就テ詳細交渉スル所アリ、勅使河原會社亦喜ンテ之ニ應  
 セント欲セシモ、其ノ製造上ノ現狀ヲ察シ、未タ確ニ之カ注文ヲ引受クルノ場合ニ至ラズ  
 刺繡類ノ「ハンカチーフ」同團扇ノ如キハ前ニ記シタルカ如シ。其ノ精巧ナル刺繡屏風、帛紗、天鷲  
 絨友仙ノ如キモ亦大ニ嗜好セラレ、巴里博覽會ニテ賣リ殘リタル高價ノ物モ過半賣リ盡クサ  
 レ、其ノ流行兩三年ニシテ廢スルカ如キコトナキヲ信ス

茶、日本茶ハ未タ曾テ同地方ニ試賣サレタルコトアラサリシカ故ニ、本會ハ今回ノ機會ヲ  
 利用シテ之カ出品ヲ試ミンコトヲ望ミ、東京茶業組合中央會議所ニ向テ出品ノ勸誘ヲ爲セシ  
 ト雖、同組合ノ年度事業豫算決定後ニ屬シ、出品シ難キモノアリトノ事ニテ、遂ニ茶ノ出品ヲ見  
 ルニ至ラサリシヲ以テ、果シテ同地方一般ノ嗜好ニ適スルヤ否ヤ、又其ノ需要ノ程度如何ヲモ  
 察知スルコト能ハサリシト雖、同地方普通人ノ日常多量ニ飲用スル茶ハ錫蘭茶ナリト云フト  
 イヘトモ、其實多クハ廉價ナル支那茶ニシテ、錫蘭茶ハ上茶トシテ自ラ其ノ價格品位ヲ失ハス。  
 此ノ如キ狀況ナルカ故ニ、日本茶ノ販賣モ亦必スシモ有望ナラストセサルナリ



陶磁器、七寶類、日本陶磁器八十數年前マテハ、世界ニ於ケル陶磁器中一頭地ヲ拔ケル工藝品トシテ、歐米人ノ愛玩使用ヲ博セシコト少カラス、一時ハ本邦輸出品中ノ最モ重要ナル部類ニ位セシ物ナルカ、年ヲ逐フテ次第ニ世界ノ需要ヲ減シ、近年ノ輸出高ハ其ノ旺盛時代ノ漸ク半ニモ過キス。其ノ原因ハ千九百年巴里博覽會ニ、各國ヨリ出品セシ陶磁器ヲ仔細ニ觀察比較シタルモノ、明ニ諒知シタルトコロナルヘシ。今ヤ日本ノ陶磁器ハ世界ノ需要ト全ク反比例ノ状態ニ在ルモノナリ、其ノ磁質ノ脆弱ニシテ純潔ナラサル、形狀ノ變化ニ乏シキ、繪付染模様ノ陳腐ナルト、並ニ多數ノ一定品ヲ製出シ得サルカ如キ、其ノ他種々ノ缺點アルカ上ニ、當業者ノ理化學的應用ノ智識ニ乏シキ爲メ、改良進歩スル所少ク、到底歐米各國ノ陶磁器ト、競争場裡ニ立チテ勝ヲ制スヘキモノト認ムヘカラス。故ニ如何ニ蘇國地方ノ人ハ、日本品ヲ珍重シ愛玩スルトイヘトモ、陶磁器ノミハ低廉品若クハ半ハ玩弄ニ屬スル種類ノ外ハ、美術品實用品兩者共ニ其ノ需要ニ適セサルナリ。今回出品中陶磁器ノ點數最モ多キ割合ニ、販賣高之ニ伴ハス、且ツ日本人ノ以テ精良ナリト自稱セル、高價ナル物ノ更ニ賣行キナカリシモ亦當然ノコトナリトス。彼ノ九谷碗皿類ノ盛ニ賣レ行キタルハ、只一見金色ノ廉ハシク、價ノ甚タシク高カラサルカ爲メニ、博覽會紀念トシテ、嗜好ノ程度ノ低キ一部份者ノ購ヒタリシニ過キス、頓テ使用ノ後其金色ノ容易ク剝落シ、且ツ脆弱ナルノ事實ニ會スレハ、再ヒ之ヲ購求セントノ念ヲ絶ツニ至ルベシ。殊ニ七寶燒ノ如キニ至リテハ、歐米各地ノ嗜好今ハ殆ント廢セラレタルモノニシテ、其ノ精良ナル銀七寶モ、價ノ貴キ割合ニ物品ノ價值ヲ認メラレス、粗末ナル物モ猶其ノ高價ナ

ルヤヲ感セシメテ、需要甚タ少シシ。之カ衰運ヲ挽回セント欲セハ、當業者ノ大奮發以テ改良一番ヲ要スヘシ

花筵、花筵ハ從來倫敦ニ向テ多少ノ輸出ヲ見シモ、其ノ多クハ粗末ナル安價品ニシテ、上流社會ノ室内裝飾品トシテモ、又實用向トシテモ不適當ヲ免レサリシカ、本博覽會ニ際シ出品サレシ岡山縣ノ花筵ハ何レモ精良ナル品ニシテ、模様ノ織リ出シ亦優雅ナルモノアルヨリ、大ニ縦覽人ノ注意ヲ惹キ、上流紳士ノ喜ンテ賣約スル所トナレリ。而シテ猶是等ノ人ハ、此ノ如キ上等品モ亦將來英國商店ニ於テ販賣スルニ至ランコトヲ望メリ

#### 第四節 殘品處分

何レノ外國博覽會ニモ、出品人ノ最モ困難ヲ感スルトコロハ殘品處分ニシテ、日本出品人ノ資格及ヒ出品ノ趣旨ニ就テノ論ハ暫ク措キ、實際賣殘リヲ生セシ場合ニ於ケル出品人ノ多數ハ其處分ニ苦ムトコロニシテ、チカゴ博覽會ノ殘品處分ニ窮セシ事實ニ徴シテモ、又近ク巴里博覽會ノ殘品送還後ノ狀況ニ察シテモ、出品人ノ苦痛ヲ感スルハ明了ナルトコロナリ。故ニ本會ニ於テモ最初ヨリ之ニ對スル計畫ヲ立テ、比較的出品人ノ痛苦ヲ少カラシメンコトヲ欲シタリ。殊ニ本會成立ノ趣旨ニ願ミテモ、巴里博覽會ノ殘品及其他一般殘品ノ處分ニ就テハ、更ニ大ナル責任ヲ有セルコトヲ認識シタルモノナリ。然ルニ巴里ヨリ廻送サレタル殘品ノ重ナル物ハ大抵之ヲ賣却シ得タルハ、出品人ノ満足スルトコロナルノミナラス、本會モ亦大ニ幸トスル



トコロナリ。而シテ全出品物ノ約四分ノ三ノ殘品ハ、是レ亦種々ノ機會ニ逢遇シタルヲ以テ、二三出品人ノ競賣ヲ開キタルモノ、外ハ、左ノ如ク處分セラレタリ

「ウォルバーハムプトン」博覽會、英蘭ノ一都市「ウォルバーハムプトン」ニ於テハ、恰モ英國皇帝ノ戴冠式舉行、英杜戰爭ノ終結等ヲ見込ミテ、盛大ナル規模ヲ以テ、千九百二年五月ヨリ内國博覽會ヲ開設スルノ舉アルニ際シ、本會々員中之ニ參同出品スルコトヲ約定シ、「グラスゴー」博覽會閉會後、其ノ殘品ノ一部約三十余函ハ直ニ「ウォルバーハムプトン」ニ向テ廻送サレタリ

「コーク」博覽會、愛蘭「コーク」ニ於テモ、亦千九百二年五月ヨリ萬國博覽會ヲ開設シ、當局者ハ深ク日本ノ出品ヲ希望シタルニヨリ、又種々ノ便宜ヲ得テ以テ本會々員中有志者ノ一團體ハ之レ出品スル「コトヲ協定シ、「グラスゴー」ノ殘品約五十余函ハ直ニ「コーク」ニ向テ廻送サレタリ以上ノ外巴里市在留本邦商人ニ、委託販賣トシテ廻送サレタルモノ九個倫敦商店ニ留リタル物八個ニシテ、本邦ニ還送サレタル殘品ハ、大小總計二十六個(此殘品原價約三万圓)ト、愛知七寶部ノ廻送殘品十七個(此原價未詳)ナリトス

「オクシヨン」、博覽會殘品ヲ其ノ博覽會所在地ニ於テ「オクシヨン」ニ付スル如キハ、商品ノ爲メ又將來貿易ノ爲メ、最モ不利ナルコトハ言フマテモナク、本會ノ當初ヨリ戒必シタル所亦實ニ此ニ在リテ存ス。故ニ閉會前豫メ各出品者ニ向テ勸告スル所有リシモ、一部出品者ノ閉會後直ニ「グラスゴー」ニ於テ之ヲ行ヒタリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ。即山中商會殘品ノ盆栽ハ、物質上已ムヲ得サル點アリ、貿易上ノ妨害ト成ルベキ深キ影響ヲ有スルモノニ非サレトモ、同商

店ノ多數ノ古物ト、愛知七寶部ノ七寶トハ共ニ競賣ニ附セラレタリ。幸ニシテ各相當ノ價格ヲ維持シ得タルヤニ傳フレトモ、其ノ確實ナル報告ヲ得ル能ハス。次テ又倫敦ニ於テ七寶ノ競賣アリシモ、市場一般不況ナリシト、七寶其物ノ既ニ嗜好ノ廢レタルトニ因リ、甚ダシキ不結果ニ終リシト云フ



第七章 事務概要

第一節 事務分擔

本會ノ事務ヲ分テ出品、庶務、會計ノ三課ト爲シ、各課ニ主任一名、事務員及書記數名ヲ置キ、別ニ本支部共ニ事務長ヲ置キ、以テ内外ノ事務ヲ處理セシム、主任ノ「グラスゴ」支部派遣ニ付テハ、政府ノ命令ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タルモノナリ。左ニ其ノ分擔及氏名ヲ記ス

出品主任	村上剛
庶務兼會計主任	窪田勘六
本部事務長	河原徳立
支部事務長	清水聞二
支部書記長	中川正存

事務員及書記（「グラスゴ」支部勤務）

- 筒井嘉太郎
- 倉元新七
- 中里一郎
- 水崎基一
- 萩原純一
- 藤本恒太郎
- 香西龍雄
- 江浪龜四郎
- 長谷川吉次郎
- 村上厚
- 佐々木熊太郎
- 芝山外二郎

雇員氏名略ス

出品物説明、販賣、陳列、發送等、其他出品物取扱ニ關スル事務ハ最モ繁多ナルカ故ニ、事務員書記



ノ外ニ内外人十余名ヲ雇入レ、其ノ事務ヲ補助セシメタリ  
以上ノ如キ少人数ヲ以テ、比較的繁雜ナル事務ヲ取扱ハシムル事ナルカ故ニ、一々事務取扱細  
則ニ拘泥スヘカラス、各課ヲ通シテ緩急便宜相應援シ、以テ全局ノ利便ヲ收ムルヲニカメタリ  
明治三十五年五月ヲ以テ本會事務結了シタルニ付キ、役員ヲ解任シ、六月ヨリ殘務取扱委員ヲ  
置キテ、報告書編纂其他殘務整理ノ任ニ當ラシメ、同年十一月ヲ以テ事務全ク終了ヲ告ケ、本會  
ヲ解散スルコト、ナセリ

#### 殘務委員

榎 田 眞  
窪 田 勘 六

#### 第二節 事務處辨

本會創立ノ際ハ巴里市「アベニユール、ツールビル」十九番ニ創立事務所ヲ設ケ、明治三十三年十  
一月一日ヨリ東京市麹町區内山下町一丁目二番地ニ本會本部ヲ置キ、三十四年三月十五日ヨ  
リ蘇格蘭「グラスゴー」市「ラドナール、ストレー」二十三番ニ支部事務所ヲ設ケタリ、爾來本部事務  
所ノ移轉セシコト二回、終ニ三十五年二月一日ヨリ京橋區三十間堀一丁目二番地ニ移リ、殘務  
取扱ニ際シテ内幸町一丁目五番地ニ轉シタリ  
本會委員長ハ巴里博覽會閉會後モ同地ニ留リ、同博覽會ノ殘品ヲ「グラスゴー」ニ回送シ、諸般ノ

調査計畫ヲ立テ、二回英國ニ往復シタル後、遂ニ三十四年三月十五日清水松本兩委員ト共ニ「グ  
ラスゴー」市ニ入り、博覽會裏門前ノ最モ便利ナル家屋ヲ相シテ支部事務所ニ充テ、直ニ事務ヲ  
開始シ、博覽會場内本會陳列場授受ノ手續ヲ濟シ、巴里ヨリ廻送サレタル出品物ノ搬入、陳列及  
陳列館ノ修繕、塗替、裝飾等大要整頓シタルヲ以テ、豫期ノ如ク五月二日博覽會開會ノ當日ニ開  
館シテ縱覽ヲ許スコトヲ得タリ、サレド本邦ヨリ輸送ノ出品物大半未着ノ爲メ、館内階上ハ未  
タ一般縱覽人ノ昇降ヲ許サ、リキ。本邦ヨリ輸送セシ出品物ハ三十五年二月ヨリ六月ニ亘リ、  
本會ノ取扱ニ屬スルモノアリ、出品人各自ノ直送ニ係ルモノアリ、區々一定セサリシト雖、六月  
中ニテ其發送ヲ終リタリ。故ニ支部ニ於テハ八月初旬漸ク出品物全部ノ陳列整頓ヲ告ゲ、同六  
日ヲ以テ開館式ヲ舉行スルノ運ヒニ至リシナリ

本部ニ於テ政府ヨリ補助金ノ下附ニ接セシハ三十四年五月四日ニシテ、同月二十四日ニ村上  
窪田ノ兩主任本邦ヲ出發シ、米國ヲ經テ急行シ、六月二十三日「グラスゴー」ニ到着シタリ。此ノ如  
ク補助金ノ下附延引シタルト、出品物ノ輸送後レタルトニヨリ、計畫モ亦多少變更スルノ必要  
アリ、四月末豫算ノ變更、役員ノ改任ヲ見ルニ至レリ

支部ニ於ケル本會取扱銀行ヲ「グラスゴー」「クライデステールバンク」(博覽會取扱銀行)ニ定メ、賣  
上金ト經費トヲ區分シテ取扱ハシメタリ、又出品物販賣ニ付テハ、總テ傳票ニ依ルコト、ナシ、  
其傳票ヲ二種ニ分ツ。即チ賣約傳票ハ三紙トナシ、第一紙ハ賣約品手付金領收證ニ充テ之ヲ買  
客ニ渡シ、第二紙ハ現金ニ添エテ會計課ヘ廻付シ、第三紙ハ販賣係ノ手許ニ保管スルコト、ナ



セリ、又其ノ即賣傳票ハ二紙ニシテ、出品物ト代金トヲ直ニ引換ユルカ故ニ、買客ニ渡ス可キ領收證ノ必要ナキヲ以テ、第一紙ヲ會計課ヘ現金ヲ添ヘテ廻付シ、第二紙ヲ販賣係ニ於テ保管スルコト、ナセリ。而シテ會計課ノ賣上帳ト、出品課ノ出品臺帳販賣記入トハ、賣約ノ翌日直ニ調査照合シテ、互ニ誤謬滯滞ナキヲ期シタルカ故ニ、閉會ト同時ニ賣約品ノ發送及賣上代金ノ計算ト殘品ノ引渡シトヲ、迅速ニ且ツ明確ニ執行スルコトヲ得タリシナリ。

閉會後滿一ヶ月ヲ以テ支部事務ヲ結了セントノ方案ヲ立テ、閉會ノ習日ヨリ委員事務員等總出勤シテ、賣約品ノ發送並ニ代金徵收、殘品ノ調査及荷造ヲ爲スト共ニ、現場出張ノ出品人ニ對シテ直ニ殘品ノ引渡ヲ行ヒタル後、本邦還送品及巴里倫敦ヘ廻送スヘキ殘品ノ荷造、搬出及陳列館掃除、裝飾取外シ等一切ノ事務、豫定ノ如ク十一月九日ヲ以テ全ク終了シ、博覽會事務局ニ向テ建築物及場所ノ引渡ヲ了シ、一部事務員及書記雇員ノ任務ヲ解キ、以テ支部ヲ引拂ヒタリ。鹽田委員長ハ松本及清水兩委員ト共ニ二十二日、グラスゴーヲ出發シ、佛國ヲ經テ印度洋ヲ航シ歸朝スルコトナリ、村上及窪田兩主任ハ十日ヨリ十三日ニ至ル四日間倫敦ニ滯留シテ、同地出品人トノ間ニ於ケル物品引渡及賣上代金拂渡、日本郵船會社トノ交渉、公使及領事ニ對スル報告、銀行勘定等最終ノ事務ヲ完了シ、十四日出發米國ヲ經テ三十五年一月十三日窪田委員先ツ本邦ニ歸着シ、鹽田委員長村上委員、中里、倉元兩事務員等ノ歸着ヲ待チテ、二月一日本部事務所移轉ト共ニ出品人ヘノ報告賣上代金計算ノ事務ニ取り掛リ、三月中ニ殘品引渡及賣上金ノ拂渡全ク終了シ、次テ五月十五日祝宴會ヲ開キ、同十六日政府ニ對シ會計報告ヲ爲シ、同二十七日

役員ヲ解任シ、六月以降殘務ヲ取扱フコト、爲セリ

### 第三節 祝宴會

五月十五日午後五時ヨリ、本會事務結了ノ報告ヲ兼ネテ祝宴會ヲ上野公園内梅川樓ニ開ク、來賓ハ平田農相、阪谷大藏總務長官、平山名譽贊助員、織田農商務參事官、山脇秘書官及新聞記者等數名ニシテ、本會役員、事務員等ノ參會セシモノ總テ三十余名、鹽田委員長ハ會頭ニ代リテ事務ノ概要ヲ報告シ、窪田會計主任ハ會計報告ヲ爲シ、終リニ祝宴ヲ開キ數番ノ餘興ヲ添ユルアリ、相共ニ本會事業ノ圓滿ナル結果ヲ奏センコトヲ祝シタリ



## 第八章 結 論

### 一、博覽會ノ好意

「グラスゴー」博覽會ハ初メヨリ本會ニ對シテ特別ノ厚意ヲ表シタル者ナリ。本邦政府ノ參同ナカリシハ彼ノ痛ク失望セシトコロニシテ、巴里博覽會開會中本會創立ノ事アルヤ深ク望ヲ屬シ、勸誘派遣委員ヲシテ規定外ノ取扱ヲ爲サシメ、遂ニ本會總代委員ノ「グラスゴー」出張ニ際シテ、特別館ノ貸與ヲ始メトシテ、種々ノ便宜ヲ附與スルコトヲ認容シ、其待遇モ亦各國ニ下ラス、開會中出品物ノ搬出入等、總テノ事件ニ付キテモ專ラ本會ノ利便ヲ計レル等、其厚遇蓋シ他ニ比類ナキ所ナリ、又博覽會ノ閉ツルニ際シ、事務長ヘドレー氏ヨリ左ノ如キ書面ヲ送致セリ

此ノ博覽會ノ閉會期日ハ皇帝陛下ノ天長節即十一月九日(土曜日)ト決定致シ候此ノ決定ヲ御通知申上クルト同時ニ拙者ハ博覽會役員ヲ代表シ貴會ノ此博覽會ニ參同出品相成リ有益ナル御助力ヲ與ヘラレシコトヲ深謝シ且ツ迅速平和ニ役員ヲ助ケテ博覽會ヲシテ著大ナル成功ヲ致サシメラレタル事ヲ感喜スル所ニ御座候諸役員ト共ニ直接ニ事務ノ衝ニ當リタル拙者ノ此ニ謝意ヲ表スル事ヲ御認容アランコトヲ希望致シ候、閉會式ノ順序其他出品取除ケノ事等ハ目下協議中ニ付決定次第直ニ御通知可申上候又各出品人ニ贈ル可キ紀念狀ハ目今製版中ニ付閉會前マデニハ發送ノ運ヒニ至ル可キ事ト存候間御承知被下度候

十月十日



エーチ、エー、ヘドレイ

又博覽會閉會後、同會頭ニ對シ本會ヨリ紀念品ヲ贈リシニ、會頭ヨリ本會委員長ニ宛テタル謝狀ハ左ノ如シ

拜啓貴下ヨリ小生ニ對シ「グラスゴー」萬國博覽會日本出品同盟會ノ紀念品トシテ受領可致様ニトノ御親切ナル尊翰ト共ニ御厚意ヲ籠メラレタル壹對ノ美麗ナル九谷焼花瓶ヲ受納致候小生ハ最大ノ悅ヲ以テ拜受シ且ツ貴下ニ對シ最モ熱心ナル感謝ヲ表シ候、貴國及ヒ貴國民ノ吾々ノ博覽會ニ於テ表明サレシ事柄ハ吾々一同ニ取リテ實ニ滿悅ニ堪エサル所ニ御座候而シテ此ノ博覽會ノ好結果ヲ生セシ事ニ付テハ慙カラサル御助力ヲ蒙リシ事ニ御座候小生ハ充分ナル注意ヲ以テ此ノ美麗ナル紀念品ヲ保存致シ且ツ禮儀正シク親切ナル點ニ於テ著名ナル大日本帝國ノ仁愛ナル友人諸君ヲ決シテ忘却致ス間敷候何卒小生ノ熱心ナル尊敬ヲ委員諸君ニ宜敷御傳聲アラン事ヲ希望仕候

十一月十四日

ロード、プロボスト、サミュエル、チズホルム

又同地名譽領事「ブラウン」氏ヨリハ左ノ如キ謝狀ヲ送ラレタリ

御親切ナル御禮狀ニ接シ却テ恐縮致候小生ノ微力ヲ貴會ニ致セシコトハ小生ノ喜ビ且ツ進ンテ盡シ候事ニ御座候貴下及其他ノ諸君ノ此ノ「グラスゴー」ニ付キテ愉快ノ感

情ヲ以テ御無事御歸朝サレン事ヲ祈リ候又諸君ノ此ノ國ニ御渡航相成リシ事ニ依テ益々日本ノ美術工藝品ノ需用ノ増加ト兩國間ノ人民ノ今後益々親密ナル交際ヲ増サシコト、ヲ希望致シ候此ニ貴下及ヒ委員諸君ヨリノ高貴ナル御贈品ニ對シ厚ク御禮ヲ申述ヘ併セテ諸君ノ當國ヘ御來航相成リシ紀念品トシテ喜ンデ永ク保存可致候

十月三十一日

エー、アール、ブラウン

九月初メ帝國軍艦三笠乗組士官三名部下ノ水兵二百余名ヲ引卒シテ「グラスゴー」ニ來リ博覽會觀覽ニ際シ「ブラウン」氏ノ斡旋ニ依リ、博覽會事務局ハ日本水兵ノ無料ヲ以テ、終日自由ニ博覽會ニ出入縦覽スルコトヲ許シ、又市民ハ一般ニ尊敬ノ意ヲ加ヘ、新聞紙ハ日本海軍ノ進歩及ヒ水兵ノ勇敢ヲ説キ、紹介シタルトコロ多カリキ

二、「グラスゴー」領事ノ報告

「グラスゴー」名譽領事ノ明治三十五年六月外務省宛報告中左ノ如キ記事アリ、摘記シテ參考トナス

昨年ノ「グラスゴー」博覽會ハ種々ノ點ニ於テ著シク大英國ニ於ケル古來未曾有ノ大博覽會ニシテ且ツ從來無比ノ成績ヲ擧ケタリト謂フベシ該會ハ「フアイフ」公爵夫人「ルイス」殿下同年五月二日ヲ以テ開會セラレ其時ヨリ閉會マテ世界ノ各部ヨリ觀覽人雲集シ其總數千四百四十九萬七千二百二十人ニ達セリ



内國工業及製造業者ノ大出品ノ外佛國、奧國、丁抹國、露國、日本國、ク非ンストランド、西濠洲、加拿陀、及ローデシア等ヨリ出品アリキ

該博覽會場ニ於テ最モ著シキハ機械部ニシテ特ニ建設セラレタル一大館ヲ之ニ充テ機械ノ分類ハ洵ニ美事ニシテ參觀者ハ各製作家ノ出品ヲ比較照合スルノ便宜ヲ得タリ

諸外國中佛國、澳國、及丁抹國ノ出品ハ重ニ粧飾品、奢侈品ニシテ就中佛國ハ高價ノ婦人服裝品ヲ出品セリ

露國ハ同國政府ヨリ三萬磅ノ補助金ヲ得テ毛羽殼類、細貨類、及材木ヲ出品セリ

クキーンストランド及西濠太利ハ各自鑛物殊ニ黃金事業ニ属スルモノヲ出品セリ

加拿陀ハ良好ニ其地ヲ代表スヘキ出品ヲ爲シ其鑛局部ハ同地ノ天然の大財産ヲ表影セリ何トナレハ加拿陀ハ經濟上ノ効用アル各種ノ鑛物ヲ産スレハナリ其外穀類、果物、農具、馬車等ヲ出品セリ

最後ニ日本ノコトヲ言ハンニ日本館ハ二階建ノ一大陳列所ニシテ場内最モ人氣ヲ牽キシモノ、一ニ數ヘラレタリ參觀人ノ多數ニ取リテ目新シキ觀アリタルヲ以テナリ

其出品物ハ重ニ美術品、絹類、陶磁器、漆器、象牙、花瓶、筒等ニシテ實ニ美麗貴重ナル出品ナリキ而シテ其當國及當市ノ人民ニ日本製造品ノ性質及種類ヲ知ラシムルニ十分ノ効アリ且ツ將來良結果ヲ生スヘキハ疑ヲ容レズ

日本館ニ於ケル販賣ハ亦好況ヲ呈セリ其結果一人ノ日本紳士ハ當市ニ止マリテ商店ヲ開キ日本製造品、茶等ヲ販賣スルコト、爲レリ

### 三、「グラスゴー」市ノ共有事業

「グラスゴー」市一般共有事業ノ事タルヤ、本博覽會ニ就キテハ直接ノ關係ヲ有セスト雖モ、其ノ内容ヲ窺フトキハ、博覽會ノ成功モ亦大ニ之ニ由來スル所アルヲ知ルニ足ルモノアリ、故ニ此ニ其ノ一斑ヲ概記スルコト、ナセリ

「グラスゴー」市ハ蘇格蘭ノ首府ニシテ、其地勢ヨリ觀ルモ、又歷史上ヨリ察スルモ、大不列顛國北方ノ倫敦ナリ、製造工業ノ隆盛ナルコト他ニ其ノ比ヲ見ス、英國ノ富源ハ實ニ此ノ「グラスゴー」ニ在リテ存ス、畜ニ富源ナルノミナラス、古來幾多ノ學者、戰士ヲ出シ、人民ハ勤勉勇敢ノ氣象ニ富ミ、自ラ我國古武士ノ氣風アリ、己レノ所信ヲ貫クニ當リテハ、獨立獨行毫モ他ノ干渉ヲ容レズ、自信ノ深キ所、公事ニ處シテハ一點私情ヲ插マス、政事家ノ勢力ト雖市行政上司政吏ノ志ヲ動スコト能ハス、故ニ自治制ヲ施ヒテ以來此ニ數百年、市政ノ整頓、自治ノ完備セル事、世界中此ノ市ノ右ニ出ツルモノナシト謂フ可シ、今同市ノ事業トシテ發達完健ナルモノ、中、交通、通信、水道、瓦斯等ノ事ニ付、倫敦領事ノ報告ニ基キ、左ニ其大要ヲ記ス

市街鐵道 同市々街鐵道ハ元ト私設會社ノ營業ニ属シ、千八百七十二年八月開業シテ、千八百九十四年六月マデ二十三年間營業ヲ繼續セシカ、其ノ結果市民ノ満足ヲ缺キ、旁々千八百九十四年六月以降ハ、市ヨリ許可シタル營業年限ノ盡キタルト同時ニ、市廳ハ自ラ該業ヲ担当シ、着